授業科目名	生活デザイン総論Ⅱ					
担当教員名	米田 三沙子					
学年・コース等	1回生	1回生				
授業形態	講義					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

開放科目の指示:「可」

### 授業概要

現代社会では、モノやお金、ヒト、情報が簡単に移動し、そのためさまざまな課題が見受けられます。そこで本授業では、現代社会に対応するために、「共生社会」「持続可能な社会」「リスク社会」に対する現状や課題を把握し、ファッションの力でわたしたちの身近な問題についての解決策を考え、これからの社会に対応できるような気付きと問題解決力を備えることを目的とします。具体的には「防災」「ジェンダー」「持続可能性」「インクルーシブデザイン」「経済・消費」「多文化共生」「デジタル・IT」などについて学び、その対応策について議論します。

# 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP1. 幅広い教養やスキル インクルーシブデザイン、多文化共生などの資 社会の課題を学び、再考する。 料を通して、社会の課題を知る。

汎用的な力

 1. DP4. 課題発見
 グローバル社会における自己の役割について課題をみつけ、実践に導く力を身につける。

## 学外連携学修

無し

### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論
- ·課題解決学習(PBL)

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

## 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「一」とします。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

ワークシート : 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価する。

30 %

課題レポート : 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価する。

30 %

発表 : 本学のルーブリックに基づき、評価する。

20 %

定期試験 : 本学のルーブリックに基づき、評価する。

20 %

### 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

田中治彦編著 『SDGSと開発教育 持続可能な開発目標のための学び』 学分社 水野大二郎+Synflux編著『サステナブル・ファッション ありうるかもしれない未来』学芸出版社

# 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所: 生活デザイン第3研究室

**備考・注意事項**: 授業の前後、オフィスアワーに対応します。

<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	震災・減災への取り組み	震災・防災ファッションをデザインする。	4時間
	実例から震災の現状と防災・減災の視点を学ぶ。また、ファッションデザイン領域からの防災・減災のアプローチについて考察する。		
第2回	持続可能な社会とシティズンシップ	シティズンシップ思想にそぐうファッションデザ インを提案する。	4時間
	持続可能な社会とはどのような社会なのか、身近な事例を 概説する。21世紀市民として生きるためには、知識のみならず、問題に関わり、どう解決していくのかの実践力が必 要である。シティズンシップ思想とその可能性について、 ファッションデザインでどのように実践するかを考える。		
第3回	ユニパーサルデザイン <b>/</b> インクルーシブデザイン	身近なユニバーサルデザインについて調べる。	4時間
	ユニバーサルデザイン・公共空間のユニバーサルデザインの事例を理解し、企業の製品・公共空間についても多様な配慮がなされていることに気づく。またユニバーサルデザインからインクルーシブデザインへの流れを理解する。グループディスカッションから、デザインの多様性とその意義について考える。		
第4回	多様な人々への理解と課題	校内の配慮点と課題についてレポートにまとめ る。	4時間
	障がいへの理解とその課題について、体験を通して学ぶ。 さらに校内リサーチを行う。		
第5回	セクシュアリティとジェンダー	ジェンダーレスと思われるファッションスナップ を集めておく。	4時間
	多様な人々への理解の一環として、現代社会でも課題となるセクシュアリティとジェンダーについての考えをファッションを通して深める。		
第6回	サステナブル・ファッション1	現代ファッションの課題を調べておく。	4時間
	国連のSDGS (持続可能な開発目標)から、社会における課題について知る。 またそれらの問題がどのようにファッションと関わっているのかを考え、議論する。		
第7回	サステナブル・ファッション2	レポートを作成する。	4時間
	映像を観て、現代のファッションの持続可能性についての 課題・問題点について考察する。		
第8回	衣生活におけるデザインの役割 1	ワークシートを作成する。	4時間
	ファッションの歴史を概観、デザインと機能性について学 び、現代における課題を考察する。		
第9回	衣生活におけるデザインの役割2	インクルーシブファッションをテーマにデザイン する。	4時間
	インクルーシブデザインの中でも特にファッションで何が できるのかを実例を通して理解し、衣服の役割について考 察する。		
第10回	多文化共生社会とは何か	移民問題について資料を集めておく。	4時間
	多文化共生社会を知るために、人種・エスニシティについ て学ぶ。		
第11回	多文化共生社会における生活文化	レポートを作成する。	4時間
	多文化共生に関する映像を観て、グループで議論し、レポ ートを作成する。		
第12回	デジタル・ファッション 1	ワークシートを作成する。	4時間
	今後発展が見込まれるデジタル・ファッションを概観する		
	写真・映像で事例を知る。		
第13回	デジタル・ファッション 2	レポートを作成する。	4時間
	デジタル・ファッションと周辺産業との関係性を知る。 自身でもリサーチを行い、レポートにまとめる。		
第14回	発表	発表資料の準備をしておく。	4時間
	後期の講義テーマによるファッションデザインを再考、グ ループで資料をまとめて発表する。		

授業科目名	生活デザイン総論 I					
担当教員名	米田 三沙子					
学年・コース等	1回生	1回生				
授業形態	講義					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

少子高齢化による人口減少時代の到来、高度な情報技術の発達によるグローバル化、地球環境問題の深刻化など、わたしたちを取り巻く環境は急激に変化し、、ライフスタイルや価値観は多様化しています。自分自身の生活をみつめ、どのように人生を組み立てていくのかを視座におきつつ、社会的、経済的、精神的自立をめざし、必要な生活資源について学びます。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP1. 幅広い教養やスキル 現代生活の諸相と生活設計の理解 現代社会の現状を知り、自己の生活設計を明確に

でき

1. DP4. 課題発見 現代社会の現状と課題を知り、課題解決できる。

## 学外連携学修

汎用的な力

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ·課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

ワークシート : 独自のルーブリックに基づき、評価を行う。

30 %

課題レポート : 独自のルーブリックに基づき、評価を行う。

30 %

発表 : 本学のルーブリックに基づき、評価を行う。

20 %

定期試験 : 本学のルーブリックに基づき、評価を行う。

20 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

特になし 授業にてプリント類を配布します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所: 生活デザイン第3研究室

備考·注意事項:

授業前後の質問を歓迎します。 指定曜日のオフィスアワーに対応します。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	導入・生活の一部を担うファッション	現在ファッションの世界にある課題・問題をみつ けて解決策を考える。	4時間
	仕事やプライベートのあり方など大きくライフスタイルが 変化している現在、ファッションを通して何が出来るかを 考える。		
第2回	多様な働き方	資料を中心にアルバイトについて考察する。	4時間
	非正規雇用と正規雇用の相違について学ぶ。 アパレル産業での働き方を知り、これからの働き方につい て考える。		
第3回	社会保障制度	社会保障制度について新聞記事を収集しておく。	4時間
	社会保険(医療・年金・雇用・介護など)について、その 利用の方法と問題点を考える。		
第4回	男女の役割分業から男女共同参画社会へ	課題レポートを作成する。	4時間
	男女の役割分業から男女協同参画社会への系譜、雇用形態 (正規・非正規・派遣など)の変化による社会システム、 生活システムの変化について学ぶ。	変化による社会システム、	
第5回	多様な家族と人生	家族の機能変化について、振り返りシートを作成 する。	4時間
	家族の変遷について学ぶ。現代生活における家族について 、ライフイベントから考察する。		
第6回	コミュニティとアソシエーション	ワークシートを作成する。	4時間
	近年見直されているコミュニティとアソシエーションについて学ぶ。また、これからのコミュニティ、アソシエーションについてファッションを通して考察する。		
第7回	資本主義と消費社会	ワークシートを作成する。	4時間
	資本主義の成立と消費社会からグローバル社会までの理解 を深める。		
第8回	資本主義とファッション	20世紀のファッションの成立について調べてお く。	4時間
	資本主義の発達にともない、ファッションは成立した。そ の流れを知り、今後のファッションまでを概観する。		
第9回	衣料の生産と消費	ワークシートを作成する。	4時間
	衣生活について、生産から消費までを学ぶ。そのうえで現 在の衣についての問題をグループディスカッションする。		
第10回	現代の消費とものづくり	衣料品、ものづくりについて資料を集める。	4時間
	ファッション・アパレル産業の消費の問題を理解し、考察 する。		
	また様々な分野のものづくりから産業を学び、これからの 生産・消費について考える。		
第11回	インターネットとデジタル時代1	日常的に使うSNSについて情報を得、まとめてお く。	4時間
	生活に欠かせないものとなったインターネットと、その機 能、メディアの基礎について学ぶ。		
第12回	インターネットとデジタル時代2	課題レポートを作成する。	4時間
	前回の授業を踏まえたうえで、これからのインターネット サービス、デジタル事業を考察する。		
第13回	贈与と資本主義 1	ワークシートを作成する。	4時間
	贈与というシステムについて学ぶ。		
第14回	贈与と資本主義2	ワークシートを作成する。	4時間
	前回の授業を踏まえて、現代にそぐう贈与のシステムにつ いて考察する。		

授業科目名	アパレル繊維学				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

繊維製品の商品企画、製造、販売、品質管理、消費などの様々な場面において発生する問題の把握と解決方法の提案には、それらに使用されている材料の理解が非常に重要である。本科目では、衣服を構成する繊維材料の最小単位と言える繊維について、その種類、構造、性質、製造プロセスの基本的知識を習得する。分子論的、微細構造的、形態的の様々な視点から考察し、繊維素材の製造技術、性能や機能のメカニズム、材料ごとの最適な用途の理由を理解する。また、繊維の見分け方や繊維製品表示に関する知識も身につける。

# 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

繊維は、天然繊維から化学繊維まで種類が極め 天然繊維と化学繊維の違いを説明できる。 て多いことを理解する。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

繊維は、種類により、特徴や形態が異なること 繊維の種類による特徴を説明することができる。を理解する。 2. DP2. 専門的知識·技能、職業理解

汎用的な力

繊維製品の企画・設計、製造、消費・管理時に生 じる諸問題を発見し、解決できる力を身に付け る。 1. DP4. 課題発見

### 学外連携学修

無し

## 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・その他(以下に概要を記述)

プリントを配布し、授業内容に沿って記述を行う。

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

## 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

前半のまとめとして「授業で得た知識を用いて、自分の考えを他者に的確に伝えられるか」という 観点から評価する。 中間テスト

30 % 定期試験

全体のまとめとして「授業で得た知識を用いて、自分の考えを他者に的確に伝えられるか」という観点から筆記試験にて評価する。

30 %

毎回授業終了時に行い、「授業内容をどの程度理解できているか」という観点から評価する。

% 20

20 %

授業外学習として、「授業で得られた知識を用いて、課題解決に向けてどのように考えているか」という観点について評価する。 演習課題

## 使用教科書

小テスト

特に指定しない

## 参考文献等

テーマに応じて適宜紹介する。

# 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。 被服の最小単位と言える繊維を科学的に取り扱う講義となります。被服に関する多くの気づきが得られると思います。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 水曜日

場所: 授業実施教室

備考・注意事項: 質問は授業の前後に応じる

計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	繊維の種類と歴史	普段着用している衣服の繊維は何かを調べ、どの 繊維が多いのかまとめる。	4時間
	繊維学で何を学ぶのか、繊維とは何か、いつからあるのか などについて説明する。		
第2回	高分子と繊維の関係	身の回りにあるアパレル製品以外の高分子材料に ついて、アパレル製品と似ているところ、異なる ところを調べる。	4時間
	繊維を構成している高分子とはなにか、高分子の構造や特 徴について学ぶ。		
第3回	繊維の構造と性質の関係	アパレル製品を使用していて体験した性能や品質 に関するトラブル事例を調べる。	4時間
	繊維の構造や形態が、繊維の様々な性能にどのように関係 しているのかを学ぶ。	に因りるドクノル芽切を刷いる。	
第4回	繊維の分類	天然繊維と化学繊維の違いについて調べる。	4時間
	構造や製造方法などにより、繊維がどのように分類される のかについて学ぶ。		
第5回	植物繊維(綿、麻)	綿と麻がどのように栽培されて繊維となるのかに ついて工程を調べる。	4時間
	天然繊維の中で最も身近に使用されている綿の構造や特徴 、用途について学ぶ。また、最古の繊維と呼ばれ、古くから衣服に用いられている麻の構造や特徴、用途についても 学ぶ。		
第6回	動物繊維(羊毛、その他の獣毛繊維)	獣毛繊維と毛皮の関係について調べる。	4時間
	動物繊維の中で最も生産量の多い羊毛の構造や盗聴、用途 について学ぶ。		
第7回	動物繊維(絹)	絹について、衣服以外の利用用途について調べ る。	4時間
	古くから高級品として用いられている絹の構造や特徴、用 途について学ぶ。		
第8回	中間テストと前半のまとめ	テストの結果、理解が不十分であった内容を確認 し、その項目を再度理解する。	4時間
	前半の授業内容の理解度を確認するため中間テストを行い 、その後これまでの内容を復習する。		
第9回	再生繊維(レーヨン)	レーヨンが使用されているアパレル製品を調べ、 その製品の用途、特徴について調べる。	4時間
	代表的な再生繊維であるレーヨンの製造方法、構造、特徴 、用途について学ぶ。		
第10回	半合成繊維(アセテート)	レーヨンとアセテートの違いを理解し、それぞれ の特徴をまとめる。	4時間
	代表的な半合成繊維であるアセテートの製造方法、構造、 特徴、用途について学ぶ。	S NAC OCCUPAN	
第11回	合成繊維(ナイロン、ポリエステル、アクリル)	身の回りで合成繊維が使用されている繊維製品を 調べ、その製品を用途、特徴について調べる。	4時間
	合成繊維の中で衣服によく使用されているナイロン、ポリエステル、アクリルの製造方法、構造、特徴、用途について学ぶ。	ma ( C-> actin 5/11/25/ 14 by 15 -> 1. Chia	
第12回	その他の合成繊維、合成繊維のまとめ	特殊な用途として用いられる衣服の種類を調べ、 その目的や特徴をまとめる。	4時間
	炭素繊維などの合成繊維について学び、合成繊維について 再度理解する。	C - MRV ( 10 MC OC C - / 80	
第13回	繊維の性能比較、繊維の鑑別	繊維の性能を理解し、着用用途に応じた繊維の選 択ができるようにまとめる。	4時間
	学習した繊維の性能を比較して説明する。また、繊維の鑑 別方法の紹介や混用率の計算を行う。	<del></del>	
第14回	新しい繊維、衣服と環境問題	衣料品のリサイクルの現状を調べ、リメイクする ならどのようなものにするかを考える。	4時間
		はひこいよりはないにりるかを与んる。	

授業科目名	アパレル材料学				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

繊維製品の商品企画、製造、販売、品質管理、消費などの様々な場面において発生する問題の把握と解決方法の提案には、それらに使用されている材料の理解が非常に重要である。本科目では、衣服を構成する繊維材料について、糸、織物、編物、不織布などの種類、紡績、製織、編成などの製造プロセスの基本的知識を習得する。また、これら材料の構造や性質が、衣服となった時にどのように用途、取り扱い方法、快適性、着心地などに関係するかについても理解できるようにする。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

紡績、製織、編成などの糸及び布の製造工程に ついて理解する。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

糸及び布の種類、特徴とそれらの性能つい て 理解する。 糸、布の種類、特徴及び性能の評価について説明 することができる。 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

繊維製品の企画・設計、製造、消費・管理時に生 じる諸問題を発見し、解決できる力を身に付け 1. DP4. 課題発見

# 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・その他(以下に概要を記述)

プリントを配布し、授業内容に沿って記述を行う。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

前半のまとめとして「授業で得た知識を用いて、自分の考えを他者に的確に伝えられるか」という 観点から評価する。 中間テスト

% 30

30 %

20

全体のまとめとして「授業で得た知識を用いて、自分の考えを他者に的確に伝えられるか」という観点から筆記用具にて評価する。 定期試験

毎回授業終了時に行い、「授業内容をどの程度理解できているか」という観点から評価する。 小テスト

20

授業外学習として、授業で得られた知識を用いて、課題解決に向けてどのように考えているか」という観点について評価する。 演習課題

繊維が布になるまでの工程に ついて説明できる。

# 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

テーマごとに適宜紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。 繊維から糸へ、糸から布へと構造的に構成される被服材料について、それぞれの段階での構造や性質を把握し、理解することは、被服の商品設計や商品、企画するとき、 被服を消費者としての取り扱いときに非常に役立つ知識が得られます。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 火曜日

場所: 授業実施教室

**備考・注意事項**: 質問は授業前後に応じる。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	糸の分類と製造プロセス	自身が着用している衣服を観察し、紡績糸あるい はフィラメント糸のどちらで構成されているかを 調べる。	4時間
	紡績糸、フィラメント糸等糸の種類について学び、製造工 程やそれぞれの特徴について学ぶ。		
第2回	糸の太さとより、表示法	ミシン糸や手縫い糸の違いを理解し、生地に応じ てどの番手が必要かをまとめる。	4時間
	糸番手の表示方法やより数、より方向について学ぶ。		
第3回	製織原理と織機の種類、織物の構造(平織)	平織を使用した衣服を調査し、その製品の用途と 平織との関係についてまとめる。	4時間
	織物の構造について学ぶ。平織の構造や特徴、組織図につ いて学ぶ。		
第4回	織物の構造(斜文線、朱子線、変化組織)	斜文織、朱子織を使用した衣服について調査し、 それらの特徴と違いについて調べる。	4時間
	前回の復習を行いつつ、三原組織について学ぶ。また、これらの基本組織から誘導された変化組織の例を紹介する。		
第5回	編機の種類と編物の構造(よこ編、たて編)	編物を使用した衣服について調べ、製品の用途と 編物の関係についてまとめる。	4時間
	編物のよこ編とたて編の基本組織について学び、それぞれ の構造、特徴、組織図について学ぶ。		
第6回	織物と細物の性能比較	使用目的によって織物、編物のどちらを選択すれ ばいいかをまとめる。	4時間
	前回までに学んだことを踏まえて、織物と編物の様々な性 能を比較し、その違いを学ぶ。		
第7回	不織布、布の構造因子	不織布を用いた繊維製品を調べ、不織布が用いら れる理由を考察する。また、含気率の計算を再度 行い、理解を深める。	4時間
	繊維同士を絡めて製造される不織布について、製造方法や 特徴について学ぶ。また、布を構成している重要な因子 ( 厚さ、目付、含気率等)について学ぶ。		
第8回	中間テストと前半のまとめ	テストの結果、理解が不十分であった内容を確認 し、その項目を再度理解する。	4時間
	前半の授業内容の理解度を確認するため中間テストを行い 、その後これまでの内容を復習する。		
第9回	布の性質(耐久性)	繊維製品の強度が必要とされる場面にはなにがあ るかを調べる。	4時間
	布の耐久性に関係する性質(引張り強さ、せん断、引き裂き強さ、摩耗強さ)について布の構造と関連付けて学ぶ。 また、それぞれの性能試験方法を紹介する。		
第10回	布の性質(形態的性質)	布のドレープ性と風合いに着目し、ワンピースを 製作するならどのような生地を選択するかをまと める。	4時間
	布の耐久性に関係する性質(弾性回復特性、剛軟性)について、布の構造と関連付けて学ぶ。また、それぞれの性能 試験方法を紹介する。		
第11回	布の性質(外観的性質)	自身の所有する衣服から、しわがつきやすいもの やピリングが生じやすいと実感しているものを挙 げ、布構造との関係から理由を考察する。	4時間
	布の外観に関係する性質(ピリング、しわ、風合い)について、布の構造と関連付けて学ぶ。また、それぞれの性能 試験方法を紹介する。		
第12回	布の性質(快適性)	着用時期に応じた生地の選択をするには、どの項 目に注視すべきかをまとめる。	4時間
	布の快適性に関する性質(吸湿性、吸水性、保温性など) について、布の構造と関連付けて学ぶ。また、簡易保温性 試験の方法や、吸湿性、透湿性、収着の違いについて学ぶ		
第13回	被服の性質	繊維製品を使用していて体験した性能や品質に関 するトラブル事例について、原因を考え、そのト ラブルを回避するための対策をまとめる。	4時間
	これまでに学んだ繊維、糸および布の構造や性質が、最終 製品としてどのように関わっているかを学ぶ。また、適切 な被服管理を行うための知識を学ぶ。		

第14回 **その他のアパレル材料、テキスタイルの将来(スマートテ** これからの社会で必要とされる衣服について、自 分のアイデアを考える。 近年注目されているスマートテキスタイルや、産業用に利 用されている繊維材料の事例などを学ぶ。

授業科目名	ファッションデザイン論					
担当教員名	百々徹					
学年・コース等	1回生	1回生 開講期間 前期 単位数 2				
授業形態	講義					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館 京都造形芸術大学空間演	神戸ファッション美術館学芸員として、企画・展示・保存・教育普及に従事 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科ファッションデザインコース教員として勤務				

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

本講義では、将来、ファッション業界で活躍するために必要となる基本的な知識を学びます。 「デザインとは何か」ということから考え始めて、ファッションデザインの歴史や民族衣装などの地域の広がり、さらには衣服のかたちや色についての捉え方や、それを 生み出すファッションデザイナーという仕事に至るまで、幅広い知識を身につけられるように、学んでいきます。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

ファッションだけでなく幅広い社会の仕組みや デザインに関する知識を得る 1. DP1. 幅広い教養やスキル

様々な知識をもとに、ファッションとそれを成り 立たせている社会の仕組みについて理解できる。 ファッション業界で働くために必要な基礎的知識 を学び、将来的に自ら考え、活用していけるよう になる。 ファッションのデザインと衣服の役割に関する 専門的知識 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

様々な資料や知識をもとにして、ファッション業界が抱える課題や問題を発見し、それに対する自らの見解を持てるようになる。 1. DP4. 課題発見

### 学外連携学修

## 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

#### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

毎回の小レポート 毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。

授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

60 %

## 使用教科書

期末試験

特に指定しない

#### 参考文献等

『改訂 アパレルデザインの基礎』 社団法人日本衣料管理協会 『史上最強カラー図解 世界服飾史のすべてがわかる本』 能澤慧子 ナツメ社 2012 『20世紀ファッションの文化史』 成実弘至 河出書房新社 2007

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 水曜お昼休み

場所: 生活デザイン学科 第2研究室

画信		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	デザインとは?	デザインとはなにかを、多角的に考え調べてみ る。	4時間
	あなたの身の回りを見渡してみてください。 そのほとんどが「どこかの誰かによってデザインされたもの」ではないでしょうか?	° ✓ °	
	そんなデザインという考え方はいつごろはじまったものな のでしょう。 この授業では、デザインというものの発生からその発展に ついて学んでいきます。		
第2回	<b>デザインの</b> ひろがり	21世紀に登場した様々なデザイン領域について調 べてみる。	4時間
	広くは都市や公園のデザインから、建築やインテリア、身の周りのプロダクツ、最近ではコミュニティやコミュニケーション・デザインという考えまで、デザインの領域は広がっています。 そのデザインの広がりとそれぞれの動向について学んでいきます。		
第3回	衣服のデザイン―歴史編	この授業で習った服のかたちの類型にあてはまる 衣服を、自分の身の回りに探してみる。	4時間
	ヒトの着衣の歴史は数万年にも及びます。 その長い歴史の中で、これまで様々な衣服のかたちが生み 出され、ヒトを飾ってきました。 この授業では、舌今東西の様々な衣服のかたちについて、 歴史を中心に学んでいきます。		
第4回	衣服のデザイン―民族編	気になる民族衣装を一つ選び、その民族の暮らし や衣服の成り立ちについて、調べてみる。	4時間
	世界中を見渡した時に、裸で暮らすヒトはいるでしょうか?		
	おそらくいないと考えます。なぜなら、一見裸に見えるようなヒトでも、腰ひもを巻いていたり、皮膚に模様を描いていたりするからです。 この授業では、世界中の様々な民族衣装の文化から、奇想 天外な衣服のかたちについて学んでいきます。		
第5回	衣服のかたち	丸、三角、四角、台形、菱形といったかたちの衣 服の例を自分で調べてノートに書き留めておく。	4時間
	丸、三角、四角、台形、菱形など、数々の幾何学的なかた ちはありますが、衣服のかたちもまた、それらの幾何学的 なかたちと布が生み出す流体のかたちから構成されていま す。		
	。 プロポーション、バランス、コーディネーションなど、フ ァッションにとっても重要な衣服のかたちについて、その 基本的な要素を学んでいきます。		
第6回	色をまとう	自分のお気に入りの色について、その歴史と染め 方について調べてみる。	4時間
	19世紀の半ばに英国人ウィリアム・パーキンが合成染料を発明してから今日まで、衣服はとても鮮やかでカラフルになってきました。では、それ以前の長きに渡り、ヒトはどのようにして布を染めて身にまとってきたのでしょう。この授業では、衣服の色に焦点を当てて、その成り立ちからコーディネーションにいたるまで、広く学んでいきます。		
第7回	ファッションデザインの基本的な考え方	ファッションデザインが現代社会に対してはたす 役割について調べ考えてみる	4時間
	私たちの表面のほとんどは衣服で被われています。とすれば、衣服は私という存在をかたどっているとも言えます。 衣服をデザインするということは、それを身にまとう誰か の存在をデザインすることでもあるのです。 この授業では、ファッションデザインの基本となるポイン トについて学んでいきます。		
第8回	ファッションデザイナーという仕事	自分の気になるファッション・デザイナーについ て、できるだけ詳しく調べておく	4時間
	世界で最初のファッションデザイナーは誰でしょう。 一説によればマリー・アントワネットのドレスをデザイン していたローズ・ベルタンだと言われています。 この授業では、ファッションデザイナーという存在の変遷 と、21世紀における社会的な役割について学んでいきます。		
第9回	テキスタイルとファッション	自分のワードローブの中から着心地が気に入って いる1着を選び、その素材について調べておく	4時間
	私たちが着ているほとんどの衣服はテキスタイルでできています。テキスタイルとは織物や編物、不織布などの多様な繊維製品を表しますが、その作り方や風合い、効能は、衣服づくりにとっても重要な意味を持っています。この授業では、天然繊維や化学繊維など多岐にわたるテキスタイルの、その素材や製法とファッションデザインとの関わりについて学びます。		
	衣服とフォルム	今年の夏に流行しそうな衣服のフォルムを、雑誌	4時間

	いま世界中の人が着ている衣服のかたちは、まさに千差万別です。 地域によっても時代によって異なれば、去年に流行した衣服のフォルムと今年の流行とはまた異なります。 ところが非常にバリエーションがあるとはいえ、衣服は人がまとい暮らすものである以上、無限のフォルムは持っていないのです。 この授業では、素材や物性、あるいはそれが着られる社会環境のなかで生み出される衣服のフォルムについて学びます。		
第11回	衣服と人体	自分の体形の特徴を考えながら、自分の持ってい る衣服がどのようにブラスに寄与しているかを考 えてみる	4時間
	衣服はそれだけで存在するのではなく、人が着ることで初めて完成すると言えます。たとえそれがどれほどの手間暇をかけたものであれ、衣服は人が着て、動いて、暮らして、はじめて存在意義を持つものなのです。この授業では、人体、体形、身体部位などとファッションデザインの関わりについて学びます。		
第12回	ファッションと社会	自分の普段着ている衣服が、どのような社会的制 約を自分にもたらしているか考えてみる	4時間
	人は衣服によって社会とつながっています。 衣服を着ることで社会における自分の地位や役割を表して いますし、逆に社会の様々な制約をその一身に帯びてもい るのです。		
	この授業では、ファッションと社会のつながりについて、 経済的な側面も踏まえて、様々な角度から考えていきます。		
第13回	正装と盛装	日本人が気づかないうちにやってしまいそうな正 装に関する間違いの例を調べる	4時間
	もしある日、あなたの元に「ブラックタイでお越しくださ い」というパーティーの招待状が来たら、あなたは何を着		
	て出かけますか? 衣服を着ることには様々な意味がありますが、西洋にはドレスコードという厳しい装いのマナーがあるのです。 この授業では、そのドレスコードについて、歴史的な変遷 を交えながら、学んでいきます。		
第14回	まとめ―ファッションデザインの現在	まとめと確認の回を受けるにあたって、事前に自 筆ノートの整理を準備しておくこと	4時間
	大きな都市の繁華街には、ルイ・ヴィトンやグッチ、エルメス、シャネルといったラグジュアリーブランドの旗艦店が立ち並んでいます。 今や、当たり前のように日本人の生活に入り込んでいるこれらのブランドが、どのように誕生し発展し、さらに日本人に広がっていったのか、その変遷について学びます。		

授業科目名	アパレル設計実習I					
担当教員名	米田 三沙子					
学年・コース等	1回生	1回生 開講期間 前期 単位数 1				
授業形態	実習					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	該当する				
実務経験の概要	仏アパレル企業において	仏アパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。				

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。 平面である布地を用いて、立体である人体を美しくみせるにはどうすればよいのか? 平面でのパターン展開や立体裁断のテクニックを用いて洋服作りの基礎を学びます。 前期は基礎縫いのファイル作成、ノースリープワンピース製作を通して基礎的な上半身用衣服のデザイン、パターン展開の理解、基礎的な上半身衣服の立体構成、基礎的な手縫い技術、ミシンでの縫製技術を学ぶことを行います。

# 養うべき力と到達目標

具体的内容: 目標: 確かな専門性

ファッション業界で必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

ワンピースのデザインアレンジ、製作過程を通じて専門的技能を身につけることができる。 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を 理解する。

上半身衣服の展開、立体構成を理解し、衣生活に 活用することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

2. DP7. 完遂

自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える 計画を立てる力をつけることができる。

決められた期限の中で自分がデザインした製作物 を完成させることができる。

### 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

・実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

# 成績評価

## 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」 (評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業内制作課題1 基礎縫いファイル:基礎縫いの美しさ、正確さを評価する。

> % 30

授業内制作課題2 ワンピース:アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。

> 40 %

作業計画の自己管理 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。

> % 10

試験の課題を指定時間内に完成させ、出来具合を評価する。 試験

20 %

## 使用教科書

特に指定しない

# 参考文献等

授業時に紹介する

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所: 生活デザイン第3研究室

**備考・注意事項**: 基本的に在室時は対応しています。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	授業内容と実習用具について  ・ 単品製作と量産方式、立体裁断法と平面製図法の説明。 授業の方針を理解する。 ・ 実習用具の種類. 名称. 使用方法などを説明。	必要な道具を揃えておく	1時間
第2回	手縫いの基礎縫い・ミシン、アイロンの扱い方 ・使用する布や糸の素材、性質、名称など基本的事項の説明。 ・用布をパーツに裁断する。 ・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、 実習をする。 ・基礎縫いの必要性を理解する。	今週の授業内容を終えておく	1時間
第3回	ミシンの基礎鏈い ・ミシンの扱い方など基本的事項の説明。 ・	今週の授業内容を終えておく	1時間
第4回	実習をする。	ワンピースのデザイン資料を集めておく	1時間
第5回	・ワンピース基本パターンの説明・展開をする。 身頃パターン展開の基礎―Aライン展開 ・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を 学ぶ。 ・基本の洋裁用語の説明	集めた資料の中から参考にするワンピースを決め ておく	1時間
第6回	身頃パターン展開の基礎―Aライン展開、ワンピース制作 材料の説明 ・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を 学ぶ。 ・ワンピース制作に必要な布地、用尺などの説明。	自分の持っているワンピースの布地を確認してお く	1時間
第7回	ワンピースのパターン作成 1・製図  ・ワンピースパターンを作成する。 ・ベースのパターンを説明後、各自アレンジしたデザインでのパターン作成をする。 ・布の地直しの目的. 方法などを説明後、実習をする。	ワンピースに使用できる素材をマーケティングし ておく	1時間
第8回	ワンピースのパターン作成2・製図 ・ワンピースパターンの作成を継続する。 ・完成したパターンを整理する。	ワンピースに使用する素材見本を揃えておく	1時間
第9回	ワンピースのパターン作成3・製図~仮籠い1・トワル組み・布の地直しの目的. 方法などを説明後、実習をする。	ワンピースに必要な素材、付属を揃えておく	1時間
第10回	・標し付けの種類. 方法などを説明後、布に標を付ける。 <b>仮縫い2・トワル組み完成~ワンピースの制作1・縫製</b> ・仮構成 (仮縫い) の目的. 方法などを説明。 ・仮構成の縫製工程表を作成し、順序通り組み立てる。 ・仮構成したブラウスを試着し、鏡の前で体型の観察. 補正. デザイン修正を行う。 ・フィッティングの必要性を理解する。	使用する布地の地直しを終えておく	1時間
第11回	ワンピースの制作2・2000年を発表して、	縫製工程など予定を確認する	1時間
第12回	ワンピースの制作3・44製 ・ネック周りの構成方法の説明後、実習をする。 ・衿を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解 する。	衿のリサーチを行う	1時間
第13回	ワンピースの制作4・縫製 ・ 袖ぐり周りの構成方法の説明後、実習をする。 ・ 袖を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。	袖のリサーチを行う	1時間

第14回	ワンピースの制作5・縫製〜仕上げと提出	プレスを終え、細かい修正を行う。指定日に提出 する。	1時間
	・完成したワンピースの仕上げアイロンの方法の説明後、 プレスする。 ・完成したワンピースを使って各自コーディネートし写真 撮影。 ・指定日に提出する。 ・洋裁用語の復習・まとめ		

授業科目名	アパレル設計実習Ⅱ				
担当教員名	水谷 祥子				
学年・コース等	1回生 開講期間 前期 単位数 1				
授業形態	実習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

## 授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。1年を通してゆかた(成人用)を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解 とつくる技術を習得することを目標とする。それをふまえて、ゆかただけでなく日本の伝統としての和服を理解し、現代の生活での実践、また伝統を受け継ぎ伝えるとい う意識を持てるようにする。 1年の前半にあたるこの授業では、和裁用の基礎縫いの練習を中心に、和裁の知識・技術を身につけることとする。

# 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

ゆかたの布地や構成、名称、製作方法などを学習、理解し、実践する。 自分で作るゆかたをイメージし、適切な方法で縫い上げることができる。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

習得した知識、技術を用い、最後まで根気強くゆかたを作り上げることができる。 1. DP7. 完遂

## 学外連携学修

無し

### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

· 実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

# 成績評価

# 注意事項等

名称テスト

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

提出時に、正確さ、美しさ、内容を理解し分かりやすくまとめられているかにより評価する。 (3点×13個) 基礎縫いファイル

39 %

提出時に、美しさ(縫い目の大きさ、そろっているか、まっすぐに縫えているか、しごいてあるか等)、不足がないかなどを見て評価する。 運針用布

16

第5回授業時に各部の名称を20問中何問暗記できているかをテストし、評価する。

10 %

袖15点、背縫い、くりこし内あげ縫い、かけ衿縫い各5点で、それぞれポイントとなる部分を見て評価する。 定期試験(ゆかた)

% 30

各回授業に積極的に取り組めているか、授業態度(受講マナー、私語、携帯電話、忘れ物、授業で使用したプリント提出状況等)を減点方式で評価する。 受講状況

> % 5

## 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「いちばんやさしい和裁の基本」松井扶江監修(ナツメ社、2015年) その他、授業時に随時紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業の前後場所:授業の教室

**備考・注意事項**: なるべく授業の30分前から授業後1時間程度の間に教室で質問してください。

計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	授業方法・内容・教室・用具の使い方等の説明 基礎縫い 用布の裁断 授業の進め方、準備物と購入物等について学習する。	指定した糸、針など次の授業に必要なものを購入 する。 ゆかた地については下見をしておく。	1時間
第2回	基礎縫い用布を裁断し、準備しておく。 <b>運針の練習 基礎縫いファイルの作成1~とめ方、つなぎ</b>	正確で美しい運針ができるように、各自で運針用	1時間
21 <b>4</b>	方~	布に練習する。運針は、用布に規定の本数を縫って、9回目の授業の終わりまでをめどに提出する。基礎縫いの練習	
	運針時の正しい針の持ち方、姿勢、手の動かし方について 学習し、運針用布にその通りに縫ってみる。 和裁の基礎縫いについて、種類、使い方などを学習する。		
	糸のとめ方、つなぎ方について学んだ後、基礎縫い用布に 縫い、サンプルを作る。		
第3回	基礎縫いファイルの作成2~縫い方、きせのかけ方、くけ 方~	運針の練習、基礎縫いの練習	1時間
	経い方と、きせのかけ方、くけ方について学ぶ。基礎縫い 用布に縫い、サンプルを作る。		
第4回	基礎縫いファイルの作成3~しつけ方~ 基礎縫いファ イルの整理とまとめ 成人用ゆかたについて	作成したサンプルを基礎縫いファイルにまとめて 提出する。ゆかたの各部の名称を暗記し、名称テ ストに備える。	1時間
	しつけ方ついて学ぶ。基礎縫い用布に縫い、サンプルを作る。		
	作成したサンブルを整理し、名称、方法、要点などを文章 や図を使って自分なりにまとめる。 ゆかたの構成と名称について学習し、ゆかたに適した布地 について考える。		
第5回	探寸と寸法決め 名称テスト	採寸寸法より採寸表1を完成させ提出する。次の 授業までにゆかた地を購入し、布地に合った柄合 わせを考えておく	1時間
	前回学習したゆかたの形と名称について簡単なテストをおこなう。 採寸の方法についての説明の後、2人1組で採寸する。 柄合わせについて学習する。		
第6回	柄合わせと裁断方法について	ゆかたの構成と名称を確認し、しっかり理解して おく。柄合わせを考え、裁断の方法についてもよ く復習しておく。	1時間
	前回学習した柄合わせを考慮して裁断方法について学ぶ。 また、ゆかた巾着についても、作り方、準備物を確認して おく。		
第7回	裁断	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げ る。プリントの袖縫いの所を読んでおく。	1時間
	裁断方法について確認した後、柄合わせを考えながら各自 裁断する。 各パーツごとに、柄合わせの糸標をつけて提出する。		
第8回	袖標つけ 袖縫い1 (袖下、袖口下)	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上 げる。神縫いで使用する縫い方について、基礎縫 いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
	袖の標つけ、縫い方について学習し、縫い上げて提出する。		
第9回	袖縫い2(丸み、袖口) 運針提出	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上 げる。プリントの背縫い、くりこし内あげ縫いの 所を読んでおく。	1時間
	袖の丸みの作り方について理解し、縫い上げて提出する。 今回までに各自練習してきた運針用布を提出する。		
第10回	背縫い標つけ・くりこし内あげ標つけ	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上 げる。背縫い、くりこし内あげ縫いで使用する縫 い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備 しておく。	1時間
	それぞれの標つけの方法について学習し、標つけを仕上げ て提出する。		
第11回	背籠い・くりこし内あげ籠い1(主に背籠い)	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上 げる。背縫い、くりこし内あげ縫いで使用する縫 い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備 しておく。	1時間
	それぞれの縫い方について理解し、縫い上げて提出する。		

第12回	背縫い・くりこし内あげ縫い2(主にくりこし内あげ籠 い)	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上 げる。プリントの身頃の標つけの所を読んでお く。	1時間
	それぞれの縫い方、かくしじつけについて理解し、縫い上 げて提出する。		
第13回	身頃の標つけ	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上 げる。プリントのかけ衿つけの所を読んでおく。	1時間
	前身頃、後身頃の標つけについて学習し、標つけを仕上げ て提出する。		
第14回	かけ衿つけ	今までの授業でできあがっていないところがあれ ば仕上げる。問題のある所は縫い直し、やり直し をする。	1時間
	かけ衿のつけ方を学習し、縫い上げて提出する。 かけ衿つけの後、できあがっていない所を仕上げる。 前期で縫ったゆかたの部分が正確に縫えているかを確認す る。		

授業科目名	アパレル設計実習皿					
担当教員名	米田 三沙子					
学年・コース等	1回生	1回生 開講期間 後期 単位数 1				
授業形態	実習					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	該当する				
実務経験の概要	仏アパレル企業にて、デザイン、パターンなど衣服制作の実務経験有り。					

開放科目の指示:「不可」

## 授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。 平面である布地を用いて、立体である人体を美しく見せるにはどうすれば良いのか? 後期は前期で学んだパターン展開の復習の為にスカート作成を行います。 さらに、上半身見頃の復習と衿、袖など洋服製作に必要なディテールを学ぶ為、アウターの製作を行います。 規定の形をアレンジすることで、個性を洋服で表現する手段を学びます。

#### 養うべき力と到達目標

具体的内容: 目標: 確かな専門性

ファッション業界で必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。 基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

スカート、ジャケットのデザインアレンジ、制 作過程を通じて専門的技能を身につけることが できる。 下半身衣服の展開、立体構成やディテールを理解 し、衣生活に活用することができる。 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える 計画を立てる力をつけることができる。 1. DP5. 計画・立案力

決められた期限の中で自分がデザインした制作物 を完成させることができる。 2. DP7. 完遂

## 学外連携学修

無し

# 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

• 実験、実技、実習

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

# 成績評価

## 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業内制作課題1 スカート:アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。

30

40

ジャケット: 衿や袖などディテールの理解、アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。 授業内制作課題2

作業計画の自己管理 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。

> 10 %

試験 指定時間内に課題を仕上げること、出来具合を評価する。

> 20 %

#### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業時に紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所: 生活デザイン第3研究室

**備考・注意事項**: 基本的に在室時はいつでも対応します。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	スカートの原型の扱い・基本デザインパターンの作図	デザインするための資料を集める。	1時間
	・スカート原型の製図方法を学ぶ。 ・スカートの基本デザインパターンの製図方法(3種)を学 ぶ。		
第2回	自分のスカートパターンの作図 1	制作するスカートのデザインを考えておく	1時間
	・原型を展開し、自分のスカートパターンを製作する。		
第3回	自分のスカートパターンの作図2~スカートの制作1・縫 製	使用する生地や付属を揃えておく	1時間
	<ul><li>・布の地直しをする。</li><li>・スカート製作に使用する布の裁断。</li><li>・ファスナー付けなど基礎縫いの説明。</li></ul>		
第4回	スカートの制作2・縫製	自分の持っているスカートの付属を確認しておく	1時間
	・ウエスト周りの構成方法を説明後、実習をする。 ・デザインによってウエスト始末の方法が異なることを理 解する。		
	・ベルト芯. 芯地の必要性と扱い方を理解する。 ・カギホックの付け方を説明後、実習をする。		
第5回	スカートの制作3・縫製、仕上げ	ジャケットをデザインするための資料を集めてお く	1時間
	・完成したスカートの仕上げアイロンの方法を学び、プレスする。 ・スカートを着装し写真撮影、制作物提出		
第6回	アウター(ジャケット・規定モデル)の制作1・作図	資料を参考にデザインを考えておく	1時間
	・製作するアウターのデザイン分析を行う。 ・身頃パターンの展開を行う。		
第7回	アウター(ジャケット・規定モデル)の制作2・作図	ジャケットに適した生地のリサーチを行う	1時間
	<ul><li>・ 衿のパターンを引く。</li><li>・ ポケットなどディテールを決めてパターンを引く。</li><li>・ 抽のパターンの基本を学ぶ。</li><li>・ 基本の縫い方の説明</li></ul>		
第8回	アウター(ジャケット・個人モデル)の制作 1 ・作図	ジャケットに使用したい生地見本を揃えておく	1時間
	<ul><li>・制作するジャケットを作図していく。</li><li>・個々でパターンを修正する。</li></ul>		
第9回	アウター(ジャケット・個人モデル)の制作2・作図	自分の持っているアウターを確認し、ディテール のバリエーションを考えておく	1時間
	<ul><li>縫い代付けを行う。</li><li>接着芯のパターンも引き、パターンを完成させる。</li></ul>		
第10回	アウター(ジャケット・個人モデル)の制作3・生地裁断 と <b>純製</b>	生地や付属など必要なものを揃えておく	1時間
	<ul><li>・布の地直しを行い、裁断をする。</li><li>・表地、スレキ、芯地すべて裁断を終える。</li></ul>		
第11回	アウター(ジャケット・個人モデル)の制作4・縫製	パーツのロックミシン仕末を終えておく	1時間
	・ロックミシン箇所や縫製の注意点を説明後、各自縫製に 入る。		
第12回	アウター(ジャケット・個人モデル)の制作5・縫製	衿付けを終えておく	1時間
	・衿の縫製を説明後、各自縫製する。		
第13回	アウター(ジャケット・個人モデル)の制作6・縫製	袖付けを終えておく、ボタンの大きさを確認して おく	1時間
	・袖付けを説明後、袖を各自縫製する。		
第14回	アウター(ジャケット・個人モデル)の制作7・ <b>織製、仕</b> 上げ・提出	ステッチ、ボタンホールなど細部を仕上げ、提出 する。	1時間
	・ステッチの必要な箇所の説明後、各自ステッチを入れる		
	。 ・ボタンホールをあけ、ボタンをつける。 ・完成したアウターの仕上げアイロンの方法を学び、プレ スする。 ・指定日に作品を提出する。		

授業科目名	アパレル設計実習Ⅳ					
担当教員名	藤崎 美和					
学年・コース等	1回生	1回生 開講期間 後期 単位数 1				
授業形態	実習					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	該当する				
実務経験の概要	和裁実務経験23年(着物縫製をしています)					

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。 和裁の基本的な縫い方(運針と基礎縫い)を1から学んだり、1年を通してゆかた(成人用)を縫うことにより、 和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。 ゆかたの機製が完成した後は、ビデオ鑑賞を通して着付けと着物のたたみ方を学び、美しく着れるように練習することにより、 和服のマナーや伝統を考えたり今後の社会に役立つようにする。

#### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 着付けときもののたたみ方を学ぶ 着装を習得する。和服のマナーについても考える。

汎用的な力

1. DP9. 役割理解・連携行動 協同学習を通して協調性を養う。

# 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- 実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

# 成績評価

## 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「--」(評価しない)とします。

## 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

定期試験(浴衣提出) : 作品の内容で採点する。

60 %

着付けと畳み方 : 観点ごとに「1. 身についた」「2. 十分身についた」「3. 習得した」の3段階で到達点を採点する。

10 %

提出物 : 感想文やプリントの提出の内容で採点する(30点満点)。

10 %

受講態度 : 各回授業への積極的参加(発表や質問等は加点)や授業態度(受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点)を総合的に評価する。

未のがいてなる物目は吸ぶ)で心口でに呼叫する。

10 %

創作小物 : 創作小物の提出の内容で採点する。

10 %

## 使用教科書

特に指定しない

# 参考文献等

「和裁縫製」発行者:社団法人 日本和裁士会

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業の後(16:40~17:00)

場所: 授業の教室

**備考・注意事項**: 授業後以外で質問がある場合は助手にお伝えください。後日返答いたします。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	脇縫いをする	脇縫いをして提出する。	1時間
	脇縫いを学ぶ。		
第2回	衽の柄合わせと標をつけて、褄下くけ(1本目)	おくみの標をつけて提出する。	1時間
	プリントで柄合わせを学ぶ。 衽の柄を合わせて、標をつける。 褄下のくけを学ぶ。		
第3回	接下くけ(2本目)・前身ごろの標とおくみつけ(1本 目)	褄下をくけ、提出する。	1時間
	複下くけの続きをする。 前身ごろの標をつけ、おくみを縫い合わせる。		
第4回	おくみつけ(2本目)、おくみくけ	おくみを縫い合わせて提出する。	1時間
	おくみのつけ方と始末を学ぶ。 アイロンできせをかけ、おくみをくける。		
第5回	おくみくけ(2本目)、衿標つけ	おくみをくけて提出する。	1時間
	2本目のおくみをくける。 衿の標を学ぶ。		
第6回	<b>衿標</b> つけつづき、脇くけ	衿の標をつけて、提出する。	1時間
	衿の標つけを学び、衿つけに備える。 地衿と掛衿を縫い合わせる。 脇をくける。		
第7回	<b>衿つけ(下前半分)・脇くけつづき</b>	衿つけ (下前) を縫い上げ、提出する。	1時間
	衿の付け方を学ぶ。 脇くけの続きをする。		
第8回	<b>衿つけ(上前半分)・額縁と裾くけ</b>	衿つけ (上前) を縫い上げ、提出する。	1時間
	衿つけ(上前)をする。 額縁と裾くけを学ぶ。		
第9回	衿の始末 (掛衿間くける)	掛衿間のくけをして、提出する。	1時間
	衿にアイロンできせをかけて、掛衿間の衿の始末を学ぶ。 掛衿間をくける。		
第10回	<b>衿先留</b> 衿くけ(衿先まわり)	衿先をくけて、提出する。	1時間
	衿先の始末を学び、衿をくける。 仕上げて提出する。		
第11回	袖つけ1・2	袖付けをして提出する。	1時間
	袖付けを学ぶ。		
第12回	袖つけ始末1・2	袖をくけて提出する。	1時間
	袖付けの始末を学ぶ。 仕上げて提出する。 創作小物を制作する。		
第13回	袖つけ始末2(つづき)とアイロン仕上げ	完成した浴衣を提出する	1時間
	袖付けの始末をする。 アイロンで仕上げをして、浴衣のたたみ方を学ぶ。		
第14回	ビデオ鑑賞と着付け練習	小テストの勉強をする。	1時間
	ビデオ鑑賞で着付けを学ぶ(プリント提出) 感想文を提出する。 着付けの練習をする(帯結び)。		
第15回	小テストと試験(作品提出)	作品を仕上げて提出する。	1時間
	小テストをする。 作品(浴衣、創作小物、プリント)を仕上げて提出する。		

授業科目名	被服整理学				
担当教員名	澤田 和也				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

本授業では、日常生活と非常に関連の深い衣料品について、その素材特性から使用・保管に至る衣料品の取り扱い方について、生活と密着させて考える。最初に、衣服に付着する汚れの種類や特徴について解説した後、それらを除去するための理論について解説する。 特に「洗浄」については重点をおき、界面活性剤の特性や洗浄メカニズムを科学的に理解するために、実例を提示しながら解説する。また、日進月歩する機能性を有する 衣料品開発について、その最先端の枝術を紹介し、将来の衣料品についても考える。

目標:

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

衣料管理の中でも特に洗浄と堅牢性に重点を置き、その内容についての専門知識を身に付ける。

日常生活において生じるさまざまな取扱いトラブル (色落ち、形状変化・強度低下等の力学的性質変化)について、自身で考え原因究明ができるまでの能力を身に付けることができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

衣生活における諸事象について、受け身の理解姿勢ではなく原因を探る関心を持つことができるようになる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ·課題解決学習(PBL)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

#### 成績評価

### 注意事項等

毎回出席することを前提とし、規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

ミニレポート

毎回5点満点として14回実施し、総計を30点満点に換算する。 自己の考えを含めて詳細に記載されている(5点) 講義内容のみから記載されている(3点) 論点が的確ではない。(1点)

30 %

特定テーマに対する課題考察力

2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して15点×2回の30点満点で評価する。 社会的背景も含めて考察出来ている (20点) 授業内容のみで考察出来ている (10点)

% 30

定期試験

学期末に被服整理に関連する知識の理解度についての試験を実施する。筆記だけでなく、プレゼンテーションを含めた総合的な内容の試験とし、40点満点として成績評価に加える。

40 %

### 使用教科書

特に指定しない

#### 参考文献等

「繊維材料にフォーカスした生活材料学」榎本雅穂ら(アイ・ケイコーポレーション) 「ファッションと化学」日本化学会編(大日本図書) 「衣服管理の科学」片山倫子ら(建帛社)

## 履修上の注意・備考・メッセージ

日常の衣生活と密接に関連した授業内容であり、普段何気なく見過ごしている現象を再認識する授業でもある。 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 月曜日(1限)

場所: 生活デザイン第1研究室

**備考・注意事項**: オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

<b>注計画</b>		学修課題	授業外学修課題に
第1回	衣料繊維の特徴について	授業で解説した、普段着用している衣服につい て、どのような役割の衣服か?について考え直 す。	4時間
	ファッション素材として衣料品と生活との関わりについて 解説し、どの様な目的で被服整理を学ぶかについて解説す る。		
第2回	衣料繊維の役割について	普段着用している衣服について、特にスポーツ時 における着用の意味を普段の着用と比較しながら 考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
	ファッション素材として衣料品と生活との関わりについて 解説し、どの様な目的で被服整理を学ぶかについて解説す る。		
第3回	衣服の汚れについて	普段の洗濯の際に、何を考慮すべきかを考えてお き、それを発表できるようにしておく。	4時間
	衣服に付着する汚れの種類について解説し、それらがどのような性質を有するかについて理解する。その知識により、日常生活での汚れと洗浄についての関係を理解する。		
第4回	洗浄における界面活性剤について	界面活性剤とは何かを考える	4時間
	界面活性剤とは何かを説明し、身の回りに種々の形で存在 する界面活性剤について、その特徴や性質、使い分け方法 について講義する。		
第5回	洗浄剤に含まれる添加剤について	洗浄剤に含まれる添加剤の意味を理解し、洗剤の 種類の差によってどのような洗濯効果が得られる か?を考える。	4時間
	主として合成洗剤に含まれている種々の添加剤について、 その役割と混在させる意味を解説し、洗浄剤についての理 解を深める。		
	洗浄助剤の有無による洗浄効果への影響や、人間の感性からみた汚れ落ちと科学的な観点から見た汚れ落ちの差について解説する。		
第7回	洗浄機構について	普段の洗濯を効果的に行うためにはどのようなことを考慮すべきか、について考えておき、それを 発表できるようにしておく。	4時間
	洗浄において、親水性および油性それぞれの汚れの除去メ カニズムについて解説し、日常生活における効果的な洗浄 を理解する。		
第8回	仕上げと保管(方法)	普段の日常生活における衣服の収納方法を考え直 す。	4時間
	シーズンオフにおける衣服の保管方法について、その意味 や重要性を解説する。		
第9回	仕上げと保管(トラブル回避)	衣服の保管時におけるトラブルを思い起し、その 原因について考えておき、それを発表できるよう にしておく。	4時間
	シーズンオフの衣服の保管方法について、保管中における トラブルとその対処法について講義する。		
第10回	精練と漂白(メカニズム)	消費者が考える白さと、科学的な白さの違いにつ いて復讐しておく。	4時間
	精練と漂白の根本的な違いと、そのメカニズムの相違について理解する。また、蛍光増白剤の効果についても解説する。		
第11回	精練と漂白(素材による相違)	精練・漂白の具体的手段について、日常生活で 行っている方法と比較する。	4時間
	実際の糸状態での精練・漂白操作と、布状態での精練・漂 白の工程について解説し、その工程の違いを理解する。		
第12回	加工(一般仕上げ)	素材そのものの性質を引き出すために、どのよう な加工が施されているかを調べておく。	4時間
	繊維製品の後加工として、現在工業的に行われている加工 工程について解説する。また、それらの加工により、日常 の衣生活にどのような効果がもたらされているかについて 理解を深める。		
第13回	加工(特殊加工)	特定の性能を付与するための加工手段と繊維の性 状変化を考えておく。	4時間
	繊維製品に機能性を付与するために、現在行われている手 段について解説する。		
第14回	加工(将来技術)	将来の快適な衣生活のために考えられる加工を議 論できるようにする。	4時間

授業科目名	学外連携キャリア演習(インターンシップ)				
担当教員名	澤田 和也・伊東 義輝・百々 徹・米田 三沙子				
学年・コース等	1回生 開講期間 通年 単位数 1				
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

この授業では、アパレル・ファッション系等に関連した企業を中心に、夏休みに原則2週間を基本とした就業体験をします。例えば、事務的な業務のみならず営業活動や商 品企画、商品管理、サービス関連の仕事を実際に体験し、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。事前の説明会で希望者を募り、本人 の希望、面談によってインターンシップ先を決定します。決定後は事前に企業訪問を行い、企業での実習後、企業からの評価があり、レポートの提出や事後指導がありま

# 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

企業等での修行体験をすることで、学生が自己 の職業適性や将来設計について考える機会とな り、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が できる

決められた期間、条件を守りインターンシップを 完遂すること

社会人としての自覚や職業意識を育成する。

目標:

汎用的な力

1. DP7. 完遂

自身の目標を立て、企業の業務内容の把握ができ、業務を実行し、指導と評価を受けながら実習 を完遂すること

## 学外連携学修

## 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

#### 成績評価

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

企業内研修 企業の配属先責任者による評価

50 %

インターンシップ前後の学習度に関して、授業態度によって評価する。評価は独自のループリックによる。 事前·事後学習

レポート 終了後の活動レポートで評価する。評価は独自のルーブリックによる。

30 %

## 使用教科書

特に指定しない

# 参考文献等

特に指定しない

# 履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教室での事前学習8時間、企業でのビジネスインターンシップ80時間~120時間、教室での事後学習2時間を授業として行います。 ・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。

・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 月曜日(1限)

**場所**: 生活デザイン第1、2、3研究室

**備考・注意事項**: 専任教員の在室時間はいつでも対応します。

<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	インターンシップ説明会とインターンシップ先企業解説	企業研究をしておくこと	4時間
	事前学習:インターンシップの意義、教育的効果について 解説します。またインターンシップ先の企業についての理 解を進めます。 企業研究内容はアパレル・ファッション関 連会社などです。		
第2回	面談と身だしなみ・マナーに関する学び	身だしなみチェックリストを作成しておくこと	4時間
	事前学習:面談により企業先の希望を聞くと同時に、基本 的な身だしなみや言葉遣いの習得、身だしなみ、挨拶等の マナーを習得します。		
第3回	企業内業務の学習	授業内容を復習しておくこと	4時間
	体験学習に向けての心がまえ、守秘義務について学修します。企業に提出するインターンシップ用履歴書、自己 P R 書等の作成を行います。さらに自分自身の目標設定も行います。そのうえで企業に提出するための誓約書の作成を行います。		
	事前訪問に際しての注意事項や集合場所を確認します。		
第4回	企業事前訪問	インターンシップ中の業務日誌をつける準備をす ること	4時間
	インターンシップ先の企業を事前訪問し、インターンシップ内容の確認、注意事項について学びます。		
第5回	インターンシップ	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
	ビジネスインターンシップ(企業内研修) 1		
	ビジネスインターンシップ(企業内研修)2		
	ビジネスインターンシップ(企業内研修)3		
	ビジネスインターンシップ(企業内研修)4		
	ビジネスインターンシップ(企業内研修)5		
	ビジネスインターンシップ(企業内研修)6		
	ビジネスインターンシップ(企業内研修)7		
	ビジネスインターンシップ(企業内研修)8		
	ビジネスインターンシップ(企業内研修)9		
第14回	事後学習とまとめ	これまでの学習を振り返る	4時間
	事後学習:インターンシップを体験することによって得たこと、学んだことについてまとめます。体験後の事後アンケートを行う。これまでの体験を報告書としてまとめ、後日レポートとして提出します。		

授業科目名	販売論					
担当教員名	里谷 理恵	里谷 理恵				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2	
授業形態	講義					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	該当する				
実務経験の概要	ダンスコンテスト、ヘア 異業種とのプロジェクト 通して、クライアント様 出展。	ーコンテスト、ショ を立ち上げ、運営。 に寄り添い共に結果	ーなどにおける衣装の製作と 大学で学んだ心理学(認定心 とにつなげることを目指してい	販売の事業を運営。 理士資格)を活かし る。販売員経験有り	音楽業界、ダンス業界など ン、衣装製作とコーチングを )。Vancouver fashion week	

開放科目の指示:「可」

#### 授業概要

ファッション販売、ファッションビジネスにおける基本的知識の学びを深める。基本的知識を学び理解した上で、よりホスピタリティのある対応について考察し共有する ことで、理解を深めていく。時代や環境に合わせた接客について、新しく考え出せる視野を持って考察していく。接客販売に限らず、日常生活で必須の対人関係における コミュニケーション、自己基盤を整えることについてコーチングや心理学を盛り込みながら、より心地よいコミュニケーション、接客について講義を通して考察する。講 義後も、自ら進んで積極的に学び、コミュニケーションを円滑にする行動を、自分で考えて実行できる力へと繋げていけるよう、講義の振り返り、実践を重視する。

#### 養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的内容:

ファッション販売技術や商品知識を学ぶ。

2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

1. DP1. 幅広い教養やスキル

アパレル業界の職業、ファッション販売、 ファッションビジネスの知識を深める。 ブランドを分析することができ、同時にファション販売における自身のブランディングについても 考察できる。

目標:

接客スキル、販売技術のスキルを身につける。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

2. DP6. 行動・実践

3. DP9. 役割理解・連携行動

4. DP10. 忠恕の心

販売技術、商品知識の理解をもとに、現代社会の 多様化されるニーズや価値観に合わせたマーケ ティング、協働する提案を考察することができ る。

多様化する価値観や販売形態を学び、何が自分に とって良いのか、自分で責任を持って選び決める ことができる。

接客や販売における心理や技術の学び、グループ ワークにより、コミュニケーション力や自身の個 性のブランディングについても考察することで、 相互理解につながる意思疎通が円滑にできる。

プランドをリサーチし、ファッション販売における自分の意見や価値観についてもプレゼンテーションができ、相互理解ができる。

## 学外連携学修

無し

### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

# 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

講義の他に、課題レポート作成やグループワーク、プレゼンテーションを実施します。

# 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」とします。 欠席した場合は、授業内容や配布物について自ら進んで確認し、試験に備えること。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題レポート : レポートの内容及び考察、学習内容の確認問題などから評価する。

グループワーク、プレゼンテーション : 本学ルーブリックの基準に基づき評価する。

30 %

定期試験

筆記試験。「販売における基本的な知識を理解できる」「設問について適切な答えを書いている」 「講義での専門的知識の学び、コミュニケーション力の学びを持って、自分の考えを述べている」 などから評価する。

30 %

### 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

大沼淳(2018) 『ファッション販売3:ファッション販売能力検定3級公式テキスト』 一般財団法法人 日本ファッション教育振興協会、大沼淳(2018) 『ファッション販売2:ファッション販売能力検定2級公式テキスト』 一般財団法法人 日本ファッション教育振興協会・ションビジネス〔1〕改訂版:ファッションビジネス能力検 定3級の公式テキスト』 一般財団法人 日本ファッション教育振興協会・ビジネス〔1〕改訂版:ファッションどジネス能力検定3級の公式テキスト』 一般財団法人 日本ファッション教育振興協会・ビジネス〔1〕改訂版:ファッションとでジネス能力検定3級の公式テキスト』 一般財団法人 日本ファッション教育振興協会・商業界・『販促会議』株式会社宣伝会議・石井貴士(2017) 『勝てる場所を見つけ勝ち続ける 1分間ブランディング』ヨシモトブックス・

『ファッ 『ファッション 『ファッション販売』

#### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

#### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業の前場所:授業の教室

**備考・注意事項**: その他、連絡を取りたい場合はEメール(satotani@g.osaka-seikei.ac.jp)まで。Eメールには必ず学籍番号と氏名を入れること。

<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	ファッション販売の基礎知識	確認問題を解く	4時間
	ファッション販売とファッションビジネスの基礎知識、小 売業の業態などを学び、お店の在り方や備えるべきサービ スを考察し、販売の基礎知識を深める。		
第2回	ファッション販売技術の基本	確認問題を解く	4時間
	挨拶、言葉使い、電話対応など販売スタッフの接客についてはもちろん、社会に出た時に役立つ基本的なビジネスマナーを学ぶ販売員の1日の流れ、基本となる接客、販売業務と付帯業務、備品・商品管理、その付帯業務について学び、実践するスキルを身につける。		
第3回	購買心理と接客ステップ	確認問題を解く	4時間
	お客様が購入に至るまでの心の動きを知り、その心理に合 わせた接客ステップ、その具体的なポイントについて学ぶ 。		
第4回	お客様心理	確認問題を解く、レポートを提出	4時間
	お客様のタイプ別の事例を挙げ、その心理について学ぶ。 お客様観察、心理を想像する力についても考察し、共有す ることで、コミュニケーションについての理解を深める。		
第5回	商品知識	確認問題を解く	4時間
	アイテム、シルエット、サイズなどの商品における基礎知識と、商品管理の基本から不良品の見分け方も学ぶ。接客時に的確に説明できるスキルを養うとともに、商品企画やデザインにも役立てることができる視野の広い販売力を目指す。		
第6回	ファッションマーケティング	確認問題を解く	4時間
	どうすれば売れるか、情報収集と分析の基礎知識を学ぶ。		
	※次回パソコンを持参すること。		
第7回	ファッションコーディネーション	グループワーク, 発表	4時間
	店頭でのコーディネート、スタイリングを学ぶ。また、企 業におけるスタイリングを学ぶことで、販売時に的確な説 明ができるよう、広い視野を持った販売力を養っていく基 礎を身につける。		
	※次回パソコンを持参すること。		
第8回	プレゼンテーションカ	好きなブランドについて、理論的にその良さ、理 由をプレゼンする。その資料を作成する。	4時間
	接客販売、日常でのコミュニケーションにおいて必要になってくる、伝える力と聞く力。 プレゼンテーションについて学び、より効果的に他者に伝えること、言葉選び、より相手の考えを汲み取れるよう聞く力について学ぶ。 プレゼンテーション資料の作成。		
第9回	発表 1	評価表を記入する	4時間
	自分の好きなものを取り上げて、プレゼンテーションする、全員発表。 「自分の好きなブランド」について発表者の評価表を記入しながら聞く。 相互評価、質疑応答を通して共有する。 シャトルシート(プレゼン評価表)を作成する。		

第10回	発表2	評価表を記入する	4時間
	自分の好きなものを取り上げて、プレゼンテーションする 、全員発表。 「自分の好きなブランド」について		
	発表者の評価表を記入しながら聞く。 相互評価、質疑応答を通して共有する。 シャトルシート(プレゼン評価表)を作成する。		
第11回	売り場づくり:MD	確認問題を解く	4時間
	売り場やサイトについてのレポートを基に、MD(商品計画)の基礎知識を学ぶ。シーズンごと、月ごとに売り場での商品販売計画について学ぶ。		
第12回	売り場づくり:VMD	確認問題を解く	4時間
	ビジュアルマーチャンダイジングの具体的な手法、効果的 な商品の見せ方の法則を学ぶ。		
第13回	ホスピタリティとクレーム対応	グループワークをする	4時間
	ホスピタリティのある接客販売、顧客作りについて学ぶ。 クレーム対応について、対応を自分で考えコミュニケーションを見直していく。感情コントロールの基本を身につけ、落ち着いて対応できる土台づくりをしていく。また、コロナを経て急激に拡大しているアパレルECについて、メリット・デメリットについても考察する。		
第14回	ファッションビジネス基礎知識	確認問題を解く、レポートを提出	4時間
	ファッションビジネスの基礎知識を知ることで、販売まで の経路を理解し、視野を広く持って、店頭でスキルを発揮 できる販売能力を身につける。ここまで学んだ知識を振り 返り、接客販売を深める。		

授業科目名	ドローイング演習				
担当教員名	米田 三沙子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

本科目では、ファッションの専門的な学びとして、ファッションドローイングの表現技術を習得することを目的とします。 ファッション表現の第一歩となるデザイン画を描くために、衣服を身につける人体のプロボーションを理解し、様々なポーズ、顔やヘアースタイルの描き方を学びます。 そして、洋服の着装方法や画材を使用しての着色技法を習得します。その後、トレンドとデザインを学び、時代を反映するファッション表現ができるようになることを目標とします。

# 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

ファッションの専門的な知識、技能として ファッションドローイングの表現を学ぶことが できる。 トレンドとデザインを学び、時代を反映する ファッション表現ができるようになる。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

ファッションの専門的なドローイング技術、知識 を学ぶことで、将来ファッション業界で活躍する ために、今の自分に足りていないことを学ぶ。 1. DP4. 課題発見

# 学外連携学修

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

・実験、実技、実習

# 課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

# 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

T-SHIRTコンテストの提出物 T-SHIRTコンテスト提出物の完成度、現代性を評価します。

25 %

ウェディングドレスのデザイン画の完成度、現代性を評価します。 最終提出物

20 %

複数回、授業内課題の提出の完成度で評価します。 課題提出

30 %

定期試験 (作品提出) 課題の完成度、現代性を評価します。

25 %

## 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

高村是州著 『ファッションデザインテクニック』 グラフィック社

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所: 生活デザイン第3研究室

**備考・注意事項**: 授業前後、オフィスアワーで対応します。

<b>集計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	デザインとドローイングの概要説明	スタイル画の修正をしておく。	1時間
	ファッション業界の中でのデザインとドローイングの役割 を学ぶ。 自由なテーマでスタイル画を描く。		
第2回	基本プロポーションと着装	身体の向きと体重移動の関係を復習しておく。	1時間
	リアルな女性とデザイン画で描く女性のプロポーションの 違いを学ぶ。 ヌードを描く時の重要なポイントになる身体の向きと体重 移動を学ぶ。		
第3回	応用プロポーションと着装	布の動きの描き方を復習しておく	1時間
	身体の中心線、重心線、身体の向きを理解し、ポーズのバ リエーションを学ぶ。 スカート・トップスの着装姿を描く。		
第4回	顔・ヘアースタイル・ボディパーツの描き方	自分の好きな顔を描けるように復習しておく	1時間
	正面向きの顔の描き方(目・耳・鼻・口)とヘアースタイ ル、手、足の表現を学ぶ。		
第5回	アウトラインの描き方	ペンの種類と用途を理解しておく	1時間
	デザイン画の輪郭線となるペン入れを学ぶ。 ペンの種類と用途を説明。		
第6回	着色表現	画材ごとの特徴を理解しておく。	1時間
	画材の種類と用途、着色表現を学ぶ。 目的に応じた選び方と仕上がりの違いを説明。		
第7回	シルエットとファッションアイテムの理解	ドレープ、フレアー、ギャザーを描けるように復 習する。	1時間
	シルエットの種類、服のフォルム構成を学び、生地の動き 、ドレープ、フレアー、ギャザーなどの表現を学ぶ。		
第8回	テキスタイル表現	プリント柄ごとにどのような画材が適しているか 理解する。	1時間
	ドット柄・花柄・ストライブ柄・チェックなどプリント柄 の表現、トレンドの素材や、デニム、ツイード、ファー、 アニマル柄の表現を学ぶ。		
第9回	Tシャツデザイン	Tシャツのデザインのリサーチをする	1時間
	Tシャツデザインコンテスト応募に向け、プリントデザイン を考え、実際にイラストを描き、着彩する。		
第10回	アイテム画1(シャツ・スカート/パンツ)	衣服のつくりを観察し、理解する。	1時間
	シャツやスカート/パンツなどのアイテム画を学ぶ。縫製仕 様書・使われる用語について説明する。		
第11回	アイテム画2(ジャケットなどのアウター類)	人体に乗った布地の動きを復習する。	1時間
	ジャケットなどのアイテム画を学ぶ。		
第12回	オリジナルテーマからのデザイン展開1(テーマのリサー チ、ディテール展開)	個人テーマを考えておく。トレンドリサーチをし ておく。	1時間
	各自テーマを設定する。 トレンドのリサーチを行い、中から好みの3ディテールを選 び、展開する。		
第13回	オリジナルテーマからのデザイン展開 2 (デザインを考え、実際に描いていく)	デザイン画を描いていく。	1時間
	ディテールの展開を活用しながら、デザインのラフデッサ ンを行う。		
第14回	オリジナルテーマからのデザイン展開3(仕上げ)・まと め	着彩・デザイン画を仕上げる。	1時間
	全体のバランスを考えながらデザイン画を指定枚数選択、 着彩、仕上げまでの作業を行う。		

授業科目名	パターンメイキング I					
担当教員名	北谷 五月					
学年・コース等	1回生 開講期間 前期 単位数 2					
授業形態	実習					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する					
実務経験の概要	アパレルメーカーでパタ	アパレルメーカーでパタンナーとして勤務。量産パターンおよび縫製仕様書作成を担当。				

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

衣服の構造を理解し、平面(生地)から立体(洋服)へとイメージを具現化する為のパターンの基礎能力を養う。 各種デザインへの発展を目的にデザイン・素材に応じたパターン展開とディティールパターンの作図を学ぶと共に、各アイテムのトワール組みたて(仮縫い)を行い洋服 の構成を学ぶ。 また、各アイテムの基本的な縫製仕様を理解し、製品用パターン(工業用パターン)の制作とデザインを明確に他者に伝える為の縫製仕様書の作成を行う。

# 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 パターン記号などの専門知識、 デザインに応じたパターンの制作が出来る。 ダーツ移動などの基礎展開を習得する。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

期日までに各アイテムのパターン・トワールの制 作が出来る。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

#### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

## 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業内課題1 : 基礎的なパターン展開力・スカートのパターン・トワールの完成度で評価する。

25 %

授業内課題2 : パンツの構造の理解。パンツのパターン・トワールの完成度で評価する。

25 %

授業内課題3 : 身頃トワールの完成度、衿や袖などの構成の理解度で評価する。

25 %

授業への取り組み : 積極的参加・受講態度・授業ノート

10 %

定期試験 : パターン基礎(名称・記号・基礎展開)・1/4作図を含む筆記試験にて評価する。

15 %

## 使用教科書

特に指定しない

# 参考文献等

誌上・パターン塾 vol.1 トップ編 文化出版局 誌上・パターン塾 vol.2 スカート編 文化出版局 誌上・パターン塾 vol.3 パンツ編 文化出版局

# 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時限続きの授業を全15回(合計30時限)実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。 自身のワードローブで衣服の構成や縫製を研究しておくこと。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業後30分程度場所:授業の教室

<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題に
Ante a I	AL		かかる目安の時間
第1回	パターンメイキング基礎知識・スカート原型 パターンメイキング基礎(各部名称・採寸方法・定規の使い方説明・平面と立体) スカート原型作成	平面と立体について復習	2時間
第2回	スカート/R空TFIX スカート/パターン(個人原型作成)	ノートまとめ	2時間
N/4=111	スカートパターン・縫い代付け・パターンカット・生地の 地直し・裁断	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
第3回	スカートトワル組み立て	トワル完成させる	2時間
	スカートトワル組み立て・ファスナーの種類について		
第4回	スカートシルエットパターン基礎(1/2原型使用)	各シルエットパターン展開復習	2時間
	フレアースカートパターン ギャザースカートパターン マーメイドスカートパターン(2種)		
第5回	スカートシルエットパターン応用(1/2原型使用)	各シルエットパターン展開復習	2時間
	ョーク切り替えスカートパターン プリーツスカートパターン(3種) キュロットスカートパターン		
第6回	パンツ原型作成(実寸)	ノートまとめ	2時間
	パンツ原型作成(実寸) スリムバンツ・プーツカットパンツ・ワイドパンツ(1/4原 型使用)		
第7回	タックパンツパターン(実寸)	縫製手順をノートにまとめる	2時間
	タックパンツパターン展開(切りポケット・本股明き) 工業用パターン作成(パターン抜き取り・縫い代付け・パ ターン記号、名称記入)		
第8回	パンツトワール組み立て(1)裁断・ロックミシン	縫製手順をノートにまとめる	2時間
	シーチング裁断・接着芯貼り・本縫い(ポケット作成・フ ァスナー付け)		
第9回	パンツトワール組み立て(2)縫製・仕上げ	トワールを完成させる・縫製手順をノートにまと める	2時間
	パンツトワール作成・本縫い(脇線・股下・裾始末)・ベ ルト付け・完成チェック		
第10回	身頃原型作成(実寸)・ダーツ移動・袖パターン	様々な袖の種類・構造を調べてノートにまとめる	2時間
	身頃原型作成(実寸) 身頃と見返しの関係性・持ち出しについて説明 ダーツ移動・分散・分割(1/4原型使用)		
	身頃と袖の関係性・袖山の高さについて説明		
	袖の引き方 袖シルエットパターン (タイトスリーブ・フレアスリーブ ・パフスリーブ)		
第11回	衿パターン	様々な衿の種類を調べてノートにまとめる	2時間
	衿ぐりと衿付け線の関係性・衿の種類・構造について説明 衿シルエットパターン (スタンドカラー・ステンカラー・ フラットカラー・ボウカラー)		
第12回	身頃トワール組み立て(工業パターン・裁断)	見返し・衿に接着芯を貼っておく	2時間
	身頃と見返しの関係性・持ち出しについて説明 トワール用身頃パターン作成(ブラウス用原型使用・見返 し作成・ステンカラー・パフスリーブ) シーチング裁断・バイヤステープ作成		
第13回	身頃トワール組み立て(身頃籠製)	縫製手順をまとめる	2時間
	身頃トワール組み立て(身頃・衿付け)		
第14回	身頃トワール組み立て(袖籠製・まとめ)	トワールを完成させる・縫製手順をノートにまと める	2時間
	身頃トワール組み立て(袖作り・袖つけ) 身頃まとめ		

授業科目名	パターンメイキングⅡ					
担当教員名	北谷 五月					
学年・コース等	1回生 開講期間 後期 単位数 2					
授業形態	実習					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	該当する				
実務経験の概要	アパレルメーカーでパタ	アパレルメーカーでパタンナーとして勤務。量産パターンおよび縫製仕様書の作成を担当。				

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

衣服の構造を理解し、イメージを具現化する為のパターンの基礎能力を養う。 各種デザインへの発展を目的に、デザイン・素材に応じたパターン展開とディティールパターンの作図を学ぶと共に、各アイテム毎にトワールの組み立てを行い、衣服の 構成や縫製について理解を深める。 各アイテムの基本的な縫製仕様を理解し、工業用パターン・仕様書の作成を行う。 後期授業では、前期で学んだ基礎展開を応用しワンピース・ジャケット・コート等の重衣料のパターン・縫製仕様を習得。

# 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

ワンピース・ジャケット等の素材・縫製に付い 素材に応じたパターン展開が出来る ての知識を深める。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

1. DP7. 完遂

決められた時間内にジャケットの工業用パターン 作成およびトワール組み立てが出来る。

#### 学外連携学修

無し

# 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

• 実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

# 成績評価

## 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業内課題1 (ワンピース) ワンピースの構造の理解度・ダーツ移動の正確さ

10 %

授業内課題2 (テーラードジャケット) テーラードカラー・袖の構造の理解度、パターン・トワールの完成度で評価する。

35 %

授業内課題3 (ラグランジャケット) ラグランスリーブ・フードの構造の理解度・パターン・トワールの完成度で評価する。

20 %

ミニドレス 構成の美しさ・テーマ

> 10 %

授業への取り組み 積極的参加・受講態度・授業ノート

10

定期試験 パターン記号・各部名称・ダーツ移動・1/4作図などの筆記試験にて評価する。

15 %

# 使用教科書

特に指定しない

# 参考文献等

誌上・パターン塾 vol.4 ワンピース編 文化出版局 誌上・パターン塾 vol.5 ジャケット&コート編 文化出版局

# 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時限続きの授業を全15回(合計30時限)実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。自身のワードローブで衣服の構成や縫製を研究しておくこと。 パターンからトワール完成まで数回に分けて授業が進みます。休まないように出席する事が大切です。 やむを得ず休んだ場合は次の授業までに授業内容の確認をしておくこと。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業後30分程度場所:授業の教室

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	前期復習・フィット&フレアワンピース(1)身頃作図 (1/2縮尺サイズ)	ダーツ移動について復習	2時間
	身頃ダーツ移動復習 ワンピース身頃作成		
第2回	フィット&フレアワンピース(2)衿・袖作図(1/2縮尺サ イズ)	縫製手順をノートにまとめる	2時間
	袖・衿パターン		
第3回	ラグランジャケット(1)身頃・袖・衿作図(1/2縮尺サイ ズ)	縫製手順をノートにまとめる	2時間
	身頃パターン・ラグランスリーブ・フードパターン作成 工業用パターン作成		
第4回	ラグランジャケット(2)トワル裁断・身頃縫製(1/2縮尺 サイズ)	トワール完成・縫製手順をノートにまとめる	2時間
	シーチング裁断・接着芯貼り トワール作成(ラグランスリーブ・衿(フード)付け)		
第5回	ラグランジャケット(3)トワル鶴製・まとめ(1/2幅尺サイズ)	ショールカラーとテーラードカラーの構造の違い を調べてノートにまとめる	2時間
	トワール作成(脇・裾始末・まとめ・仕上げ)		
第6回	テーラードジャケット(1)身頃作図	ショールカラーとテーラードカラーの構造の違い を調べてノートにまとめる	2時間
	ジャケットの各部名称説明 布地の厚み・裏地について説明 身頃ダーツ移動・パネルライン・衿パターン作成		
第7回	テーラードジャケット(2)衿・袖作図	いせ込みについてまとめる	2時間
	待・見返し厚みだし 2枚袖の構造について説明 2枚袖パターン		
第8回	テーラードジャケット (3) 工業パターン	玉縁ポケットの構造を調べる	2時間
	工業用パターン作成・パターンカット		
第9回	テーラードジャケット(4)トワル裁断・身頃縫製	縫製手順をノートにまとめる	2時間
	シーチング裁断・接着芯貼り・身頃トワール組み立て		
第10回	テーラードジャケット(5)衿・ポケット縫製	縫製手順をノートにまとめる	2時間
	衿・玉縁ポケットトワール組み立て		
第11回	テーラドジャケット (6) トワル袖縫製・まとめ	縫製手順をノートにまとめる	2時間
	袖トワール組み立て・完成チェック・まとめ		
第12回	ディテールパターン	縫製手順をノートにまとめる	2時間
	円フリル・ドレープ・プリーツ		
第13回	ミニドレスパターン(グループワーク)	テーマをまとめる	2時間
	1/2サイズ原型使用 身頃パターン・スカートパターン		
第14回	ミニドレストワル(グループワーク)	ミニドレス完成レポート作成	2時間
	ミニドレス完成		

授業科目名	テキスタイル	基礎実験			
担当教員名	澤田 和也・坂下 理	穂			
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

被服繊維学、被服材料学及び被服整理学に関する分野の基礎的な実験を行い、繊維や被服材料の特性、消費性能について深く考える能力を養うとともに、被服の適切な取 り扱いについて理解を深めるようにすることを目的とする。いずれの分野においても「日常生活と繊維」をキーワードに繊維の特性、消費性能に関わる種々の実験を通し てその現象を体験する。また、実験に対する報告書の作成方法について基礎から習得し、論理的に実験現象を理解できる素養を身に付ける。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 実験科学的に繊維を評価する手段の基礎を学 び、実験操作の基礎を身に付けることができる 衣料管理士課程への基礎実験として、被服整理学 関連および材料学関連の基礎実験スキルを身につ ける。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

実験に失敗した場合の原因究明や対応策をグループで協力して考える力を身に付けることができる。

#### 学外連携学修

無し

#### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・課題解決学習(PBL)

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実験への取り組み状況

: 実験に対する姿勢や意欲を重視するため、積極的に作業に参加しているか、主体的な行動ができているか、実験に集中して正しい操作を行っているかの点について評価する。

20 %

実験レポートの内容

レポートごとに、実験内容や操作法の習得度と科学的な観察や考察ができているかを評価する。

60 %

定期テスト

実技テストと筆記テストを行う.実技テストはすべて個人ごとに行い、100分間で実験に対する考察力を評価する.筆記テストでは実験内容の理解が到達目標に達していかを確認する.

20 %

#### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

テーマに応じて適宜紹介する。

#### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

#### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 月曜日(1限)

場所: 生活デザイン第1研究室

**備考・注意事項**: オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	全体説明、(材料分野)繊維の性質(形態観察、燃焼性) テキスタイル基礎実験の整理分野、材料分野それぞれの内容について概説し、実験実施方法、実験を行う上での注意点、レポートの作成方法について説明する。また、繊維の鑑別の基礎となる2つの手法を学ぶ。まず、顕微鏡により各種繊維の形態観察を行う。その後、種々の繊維を燃焼させ、その燃え方、煙や灰の状態などを観察する。	前期の被服整理学における洗浄領域、アパレル繊維学の素材の種類について理解しておく	4時間
第2回	(材料分野) 糸の構造(糸の太さ) 糸の構造特性を調べる手法を学ぶ。測定した糸の長さと質 量から、糸の太さ(番手)を求める。	身の回りのミシン糸、裁縫糸など市販されている 糸について表記されている番手を調べる。	4時間
第3回	(材料分野) 糸の構造(より) 糸の構造特性を調べる手法を学ぶ。糸のより方向を判定し	身の回りのミシン糸、裁縫糸など市販されている 糸について表記されている糸のより方向を調べ る。	4時間
第4回	、検撚器でより数を測定する。 (材料分野) 布の構造(組織、糸密度)  布の構造特性を調べる手法を学ぶ。布の表面を観察し、織物と編物の判別を行う。さらに、織物については組織図を	布の構造、組織の種類とそれぞれの特徴について、製品の用途との関係を考察する。	4時間
第5回	作成する。糸密度の測定を行い、布の特徴を理解する。 (材料分野) 布の構造(厚さ、目付、含気率)  布の構造特性を調べる手法を学ぶ。布の厚さ、質量を測定し、目付、含気率を計算する。	織物のたて糸とよこ糸では異なる糸が用いられる 場合が多い。織物を作る人は織構造、糸密度など をどのように設計しているのかを調べる。	4時間
第6回	(材料分野) 布の性質 ( 防しわ性、剛軟性) モンサント法により織物のたて方向およびよこ方向の防し わ度を測定する。また、45度カンチレバー法およびハート ループ法による剛軟度測定も行う。	布のしわが何に起因しているのかを調査、考察する。	4時間
第7回	(材料分野) 布の性質(保温性) 各種試料の保温性を冷却法を用いて測定する。	布の構造と保温性との関係を考察する。	4時間
第8回	(整理分野) 石けんおよび人工汚染布  JIS規格に従い、モデル人工汚染布を作成する。またそれを 洗浄するための石けんの作成を行う。	モデル汚れの基本成分や、石鹸の構造を理解できるようになる。	4時間
第9回	(整理分野) 草木染による染色 種々の草木を用いて、媒染剤との組み合わせで色相変化を 確認する。	媒染剤の役割について理解する。	4時間
第10回	(整理分野) 綿布の漂白、綿布の蛍光増白 綿布に対し、複数の漂白剤により漂白と蛍光増白操作を行い、目視と表面反射率測定によりその効果を確かめる。	目視と表面反射率による白さの違いを理解できる ようになる。	4時間
第11回	(整理分野)人工汚染布の洗浄試験 モデル人工汚染布(自作および、市販)を洗浄剤(自作石 鹸および市販合成洗剤)で洗浄し、洗浄効果を確かめる。	洗浄による白度の向上を異なる洗浄剤により評価 し、その違いの意味を理解する	4時間
第12回	(整理分野) ドライクリーニング溶液の特性 ドライクリーングのしくみと洗浄性を確かめる。	水系洗浄と非水系洗浄の相違を理解する	4時間
第13回	(整理分野) 糸の合成 (レーヨン・ナイロン) と染色の基礎 6,10ナイロンおよび銅アンモニアレーヨンの糸を作成し、制作した糸の染色を試みる。	界面重合反応の概要を理解できるようになる。再 生繊維の基本的作成法を理解できるようになる。	4時間
第14回	(整理分野) オパール加工と繊維の違いによる染色性の差 綿・ポリエステルの混紡繊維に対して、綿の選択的除去を 行い、染色性の差を確かめる。	混紡と交織の違い、繊維と染料の相性を知る。	4時間

授業科目名	色彩学				
担当教員名	藤井 紀江				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	個人または企業様でのパ 専門学校にて関連科目を	ーソナルカラー診断 担当。	f及び配色アドバイス		

開放科目の指示:「可」

#### 授業概要

私たちの日常生活の中で「色」は様々なシーンで取り入れられ活用されています。実際に活用されている多くの「色彩」がどのように色の効果を発揮し、ファッションシーンやくらしの中でどのように活用されているのか知ることには意義があります。本授業では、色彩に関する基礎的な知識・理論について理解することを目標とし、さらにファッションの分野や実生活での色彩の活用方法を自分の力で考え役立てることが出来る様、色の特性、色彩心理、配色理論、色彩コーディネートを学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

色の持つ特性・色彩心理・配色理論を理解することで、漠然と受け止めている「色」というものを系統的・理論的に理解し、より幅広く色彩を活用することが出来る。 1. DP1. 幅広い教養やスキル 色彩の基礎知識の理解

色のイメージ・心理的効果・配色理論の総合的 理解 2. DP1. 幅広い教養やスキル

色の持つイメージ・与える心理的効果・配色理論 を総合的に理解することでより実践的にカラー コーディネイトができる。

汎用的な力

ファッションにおける色彩に関する課題を見つけることができる。 1. DP4. 課題発見

アパレル制作やインテリアにおける配色を企画・ 2. DP5. 計画・立案力 立案できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

小テスト 実習以外の授業での小テストを行い理解度を評価する。

10 %

提出物 各授業で出したワーク用プリント、実習課題の提出状況と提出物の評価を3段階でする。

40 %

定期試験 色彩に関する知識の理解度について定期試験を実施する。

> 30 %

20 %

各回授業への積極的参加(発表や質問)や授業態度(受講マナーや私語、携帯電話の取扱い)を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。 授業態度

# 使用教科書

指定する

· 年

**著者** タイトル 出版社 出版年

・ 新配色カード199a ・ 日本色研事業株式会社

## 参考文献等

色彩検定公式テキスト 2級編(2022年改訂版) A・F・T公式テキスト改訂版編集委員会 色彩検定公式テキスト3級編(2022年改訂版) A・F・T公式テキスト改訂版編集委員会

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業前後場所:授業の教室

場所:	授業の教室		
<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	色の分類と三属性とPCCS	今回の学びを復習する。	4時間
	・色を正確に表現して伝える方法について説明する。色を表す基準となる、色相、明度、彩度について解説し、色立体、表色系についても概説する。 ・PCC(日本色研配色体系)について、その構成や表示方法について解説する。		
第2回	PCCSの色相環とトーン表	今回の学びを復習する。	4時間
	・PCCSの色相環の構成と色相環の作成。トーン表の作成( ワーク用プリント配布)		1 1 1 1 1
	・PCCSのトーン表構成を学び、トーン表の作成(ワーク用 プリント配布)		
第4回	色とは(1)色が見える仕組み	今回の学びを復習する。	4時間
	色の見える仕組み・光の分光など、色を学ぶ上での基礎知識を説明する。 他、カラーカードを使って色のイメージを考察。		
第5回	色とは(2)眼の働きと照明と色(3)混色	PCCSの色相環とトーン表の完成	4時間
	・眼に入った光が脳に伝わる仕組みや眼の構造について解 説する。		
	照明光の種類や特徴、色の見え方への影響についても説明 する。		
	<ul><li>・色の三原色や色が混ぜ合わさることで別の色が生み出される仕組みについて説明する。</li></ul>		
第6回	色彩調和 (1)色相から配色を考える	ワーク用プリントの完成	4時間
	・PCCSの色相環を使い配色理論を学び、配色する力を養う		
	・カラーカードを用いて指定の配色を作る実施(ワーク用 プリント配布)		
第7回	色彩調和 (2)トーンから配色を考える	ワーク用プリントの完成	4時間
	・PCCSのトーン表を使い配色理論を学び、配色する力を養う。		
	・カラーカードを用いて指定の配色を作る実施(ワーク用 プリント配布)		
第8回	色彩調和 (3) 基本的な配色技法	ワーク用プリントの完成	4時間
	<ul><li>・アクセントカラー・セパレーション、グラデーションなど基本的な配色技法について学ぶ。</li><li>・カラーカードを用いて指定の配色を作る実施(ワーク用プリント配布)</li></ul>		
第9回	色彩心理 ①色の与える心理的効果 色の視覚効果	ワーク用プリントの完成	4時間
	(1) 色の与える心理的効果を感覚・連想・象徴をキーワー ドに学ぶ。		
	(2) 対比・同化・面積効果など色同士が互いに影響し合い 変化して見えることを学ぶ。 (ワーク用プリント配布)		
第10回	色彩心理 ②色の与える心理的・生理的効果	ワーク用プリントの完成	4時間
	・代表的な各色をテーマに心理的・生理的効果を学ぶ。 ・色の伝えるイメージを言葉に結び付けて捉える。 ・イメージワードに沿って、カラーカードを使って三色配 色を考える。		
第11回	配色実践①テーマ色ごとの色探し	雑誌などから写真を切り抜き考察	4時間
	・色にはそれぞれの心理的効果やイメージがあるが、実際にどう使われているのか。テーマ色ごとに雑誌から写真を切り抜き、配色カードを使ってその写真に使われているを探していく。写真を選ぶ基準は自分がいいなと思った写真。色を意識して見る、テーマカラーと配色されている色でどういうイメージを表現しているか確認することで自分の色の幅を広げる。		
第12回	配色実践②テーマ色ごとの色探し	課題の完成	4時間
Att o C	前回切り抜いた写真がどの配色に該当するかを考察する。		- 6 ee
第13回	配色実践③イメージでデザイン画に色付け	今回の学びを復習する。	4時間

	デザイン画に、それぞれのイメージを決め、イメージに沿った色を塗っていく。		
第14回	パーソナルカラー概要とイメージスケールの作成・ファッ ションと色彩(カラートレンド)	イメージスケールの完成	4時間
	・たくさんの色の中から「似合う色」を見つけるパーソナルカラー。自分に似合う色を知ることで色使いの幅が広がり、「色」というものを身近に感じ、色の楽しさを実感できる。 ・イメージによる色のイメージスケールを作成する。 ・ファッションビジネスにおいての色の重要性について説明する。		

授業科目名	衣環境学				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「可」

#### 授業概要

衣服は、着用目的や時期、部位などによって求められる機能が異なり、さらに、年齢や性別が違えば、サイズや形態だけでなく生理機能、運動機能および心理特性も異なってくる。よって、快適で健康的な衣服の設計には、着用する人の身体条件を取り巻く環境条件の相互関係を捉える必要がある。この授業では、人間の生理・心理・健康を基盤に、我々の生活環境と衣服との関係を理解し、着衣が人体に及ぼす影響と求められる衣服の機能や適した素材、デザインへの配慮を考慮し、快適で健康な衣環境を形成できる能力を身につける。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

「アパレル生理・衛生」分野の専門知識 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

衣料管理士として従事する職務に必要な能力の 修得 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

健康と快適性を追求したテキスタイル設計および アパレル設計を考え、消費者に適切にアドバイス する応用力を修得できる。

衣服と健康の関わりを理解し、TPOに応じた着衣のあり方を思考できる。

汎用的な力

快適で健康的な衣生活を実現するために、環境条件に適した衣服を選択できる。 1. DP6. 行動・実践

人間一衣服一環境系の中における着衣と健康との 関わりについて正しく理解し、衣服の適否とその 理由を他者へ伝えることができる。 2. DP8. 意思疎通

#### 学外連携学修

無し

## 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

プリントを配布し、授業内容に沿って記述を行う。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

#### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準

「授業で得た知識を用いて、自らの考えを他者へ伝えることができているか」という観点から中間評価する。 中間テスト

30 %

10 %

小テスト 毎回授業終了時に小テストを行い、「授業内容をどの程度理解できているか」という観点から評価

15 %

受講状況 授業で使用するプリントへの書き込みなどを独自のルールを基に総合的に評価する。

授業途中で演習を行い、「専門的知識を用いて、衣料管理士として消費者に適切な解答ができているか」等の観点から評価する。 演習課題

筆記試験を実施する。「授業で得た知識を用いて、自らの考えを他者へ伝えることができている か」という観点から評価する。 定期試験

30 %

#### 使用教科書

特に指定しない

#### 参考文献等

テーマに応じて適宜紹介する

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

#### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 火曜日

場所: 授業実施教室

備考・注意事項: 質問は授業の前後に応じる。

性計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	ガイダンス―なぜ衣環境を学ぶのか―/アパレルと健康に ついて	健康の定義についてミニレポートを作成する。	4時間
	授業の進行や概要、学ぶ意義について説明する。また、衣服の機能と、人間―衣服―環境の関係を理解し、健康で快適な衣環境について学ぶ。		
第2回	アパレルによる気候適応 I. 体温とその調節(前半)	様々な環境条件を想定して体温調節と熱移動につ いて考察する。	4時間
	健康の条件として、体温・皮膚温の定義や違い、測定方法 、体温調節と寒暑感の関係について学ぶ。		
第3回	アパレルによる気候適応 I. 体温とその調節(後半)	自立性体温調節と行動性体温調節の違いについて ミニレポートを作成する。	4時間
	自律性体温調節反応(皮膚血管反応や発汗反応)について 、行動性体温調節反応との違い、体温調節と環境温熱の因 子との関連について学ぶ。		
第4回	アパレルによる気候適応 Ⅱ. 衣服による気候調節	伝導・対流・放射・蒸発の違いについてミニレ ポートを作成する。	4時間
	快適な衣服気候とはどのような状態か、衣服を通して熱や 水がどのように移動するのか、衣服の形態や着装と衣服内 気候との関連について学ぶ。		
第5回	アパレルによる気候適応 Ⅲ. アパレル製品の保温性・放 熱性	授業日に着用していたクロ値を算出しておく。	4時間
	衣服の保温力と蒸発熱抵抗の単位や測定法と、着衣の快適 気候域について学ぶ。		
第6回	アパレルによる気候適応 Ⅳ. 気候適応障害の予防と対策	熱中症対策および冷え性対策のためにできること についてミニレポートを作成する。	4時間
	熱中症や低体温症、冷え性の予防と対策について学ぶ。		
第7回	中間テストと振り返り	確認テストの結果、理解が不十分であった内容を 復習して理解に努める。	4時間
	前半の授業内容の理解度を確認するため中間テストを実施 し、その後これまでの授業内容を復習する。		
第8回	アパレルの拘束性と運動機能 I. 身体拘束の指標と衣服 圧	日常生活の中でどのような場合に衣服圧が発生す るかについてミニレポートを作成する。	4時間
	衣服圧の発生要因と測定方法や、布地の伸長特性および身 体曲率との関係について学ぶ。		
第9回	アパレルの拘束性と運動機能 Ⅱ. 動作に伴う身体の変形 とアパレルの運動機能性	ジャケットを制作するにあたり必要なことについ てミニレポートを作成する。	4時間
	動作時の身体の変形とそれに伴う着衣に求められる運動機 能性について学ぶ。		
第10回	アパレルの拘束性と運動機能 Ⅲ. 衣服圧の人体障害とア パレルにおける有効利用	衣服圧はどのような着用場面で有効となるかにつ いてミニレポートを作成する。	4時間
	衣服圧における履物や寝具の圧迫が人体へ及ぼす影響と、 衣服圧の有効利用について学ぶ。		
第11回	アパレルと皮膚の生理・衛生	下着を清潔に着用するために必要な条件について ミニレポートを作成する。	4時間
	皮膚の構造と役割を理解し、皮膚に接触する下着や寝衣に 必要な条件、汚れによる機能性劣化や臭いの予防する加工 法について学ぶ。		
第12回	アパレルと健康をめぐる現代的課題 I. アパレルによる 障害と対策	衣服着用時に生じる事故を挙げ、その対策につい てミニレポートを作成する。	4時間
	衣服そのものによる危害と衣服による健康被害の回避対策 について学ぶ。		
第13回	アパレルと健康をめぐる現代的課題 Ⅱ. 高齢社会におけるアパレル	高齢者が健康に生活できるために、支援できることについてミニレポートを作成する。	4時間

	成人と身体機能や形態が異なる高齢者に適した衣環境につ いて学ぶ。		
第14回	アパレルと健康をめぐる現代的課題 II. 妊産婦・乳幼児 の衣服	乳幼児の衣服着用時における注意点を挙げるとと もに、妊産婦の衣服の種類について調査してまと める。	4時間
	妊産婦と乳幼児の身体機能と、各ライフステージに適した 衣服環境について学ぶ。		

授業科目名	ファッションビジネス概論				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館 神戸を中心として企業や	で学芸員として衣装団体の販売促進や集	長の研究・保存・調査・レクチ 長客向上のコンサルティング業	ャーなどの業務に従 務の実績を有する	<b>羊事した実績を有する</b>

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

本講義は、ファッション産業やマーケティングのこれまでの流れや、現状を学ぶことで、ファッションビジネスに関する基礎的な知識を身につけます。ファッションの専門分野で働くことを目指す人はもとより、生活者としての消費生活を営む上でも、有効となる"自ら考える能力"を養います。 授業では、最近のファッション業界の動向も踏まえて、変わりゆくファッションビジネスの状況を伝えながら、その構造と仕組み、さらには今まさに業界が抱える問題点や、今後の展望まで考えていきます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

ファッション・ビジネスだけでなく幅広い業界 の仕組みや問題点に関する知識を得る 1. DP1. 幅広い教養やスキル

様々な知識をもとに、ファッション産業とそれを 成り立たせている社会の仕組みについて理解でき る

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

授業から得た知見と、自ら調査した事柄をあわせて、業界や市場の現状の課題を検討し、将来に向けての展望を考える力を養う。

#### 学外連携学修

#### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。 毎回の小レポート

40 %

授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

### 使用教科書

期末試験

特に指定しない

#### 参考文献等

『改訂 衣生活のための消費科学』社団法人日本衣料管理協会 『ファッションビジネスの進化』 大村邦年 晃洋書房 2017 『Fashion Bussiness 創造する未来』 尾原蓉子 繊研新聞社 2016 『ザ・ファッション・ビジネス』 明大商学部(編) 同文舘出版 2015 『ファッションビジネスの文化論』 内村理奈 北樹出版 2014 『誰がアバレルを殺すのか』 杉原淳一・染原睦美 日経BP社 2017

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 水曜お昼休み

場所: 生活デザイン学科 第2研究室

計画		学修課題	│ 授業外学修課題に │ かかる目安の時間
第1回	消費科学とは	消費科学という言葉について、自分のわかる範囲 でできるだけ広範に調べておく	4時間
	21世紀に入ってこれまで拡大し続けてきた大衆消費社会も 大きな潮流の変化が見られ始めています。特に、消費者の 多様化と生産者の責任については、一層複雑な様相を呈し てきています。 このような状況の中でますます重要さを増す、消費科学の 役割や、特に繊維製品に関する消費科学のこれまでと現在 について学びます。	( ( ) ( )	
第2回	繊維製品の品質とは	授業で学んだ品質評価基準について、海外の事例 も含めてより広範に調べてみること	4時間
	消費者ニーズが多様化するなかで、繊維製品のバリエーションも多岐にわたっている昨今ですが、その分、品質の保証や評価の手法がますます重要になってきています。この授業では、衣服の品質評価とその試験方法や品質保障の現状について学んでいきます。	O D W C & J JACKET CHING - C W P W C C	
第3回	繊維製品の品質表示	自分が一番最近買った服の品質表示のタグを確認 し、そこに何が表示されているか調べておく	4時間
	2017年に繊維製品の組成や取り扱いについての表示方法が 大きく改正されましたが、それらの表示について正しい情報を消費者に対してしっかりと説明する義務が、衣服の生産・販売をする企業や店舗には発生してきます。この授業では、繊維製品の品質表示の概略と改正後の表示方法について学んでいきます。		
第4回	ファッションビジネスの仕組み	ファッションビジネスの仕組みについて自分で調 べたことも加味して、ノートをしっかりとまとめ る	4時間
	1着の衣服が手元に届くまでに、いったいどれほどの人が関わっているのでしょう? 様々な業態の企業が複合的に携わり、素材から製品化、流通などの工程を経て、ようやく店頭に並ぶのです。この授業では、ファッションビジネスを構成している、多種多様な業態を紹介し、その仕組みについて学びます。		
第5回	繊維産業とファッションビジネス	日本の繊維産業の現状について自分で調べたこと も加味して、ノートをしっかりとまとめる。	4時間
	日本の繊維産業のなかには、海外のラグジュアリーブランドと取引している企業もあります。 年々縮小している産地の現状も事実ですが、その一方でまだまだモノづくりの国としての可能性を秘めてもいるので		
	す。 日本を中心とした繊維産業について、糸から織り布、染色 の産地の実状や、新素材開発の取組み、国外からの需要な どを、学びます。		
第6回	ファッションビジネスにおける企画と生産	アパレルメーカーの現状について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりとまとめる。	4時間
	服づくりには、単にモノづくりの要素だけではなく、物語づくりの要素も不可欠です。 日本の服づくりの中核を担うアパレルメーカーの企画や生産、ビジネス運営について、海外の実状とも比較しながら、学んでいきます。		
第7回	ファッションビジネスにおける製造と流通	SPAと呼ばれる業態について自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりとまとめる。	4時間
	グローバル化する現代のファッションビジネスにおいて、 どこで製造し、どこで販売するかは、まさに地球規模にな りつつあります。 それらの工程を管理し、品質を高めていくことが、ビジネ スの成功においても非常に重要な要素となります。 流通戦略や流通チャンネルについて解説します。またSPA( 製造小売業)などの実状についても学んでいきます。		
第8回	ファッションビジネスにおける小売りと販売	自分の身近にあるファッション店舗について自分 で独自に調べたことも加味して、ノートをしっか りとまとめる。	4時間
	2000年代以降、急速に増えつつある大型ショッピングセンターは、ファッションビジネスにおける小売りと販売の形態について、いま大きく変わりつつある一つの要因ともいえます。 多様化する小売りの業態と現状、さらに販売のあり方について、学んでいきます。		
第9回	消費者とその行動	消費者行動と店舗との関係について、自分でもよ り詳しく調べておくこと	4時間
	日本では戦後間もない1950年代から現在に至るまで、社会 における消費の在り方は大きく変化してきました。それに あわせて、消費者の取る行動もまた変わり続けています。 この授業では、消費者の価値観やライフスタイルの変化や 、消費者行動を引き起こす様々な要因について学んでいき ます		
第10回	消費者調査とその方法	インターネットを使って、衣料に関する消費者調 査について調べておくこと	4時間

		すべての消費者は、それぞれが異なる考え方やライフスタイルを持ち、多種多様な行動をしながら暮らしています。 その多様な消費者の実態を把握するためにおこなう調査を 消費者調査といいます。この授業では、消費者調査の種類 やそのやり方、さらにその意義について学んでいきます。	
	自分のなかの身近なブランドへのこだわりについ て考えて、その考察内容も加味しながら、ノート をしっかりとまとめる。	第11回 ファッションビジネスにおけるブランディング	第11回
		老舗のバッグ・ブランドであるルイ・ヴィトンが、新進気 鋭のデザイナーやアーティストとコラボレーションして、 実験的な商品をつくり出すのはなぜでしょう? 伝統と革新を両立するブランドのイメージを保ち続けるため、ラグジュアリーブランドは様々な取り組みを絶やしま	
		せん。 この授業では、ラグジュアリーブランドから新興ブランド まで、ファッションビジネスにおけるいろいろなブランデ ィングについて、学んでいきます。	
て自	ファッションが買うだけでなく、借りるやシェア するというものにもなりつつある事例について自 分で調べたことも加味して、ノートをしっかりと まとめる。	第12回 ファッションビジネスの多様化	第12回
		インターネットサービスの企業であるAmazonが、東京コレクションのスポンサーになりました。そこには、Amazonが本格的にファッション産業に参入する可能性が高まっているという背景があります。 いまファッションビジネスの世界は、これまでのメーカー企業に加えて、新しい業態の参入が激しくなりつつありま	
		す。 この授業では、ファッションビジネスにおける新しい業態 について、紹介していきます。	
	アパレル業界の現状の課題や新たな取り組みについて自分で調べたことも加味して、ノートをしっかりとまとめる。	第13回 ファッションビジネスの <b>課題</b>	第13回
		2017年、『誰がアパレルを殺すのか』という衝撃的なタイトルの本が発売され、業界の注目を集めました。これはファッションビジネスの世界が、いま新しく生まれ変わりつつあるということをあらわしているのです。この授業では、同書の内容を紹介しながら、アパレル業界が抱えている課題について考え、またその先を見据えた取り組みも紹介していきます。	
	有名ファッション・プロガーの発信力について自 分で調べたことも加味して、ノートをしっかりと まとめる。	第14回 ファッションビジネスにおける新たな価値創造	第14回
		人気のファッション・プロガーがファッションショーの最前列を飾る時代、ファッションビジネスにおける価値の生み出し方も、日々刻々と変わりつつあります。ファスト・ファッションへの反動から生み出された、スロー・ファッションやエシカル・ファッションなどのムーブメントも、これまでにはなかった価値の創造です。21世紀のファッションの可能性について、様々な事例を紹介しながら、考えていきます。	
	分で調べたことも加味して、ノートをしっ	人気のファッション・プロガーがファッションショーの最前列を飾る時代、ファッションビジネスにおける価値の生み出し方も、日々刻々と変わりつつあります。ファスト・ファッションへの反動から生み出された、スロー・ファッションやエシカル・ファッションなどのムーブメントも、これまでにはなかった価値の創造です。21世紀のファッションの可能性について、様々な事例を紹	

授業科目名	デザイン表現実習I				
担当教員名	伊東 義輝				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。(全14回)				

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

本授業では 洋服をデザインする為の基礎を学びます。 デザインをする為にはテクニックと知識、そして思考法を知る必要があります。前期の授業では個性の認識、それを発展させるための思考法と基礎的なテクニックとを学

います。 まず個々の個性を自己認識していくために必要な情報を集め、分析、理解し、 インプットした知識を自分の個性というフィルターを通してアウトプットし新しい洋服のクリエイションを行います。 前期はデザインに重要な色や柄、デザインするためのテクニック、軽衣料のデザインを学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 日標·

リサーチした様々なものを洋服のデザインで表現 することができる 1. DP1. 幅広い教養やスキル デザインを学ぶために様々なものをリサーチす

デザインするために必要なテクニック、考え方 を学ぶことができる 学んだテクニック、考え方を使って、自分の個性 を表現したデザインができる 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

様々なリサーチを行うことで、自分の個性を発見 し認識することができる 1. DP4. 課題発見

My Vision Book制作を通して自身の個性を理解 し、作品制作の実践に繋げる。 2. DP6. 行動・実践

### 学外連携学修

### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- 実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- 見学、フィールドワーク
- ·課題解決学習(PBL)

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

プレゼンテーション1 作ったプリント柄の美しさ、現代性、プレゼンテーションの内容を評価します。

前期に制作した作品と集めた資料をまとめて、自分の世界観をまとめた資料のプレゼンテーションを行います。世界観を明確に示しているか、資料のまとめ方やプレゼンテーション内容について評価します。 定期試験 (発表・作品提出)

40 %

プレゼンテーション2 スカートのデザインプレゼンテーションでの創造性、現代性、一貫性などの完成度を評価します。

30 %

授業内課題 デザイン画など授業内課題の完成度で評価します。

10 %

### 使用教科書

### 参考文献等

NANCY RIEGELMAN著「COLORS FOR MODERN FASHION」 その他の資料は随時紹介する。

#### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 火曜日2限

場所: 生活デザイン第3研究室

<b>集計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	色を学ぶ、自分の好きな色は…?	アーティストのリサーチを行う	1時間
	ファッションで色は非常に重要な要素です。色の組み合わせやプリント柄など、自分の好きなアーティストの色使いから学び、自分の好きな色や色の組み合わせを見つけます。		
第2回	色を学ぶ、プリント柄1:色を探す/ムードボード作成の 基礎	ムードボードに必要な資料をまとめておく	1時間
	基本的なプリントの送りを学び、自分の好きな色、アーティストを参考にオリジナルモチーフを考える。 集めた資料をまとめ、ムードボードを作るための基礎の説 明と実習を行う。		
第3回	色を学ぶ、プリント柄2:送り柄	自分の持っている服にオリジナルモチーフを合わ せてバランスを確認しておく	1時間
	前の授業で作ったオリジナルモチーフを送り柄にする。 作ったプリント柄をボディ上に配置し、洋服での見え方を 確認する。		
第4回	デザイン画の基礎/My Vision book作成1:個性とは	人体の仕組みを復習しておく/プレゼンテーション の準備を終えておく	1時間
	人体の仕組みを学び、デザイン画の基礎を学ぶ。 様々なポーズを描く為のベースを作る。 自分の個性を認識し、今後デザインするための基礎作りの 為にMy Vision book作成の説明を行う。		
第5回	デザイン画の基礎、様々なポーズを描く/My Vision book 作成2:資料の探し方/色を学ぶプレゼンテーション	My Vision bookに必要な資料を集める	1時間
	正面、デアンシェ、3/4など様々なポーズを描く。 My Vision bookに必要な資料をまとめる。 色を学ぶの課題プレゼンテーション。		
第6回	着色を学ぶ/アイテムを学ぶ スカート1:シルエットと ポリューム	スカートのマーケットリサーチを行う	1時間
	布地の描き方を学び、着色の練習を行う。 布地ごとの描き方や着色方法を学ぶ。 スカートのシルエット、ポリュームのバリエーションと名 称の説明。		
	マーケットリサーチの説明し、次週までにスカートのマー ケットリサーチを行う。		
第7回	アイテムを学ぶ、スカート2:ディテールを学ぶ	デザインするためのテーマ案資料を集めておく	1時間
	スカートのディテールを知る。 ベルトやポケットなどディテールの作りを学ぶ。 スカートのマーケットリサーチをまとめる。		
第8回	テーマの設定/ムードボードを作る	テーマのムードボードを仕上げておく	1時間
	スカートをデザインする為のテーマを考える。 テーマに必要なヴィジュアルを集めムードボードを作成し 、その中からデザインする為の要素を探す。		
第9回	アダプティブファッションの実践①	ボリュームやシルエットのリサーチを進めておく	1時間
	障害者施設を運営されており、日本アダプティファッション協会を運営されている方のセミナーを受け、障害者のためのファッションデザインを学ぶ。		
第10回	スカートのデザインを行う/アダプティブファッションの 実践②	デザイン画のアイデアをメモ、イラストでまとめ ておく	1時間
	スカートに適した素材を知る為、実物を見て学ぶ。 ベルトやポケットなどディテールをデザインし、自分のイメージにあったディテールを考える。 平面図の基礎を学ぶ。 色やプリント柄、シルエットやボリュームなど、自分のテーマに沿って		
	ー、に何つく 行ったリサーチをまとめる。 これまでに行ったリサーチ(テーマ、ディテール、シルエ ット、ボリューム、素材など) をまとめて、自分のスカートをデザインする。		
	アダプティブファッションの現状をリサーチし、普段着用 している衣服と何が違うかを認識する。		
第11回	デザイン画を描く/アダプティブファッションの実践③	5 体のデザイン画の下書きを終えておく	1時間

	ムードボード、リサーチした資料をもとにスカートのデザ イン画を描く。		
	5 体以上コーディネートも考えて下書きを行う。 デザイン画を 5 体以上描き、そのうち 2 体を着色、平面図 も描き仕様書を作る。		
	アダプティブファッションのファッションショーに参加す るためのデザインリサーチをグループで始める。		
第12回	スカートデザインのプレゼンテーション/アダプティブ ファッションの実践④	My Vision bookの資料を集めておく	1時間
	ムードボード、リサーチ資料、デザイン画をまとめてプレ ゼンテーションを行う。		
	アダプティブファッションのファッションショーに参加す るためのデザインリサーチをグループごとに進める。		
第13回	My Vision bookの活用/アダプティブファッションの実践 ⑤	資料の追加、まとめを進めておく	1時間
	これまで集めてきた資料をMy vision Bookにまとめ、自分 の世界観をまとめる作業を行う。		
	アダプティブファッションショーでデザインする衣服を着 用するシーンを決め、そのシーンにあったコーディネート をグループでリサーチする。		
第14回	My Vision book をまとめる/アダプティブファッションの 実践⑥	プレゼンテーション準備を終えておく	1時間
	前期の課題であった色、スカートの作品とMy vision Book で集めた自分の世界観をヴィジュアルとキーワードでまと		
	め プレゼンテーションを行う準備をする。		
	アダプティブファッションショーで使用する衣服を提供先 である株式会社PALを訪問しグループごとに選んだシーンに あったコーディネートを考える。		

授業科目名	デザイン表現実習 II				
担当教員名	伊東 義輝				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。 (全14回)				

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

本授業では 衣服をデザインする為の基礎を学びます。 後期の授業では前期に行った世界観を確立し、クリエイティブに発展させていきます。 後期はシャツ・ブラウスなどのトップス、ジャケット・コートなど重衣料のデザイン課題を通じて襟や袖といったディテールワークや様々な素材加工を学びます。また、 ファッションの大きな問題である大量生産・大量消費の問題にも触れ、SDGsを学ぶことで持続可能なファッションデザインを実践できるよう、着なくなった衣服や使わな くなった身の回りのものに新しい価値を産み出すアップサイクルを実践したデザイン表現、作品制作を行います。

#### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

デザインに必要な様々な知識を身につけ、その 知識を実践する術を学ぶ 1. DP1. 幅広い教養やスキル

ファッション以外の社会問題(SDGsなど)を学び、その解決方法としてデザインはどのような役割を果たすのかを実践する。

デザインするために必要なテクニック、考え方を学ぶことができる。 学んだテクニック、考え方を使って、自分の個性 を表現したデザインができる。 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

様々なリサーチを行うことで、自分の個性を発見 し認識することができる 1. DP4. 課題発見

SDGsなど様々な課題を知り、その分析から実際に デザインし作品制作を行うことで持続可能な ファッションの実践ができる 2. DP6. 行動・実践

## 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- 実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ·課題解決学習(PBL)

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

## 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「--」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

定期試験 (発表・作品提出) コンセプトメイキングのムードボードの内容、完成度とそのプレゼンテーションを評価します。

25 %

アダプティブファッションショーの作品や取り組み、アップサイクルプロジェクトの作品、プレゼンテーションの内容を作品は創造性、一貫性、現代性で評価、プレゼンテーションは口頭での説明内容、ヴィジュアル資料の完成度から評価します。 作品提出・プレゼンテーション

40 %

作品提出 シャツデザインの創造性、現代性などポートフォリオの内容を評価します。

25 %

授業内課題 デザイン画や平面図など授業内課題の完成度で評価します。

10 %

### 使用教科書

#### 参考文献等

NANCY RIEGELMAN著「COLORS FOR MODERN FASHION」 未来を変える目標 SDGsアイデアプック その他の資料は随時紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 火曜日2限

**場所**: 生活デザイン第3研究室

<b>かけ.</b>	生活ノッイン第3明元至		
<b>美計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	・ボリュームワーク1:布で遊ぶ /アダプティブファッ ションの実践⑦	作ったボリュームの写真をまとめておく。	1時間
	<ul> <li>1枚の布を3つの穴を開けて頭と腕を通せば衣服となる、そこからつまむ、ひねる、折る、よせる、たたむ、切るなど実際に布を触ると想像できない様々な動きが現れ新しいアイデアとなる。実際の布を使ってボディ上で様々なボリュームワークを行う。</li> </ul>		
	<ul><li>・取り組んでいたアダプティブファッション作品のフィティングとファッションショーリハーサル</li></ul>		
第2回	・ボリュームワーク2:シルエットワーク/アダプティブ ファッションの実験®	襟、袖など各ディテールのリサーチを進める。	1時間
	・前回の授業で行ったボリュームワークの基本を使い、衣服以外のものをテーマとしそのボリュームを布で表現するし、シャツ・ブラウス・ワンピースのシルエットを作る。 ・シャツ、ブラウス、ワンピースというアイテムを学ぶ。 谷や袖などディテールのバリエーションとその名称。		
	・アダプティブファッションショーに参加する。		
第3回	アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース1 : アイ テム理解 : ディテールワーク(襟、袖、開き、ポケットな ど)	ボディ上に作ったシルエット、ボリュームの写真 を撮り、ディテールごとにまとめておく。	1時間
	<ul><li>・前回の授業時に作ったテーマと身頃のシルエットにあったディテールをリサーチを参考に考え、ボディ上に布を使ってアイデア出しを行う。</li></ul>		
第4回	アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース2:ダー ツや切り替え線	テーマ・ボリューム、ディテール等の写真をまと めておく。	1時間
	・ダーツや切り替え線を使い、デザインする方法を立体裁 断で実施する。		
第5回	アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース3:デザ インに落とし込む デザイン画表現	ポートフォリオを提出できるように仕上げてお く。	1時間
	<ul><li>ボディ上で作ったシルエット、ディテールを参考にデザイン画を描く。</li></ul>		
	<ul><li>デザイン画を5体描き、1体は着色する。</li><li>テーマ、ボリュームリサーチ、ディテールリサーチの資料とデザイン画をまとめポートフォリオを作成する。</li></ul>		
第6回	アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース4/アップ サイクルプロジェクト1:SDGsとは/集材加工とは	必要な材料や資料を集めておく。	1時間
	<ul><li>・テーマ、ボリュームリサーチ、ディテールリサーチの資料とデザイン画をまとめポートフォリオを作成する。</li></ul>		
	・ファッション業界では大量生産・大量消費・大量廃棄など様々な問題が出てきている。今後のファッションデザインはエシカルやサスティナブルといった思考を持って学ばなければいけない。 SDGs目標12 つくる責任 つかう責任を実践する為、着なくなった衣服、使わない素材を用いて新たなデザイン・作品制作を行うアップサイクルプロジェクトを実施する。・素材加工はデザインする上で重要な要素となるので、様々なテクニックを学び素材加工を作成する。イメージソースを探し、ムードボード作成を行う。		
第7回	アップサイクルプロジェクト2:SDGsとファッション/素材 加工の基礎	テーマ、イメージを進めておく/必要な材料を揃え る。	1時間
	<ul><li>・グループに分かれ、集めた資料をもとにイメージ、テーマをグループごとに考える。</li><li>・集めたヴィジュアル資料をもとに素材加工のイメージを考え、必要な材料を決める。</li></ul>		
第8回	アップサイクルプロジェクト3:リサイクルとアップサイ クル/素材加工リサーチ	素材加工の実物とムードボードを完成させる。	1時間
	・具体的にどのようなアイテムを作成するかグループで考え、必要な資料を探しラフ案を作る。 ・実際に素材加工を作成する。		
第9回	アップサイクルプロジェクト4:イメージ制作/素材加工ア イデア	自分が担当する作業を進めておく。	1時間

	・作品制作、ムードボード(テーマとキーワードなどヴィ ジュアル資料のまとめ)、もとになった衣服の写真など必 要な資料をグループで分担し作成する。		
第10回	アップサイクルプロジェクト5:イメージをまとめる	自分が担当する作業を進めておく。	1時間
	・作品制作、ムードボード(テーマとキーワードなどヴィ ジュアル資料のまとめ)、もとになった衣服の写真など必 要な資料をグループで分担し作成する。		
第11回	アップサイクルプロジェクト6:デザインを考える/重衣料 のディテールを学ぶ	プレゼンテーションの準備を終えておく。	1時間
	<ul><li>作品制作</li><li>ジャケットやコートなど重衣料のディテールや素材など 基礎知識を学ぶ。</li></ul>		
第12回	アップサイクルプロジェクト7:作品制作/コンセプトメイ キング1:世界観の確認	My Vision Bookの見直しを行い、必要な資料を集める。	1時間
	・作品制作 ・これまでの作品とMy Vision bookの見直し、追加を行い コンセプトの基礎を固める。		
第13回	アップサイクルプロジェクト8:ポートフォリオ制作/コン セプトメイキング2:世界観をまとめる	今日の作業をまとめ、プレゼンテーション準備を 進める。	1時間
	<ul><li>作品制作を終え、ポートフォリオにまとめていく。</li><li>コンセプトをまとめる。</li></ul>		
第14回	アップサイクルプロジェクト9:発表する/コンセプトメイ キング3:プレゼンテーション資料	コンセプトプレゼンテーションの準備を進める。	1時間
	<ul> <li>・アップサイクルプロジェクトのポートフォリオのプレゼンテーション。</li> <li>・アップサイクルプロジェクトの作品提出。</li> <li>・コンセプトをまとめ、プレゼンテーション準備を進める。(後期定期試験課題)</li> </ul>		

授業科目名	ビジュアルデザイン実習				
担当教員名	関根 祐司				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	昭和59年より株式会社TC いる。	Dにてデザイン企画	に携わり、平成7年より独立し	て個人デザイン事務	<b>務所を主宰し、現在に至って</b>

開放科目の指示: 「可・不可」

#### 授業概要

ファッション業界において不可欠な「ビジュアルデザイン」についての基礎知識と、ビジュアルデザイン制作において業界標準のアプリケーションの基礎操作を学びま

9。 ファッションは衣服・アクセサリー・雑貨などの商品そのものだけではなく、ブランドや商品周りの印刷物、店舗、web発信、広告などの様々なビジュアルデザインによって支えられています。 各自オリジナルのブランドを設定し、そのグラフィックデザイン(ロゴ、印刷物)を実際に制作しつつ、知識を学びます。 「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」を用いて制作をします。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

ファッションブランドについて考察することによる、グラフィックデザインが発信するイメージ・情報についての理解と知識の習得。 考察をもとに、既存ブランドの発信する意図とそ のデザインとのつながりや整合性を理解できる。 1. DP1. 幅広い教養やスキル

ファッションブランドの具体的アイテムを自ら 制作することによるデザインに対する理解と知 識の習得。 個々のデザインを消費者にアピールするための基 本コンセプトを身に付ける 2. DP2. 専門的知識·技能、職業理解

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践 発信したい情報・イメージをビジュアルとして他 者に伝えることを身につける。

#### 学外連携学修

無し

#### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

#### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」とします。 また、授業内でデザインの課題制作をしますが、全て提出すること。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

提出された授業内課題 授業内での理解度、制作態度、及び提出制作物に対しての評価をします。

90 %

期末プレゼンテーション 授業内課題を総括して各自がプレゼンテーションをして、その評価をします。 (定期試験)

10 %

#### 使用教科書

特に指定しない

# 参考文献等

細山田デザイン事務所 誰も教えてくれないデザインの基本 最新版 株式会社エクスナレッジ 2022年

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。 「授業内課題(デザインワーク)」に取り組むことに加え、その授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けてアイデアラフ他の予習・復習などをすること。 また、日常生活において身の回りのデザインについて意識を向け、「何故そのデザインが人を惹きつけるのか」についての考察をすること。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	ビジュアルデザインとは / ファッションにおけるビジュ アルデザインの有用性・重要性について	<ul><li>○日常生活で目にする、触れるデザインについて 考察をする。</li></ul>	4時間
	●「ビジュアル-視覚的」デザインによるコミュニケーションについて。 ●ブランドイメージを構築するためのビジュアルのあり方について。 ●6W2Hについて Adobe Illustratorについての概略説明		
第2回	オリジナルブランドの企画とロゴデザイン 1	日常生活で目にする、触れるデザインについて考 察をする。既存プランドを探し、分析する。自分 のプランドをつくるためのアイデアを出す。	4時間
	●オリジナルブランドの企画とネーミング、その6W2Hの設 定のアイデア検討 ●デザインワーク「ブランドシート」作成 Adobe Illustratorについての操作実習		
第3回	オリジナルブランドの企画とロゴデザイン 2 / ファッションにおける「写真」の重要性	日常生活で目にする、触れるデザインについて考 察をする。既存プランドを探し、分析する。自分 のプランドをつくるためのアイデアを出す。	4時間
	●「写真」のイメージ発信の重要性について解説 ●ブランドの世界観を表現する写真の検討 ●オリジナルブランドの企画とネーミング、その6W2Hの設定のアイデア検討(継続) ●デザインワーク「ブランドシート」作成(継続) Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第4回	オリジナルブランドの企画とロゴデザイン 3	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドをつくるためのアイデアを出す。	4時間
	●ブランドの世界観を表現する写真の検討(継続) ●オリジナルブランドの企画とネーミング、その6W2Hの設定のアイデア検討(継続) ●デザインワーク「ブランドシート」作成(継続) Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第5回	オリジナルブランドの企画とロゴデザイン 4	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存プランドを探し、分析する。自分のプランドのアイデアに対する検証と熟考。	4時間
	●ブランドの世界観を表現する写真の検討(継続) ●オリジナルブランドの企画とネーミング、その6W2Hの設定の完成 ●デザインワーク「ブランドシート」完成 Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第6回	オリジナルブランドのタグのデザイン 1 / ファッション における印刷物の重要性	日常生活で目にする、触れるデザインについて考 察をする。既存プランドを探し、分析する。自分 のプランドのタグをつくるためのアイデアを出 す。	4時間
	●「印刷物」の重要性について解説 ●オリジナルブランドのタグデザインのアイデア検討 ●デザインワーク Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第7回	オリジナルブランドのタグのデザイン 2/印刷について	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドのタグをつくるためのアイデアを出す。	4時間
	●「印刷」に関する基礎知識について解説 ●オリジナルブランドのタグデザイン(継続) ●デザインワーク(継続) Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第8回	オリジナルブランドのタグのデザイン 3	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分のブランドのタグに対する検証と熟考。	4時間
	●オリジナルブランドのタグデザイン完成 Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第9回	オリジナルブランドのタグのデザイン 4	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存プランドを探し、分析する。自分のプランドのタグに対する検証と熟考。	4時間
	<ul><li>●工作の手際の解説と実演</li><li>●オリジナルブランドのタグ実物を完成させる。(紙工作して仕上げ)</li></ul>		
第10回	オリジナルブランドのファッションショーのインビテー ションカードをデザイン 1	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存プランドを探し、分析する。DMについて調べ、考察をする。自分のプランドのインビテーションカードをつくるためのアイデアを出す。	4時間

	●ファッションショーにおけるインビテーションカードの 重要性を解説 ●オリジナルブランドのファッションショーを開催する仮 定の元、インビテーションカードをデザイン ●デザインワーク Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第11回	オリジナルブランドのファッションショーのインピテー ションカードをデザイン 2	日常生活で目にする、触れるデザインについて考察をする。既存ブランドを探し、分析する。DMについて調べ、考察をする。自分のブランドのインビテーションカードをつくるためのアイデアを出す。	4時間
	●オリジナルブランドのファッションショーのインビテー ションカードをデザイン (継続) ●デザインワーク (継続) Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第12回	オリジナルブランドのファッションショーのインピテー ションカードをデザイン 3	日常生活で目にする、触れるデザインについて考 察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分 のデザインアイデアに対する検証と熟考。	4時間
	●オリジナルブランドのファッションショーのインビテー ションカードのデザイン完成 Adobe Illustratorについての操作実習 Adobe Photoshopについての操作実習		
第13回	オリジナルブランドのファッションショーのインピテー ションカードをデザイン 4	日常生活で目にする、触れるデザインについて考 察をする。既存ブランドを探し、分析する。自分 のデザインアイデアに対する検証と熟考。	4時間
	<ul><li>●工作の手際の解説と実演</li><li>●オリジナルブランドのインビテーションカード実物を完成させる。(紙工作して仕上げ)</li></ul>		
第14回	オリジナルブランドのプレゼンテーション準備	プレゼンテーションの予行演習と自己検証。	2時間
	●オリジナルブランドを「制作物を提示し、そのデザイン に対する想いと工夫した点を述べながら」プレゼンテーションする為の準備をする。		

授業科目名	業界研究				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	る。	神戸ファッション美術館の学芸員として、資料の整理や展示、プレゼンテーションに関する仕事に従事した経験を有す			

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

消費者ニーズの多様化や二極化が顕著になりつつある昨今のファッション業界ですが、そこでは大きな潮流の変化もおこりつつあります。さらにはコロナ禍の影響やSDGsの時勢もあり、ファッション業界は今まさに大きな転換点を迎えています。 授業では、そんな昨今のファッション業界の現状や動向を分析して、そこから時代の消費者ニーズに対応したブランドのコンセプトを打ち立てて、商品の企画や選定、店舗の設計やデザインなどについても学び、アパレル業界における運営プロセスを理解していきます。 また、中間と期末にプレゼンテーションを行うことで、自分の考え方や見せ方を周りに的確に伝える力も伸ばしていきます。

#### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

ブランド企画のための知識と手法 マーチャンダイザーやバイヤーに必要な資質を身につけることができる。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

2. DP4. 課題発見

ファッションビジネスの現状を見据え、新しい発 想で、ブランド企画を行うことができる。 コレクションブランドのテーマやスタイリングに よるファッション性を分析できる。

#### 学外連携学修

無し

#### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

#### 成績評価

#### 注意事項等

注意事項等 原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」 (評価しない) とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業内課題 リサーチ結果を踏まえ、論理的手法に基づいた考察がなされているかの観点から、4段階で評価しま

10 %

企画書作成 ブランド企画の資料に基づき、独自のルーブリックにより4段階で評価します。

%

20 資料に基づくプレゼンテーション 全学ルーブリックに基づき、評価します。 20 %

授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。 期末試験

> 50 %

# 使用教科書

### 参考文献等

太田伸之『売り場は明日をささやく』繊研新聞社 高原昌彦『ファッションビジネス入門』繊研新聞社 栗野宏文『モード後の世界』扶桑社 尾原蓉子『創造する未来』 繊研新聞社

#### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 水曜日3限

場所: 生活デザイン第2研究室

场川:	生活プリイン第2研究室		
<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	アパレル商品の種類と特賞	アパレル業界のしくみついて調べておく	4時間
	アパレル業界における商品の種類や特質について、幅広い 基礎知識を学びます。		
第2回	アパレル商品の各分野における市場特性とその動向	WEBや雑誌により好きなモノを収集しておく	4時間
	最新のアパレル商品の市場特性や動向について、多角的に 調査して、分析を試みます。		
第3回	アパレル企業とその職種	自分の気になったアパレル関連企業についてより 詳しく調査を重ねてまとめる	4時間
	日本におけるアパレル企業の発展のこれまでと、最近の多様な企業のかたち、さらにその職種のバリエーションについて学びます		
第4回	ファッション産業とグローパリゼーション	特にファッション産業のグローバル化がもたらす マイナスの事象について、調べてみる	4時間
	昨今のグローバリゼーションの広がりと、そのことがアパレル産業にもたらす光と影について、様々な事例を通して、学んでいきます。		
第5回	商品企画とは何か	授業に先立ち、自分の好きな服や気になる服の傾 向について調べておく	4時間
	アパレル業界における商品企画の仕事に焦点をあてて、そ の概略を説明し、実際に自分で商品の企画をしてみます。		
第6回	ターゲットとはなにか	ターゲットの分類やマッピングについて、イン ターネットや書籍を使って調べてみる	4時間
	アパレル業界におけるターゲットの分析の重要性について 解説しながら、前回自分が企画した商品のターゲット層の 分析をしてみます		
第7回	自分のファッションイメージマップを作る	次回のプレゼンテーションに備えて、イメージ マップを作成しておく	4時間
	これまでの授業で企画し分析した情報をもとに、自分の好きなファッションについてプレゼンテーションするための イメージマップをつくります		
第8回	プレゼンテーション	他の学生からの質問や意見をしっかりとノートに 整理して、まとめておく	4時間
	ファッションイメージマップの考察レポートをもとに、発 表する。質疑応答など、必ず全員が質問をするように、活 発な議論を行う。		
第9回	ファッション情報の収集と分析・分類	できるだけ多くの最新ファッション情報に触れて 見識をひろめておく	4時間
	パリ、ミラノ、ロンドン、ニューヨーク、東京などの各都市での最新のコレクションを調べて、その情報を収集し、分析・分類し、そこに共通するような自分だけのキーワードをあたえてファイリングしていきます。		
第10回	コンセプトをたてる	コンセプトについてキーワードと説明文を完成さ せる	4時間
	自分がもしプランドをつくるとしたらと仮定して、これからの時代を拓いていくようなコンセプトを立てていきます。		
第11回	セレクトショップを仮想する	オリジナルなブランドの企画案を考えておく	4時間
	これまでの情報を参考に、オリジナルなセレクトショップ のプランドコンセプトを考える。また同時にターゲット絞 り、ターゲット特性についても考える。		
第12回	ブランドとブランドマネジメントについて	自分の気になるブランドが、その価値を高めるためにどのような取り組みをしているか調べておく	4時間
	アパレルブランドからラグジュアリーブランドまで、様々 なブランドについて学ぶと同時に、それぞれのブランドマ ネジメントの特徴について知見を広める		
第13回		WEB、DM]など販促方法を調べておく。	4時間

	自分の展開したいセレクトショップについて、ターゲット 層や商品群のことも考えながら、その店舗について構想し てみる。		
第14回	プレゼンテーション	できるだけ他の人の発表もしっかり聴き、その 様々なアイデアをノートにまとめておくこと	4時間
	それぞれ自分が構想したセレクトショップについて、その 商品展開から店舗のイメージまで、できるだけ詳細にプレ ゼンテーションしていく		

授業科目名	卒業研究 I					
担当教員名	澤田 和也・伊東 義輝・百々 徹・米田 三沙子・坂下 理穂					
学年・コース等	2回生	2回生 開講期間 前期 単位数 2				
授業形態	演習					
実務経験のある教 員による授業科目						
実務経験の概要						

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

「卒業研究Ⅰ」・「卒業研究Ⅱ」では、1年間の通年授業を通じて、商品企画、作品の企画の基本理論を理解し、最終的にオリジナルブランドを作ることを目的とする。制作にあたっては、作品のデザイン、素材となる布の選定、染色方法の検討、パターンメイキング、縫製までの全ての工程についてその実技を習得する。さらに成果発表の方法として、ファッションショーを企画し、その場にて作品展示の手段も学生自身で考案する。最終的に、ファッションショーの企画・立案および発表までの体系的な学びを通して、表現方法を習得する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 アパレル・ファッション業界の一連の流れを、 一年を通じて実践的に体得する。 自己ブランドを立ち上げるという共通目標に対して、グループ作業を通じ自身の責任と義務を認識 しつつ主体性を持って作業に取り組む力を身に付けることができる。

#### 汎用的な力

1. DP7. 完遂

共同作業の中で、さまざまな分野の学びを体験する中で、失敗を繰り返しながら課題を乗り越える ための能力を身に付けることができる。

### 学外連携学修

無し

#### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論
- 見学、フィールドワーク

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

### 注意事項等

常にグループの中の一員として自身の置かれた立場を考え、共同で物事を作り上げる力を養成します。 原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

情報収集力および情報分析力 : 種々の情報媒体から適切な情報の入手能力とその分析方法や判定力を評価する。

30 %

基礎的な実技 : 作業への取組姿勢や技術力を評価する

20 %

表現力 : 自己のイメージの表現到達度と共に、プレゼンテーション能力の技術について評価する。

30 %

定期試験 : 前期の総まとめとして、卒業研究の実施内容についての理解度を実技評価する

20 %

#### 使用教科書

#### 参考文献等

無し

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

**時間**: 月曜1限

場所: 生活デザイン第1、2、3研究室

**備考・注意事項**: オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	授業概要の説明、グループ作業の行い方など	グループ内でそれぞれの性格や個性から分担すべ き役割について話し合いをしておく。	4時間
	卒業研究についての概要を説明し、1年間課題に取り組む グループ分け、グループでの作業を説明する。また、研究 倫理教育を実施する。		
第2回	素材からのデザイン企画	マーケットリサーチの準備をしておく。	4時間
	素材からの商品企画を行うため、担当する素材とそれを扱 う企業をリサーチし、担当素材の特性を理解する。		
第3回	マーケットリサーチ	リサーチ内容をまとめておく。	4時間
	担当する素材の既存市場のリサーチと、新しいデザインの 可能性をリサーチする。		
第4回	プレゼンテーション : マーケットリサーチ	プレゼンテーションの修正を終えておく。	4時間
	リサーチした既存市場の分析と担当素材の新しいデザイン の可能性をまとめて提案する。		
第5回	新しいデザイン:担当素材の新しい可能性を見つける	担当した素材の特徴について調べる。	4時間
	担当素材を使った新しいデザイン、新しいマーケットの提 案を行う。		
	衣服に限らず、生活全般からイメージを膨らましてインテ リア、雑貨などもデザインする。		
第6回	デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定	デザインテーマを考えておく。	4時間
	ターゲットの生活や対象のマーケットのイメージを作り、 テーマに沿ってデザインを考える。		
第7回	テキスタイルをデザインする	テキスタイルの参考となるヴィジュアル資料を集 めておく。	4時間
	テーマ、ターゲットのイメージからテキスタイルデザイン		
	を行う。 染めやプリント、刺繍など様々な手法をリサーチし、イメ ージにあった手法を取り入れて考える。		
第8回	テキスタイルを制作する	使いたい加工を決めて、加工した素材のイメージ を考えてくる。	4時間
	担当素材を使って染めやプリント、刺繍、タック、ギャザ ーなど様々な加工を試してみる。		
第9回	担当素材のテキスタイルデザインを完成させる	プレゼンテーションの準備を終えておく。	4時間
	テキスタイルデザインを完成させる。40cm&am p;amp;amp;#215;40cm程度の素材スワッチを作成する。		
第10回	プレゼンテーション:デザインテーマ、対象マーケット、 ターゲットの設定、テキスタイル	次回の衣服、雑貨デザインに必要な資料を集めて おく。	4時間
	デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テ キスタイルをまとめてグループごとにプレゼンテーション を行う。		
第11回	マーケットリサーチ: 衣服、インテリア、雑貨デザインリ サーチ	リサーチ内容をまとめておく。	4時間
	グループごとのデザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイルデザインにあった衣服、インテリア、雑貨の参考となるデザインをリサーチする。		
第12回	デザインを行う。	デザインの参考となる資料を集めておく。	4時間
	デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定にあった衣服、インテリア、雑貨のデザインを行う。		
第13回	デザインの決定、デザイン画を描く	デザインの参考となる資料を集めておく。	4時間
	グループごとにテーマ、ターゲットにあったデザインを決 め、デザイン画を描く。		
第14回	デザイン画を描きプレゼンテーション資料を作成する。	仕様書までまとめておく。	4時間

デザイン画を描き、着色し平面図を描き、仕様書を作成する。 そして、それらの内容をまとめてプレゼンテーションを行う。

授業科目名	ファッション心理学						
担当教員名	百々 徹						
学年・コース等	2回生	2回生     開講期間     前期     単位数     2					
授業形態	講義						
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	該当する					
実務経験の概要	神戸ファッション美術館 京都造形芸術大学空間演	に学芸員として勤務 出デザイン学科ファ	その実績を有する ・ッションデザインコースに教	員として勤務の実績	貴を有する		

開放科目の指示:「可」

#### 授業概要

着装、購買、選択などの服飾に関する行動における心理的、社会的機能に着目し、社会学、社会心理学、心理学の基礎理論を中心に社会科学的な観点からファッションを 理解します。普段の生活の中で、モノとしてのファッションではなく、人との関わりの中でどのようにファッションがとらえられているのかについて考察し、ファッショ ンの今後の動向について分析する能力を身につけます。人間の心理が、ファッションに対してどのような行動をとってきたのか、購買意欲にどのようにつながっているの かについても分析します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

ファッション心理特性を知り、ファッション企画 力や販売力を身につける。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 ファッションについての消費行動について社会 心理学的な読み解きを行う。

汎用的な力

人間の心理特性を知り、ファッションと人間との 関係についての課題を考察する。 1. DP4. 課題発見

#### 学外連携学修

無し

#### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

#### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

毎回の小レポート

授業の内容をふまえた論述ができていれば5点、そこに独自の見解や具体例などが示されていれば4点、授業の内容のみの場合は3点、少しは内容を理解している2点 まったく理解していない1点とす

40

期末試験

授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

『装いの心理学』鈴木公啓編著/2020/北大路書房 『被服と身体装飾の社会心理学』S.B.カイザー/1994/北大路書房 『ファッション中毒』ミシェル・リー/2004/NHK出版 『隠れた脳ー好み、道徳、市場、集団を操る無意識の科学』シャンカール・ヴェダンタム/2011/インターシフト 『買いたがる脳』デイビッド・ルイス/2014/日本実業出版社 『赤を身につけるとなぜもてるか?』タルマ・ローベル/2015/文藝春秋 『装いの心理と行動』小林茂雄・藤田雅夫編著/2017/アイ・ケイ・コーポレーション 『クール なぜ脳は「かっこいい」を買ってしまうのか』スティーブン・クウォーツ/2016/日本経済新聞出版社

『誘うブランド』ダリル・ウェーバー/2017/ビー・エヌ・エヌ新社 『ひとはなぜ服を着るのか』鷲田清一/1998/NHKライブラリー 『ファッションと哲学』アニェス・ロカモラ&アネケ・スメリク/2018/フィルムアート社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 水曜お昼休み

場所: 生活デザイン学科 第2研究室

**備考・注意事項**: オフィスアワー以外の時間にも対応します。生活デザイン第2研究室まで来室してください。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	ファッション心理学とは ファッション心理学で何を学ぶのか、なぜこのような学問 が必要なのかについて理解する。	振り返りシートの作成	4時間
第2回	着衣のはじまりとその動機	着衣の起源と照らし合わせて、自分が衣服を着る	4時間
	そもそもなぜヒトは衣服というものを着はじめたのか?その起源と動機ついて考え、私たちが衣服を着る理由と機能 について考えてみます。	理由について内省してみる	
第3回	着衣と身体	着る服によって、自分にどのような心理的変化が 起こっているかを、観察して書き留める	4時間
	衣服はそれだけではあまり意味をなさず、それを着て、動いて、暮らして、初めてそこに大きな意味が生まれます。 つまり、衣服と身体との交わりである着衣から、衣服の意味ははじまるのです。この授業では、精神分析的な視点から、衣服が身体を通じて人に与える影響について、考えていきます。		
第4回	《わたし》と着衣	自分のワードローブが、自分のセルフイメージを どのように作り上げているか、可能な限り分析し てみる	4時間
	鏡を見ると、そこには自分の姿が映っています。でも、人は、その自分の表面のほとんどを衣服で覆っていることが		
	常態です。 この授業では、衣服というものが、自己のイメージを形成 し、認識するのか、その心理的メカニズムについて、学習 します。		
第5回	着衣のロールプレイング	就職活動におけるスーツの意味と、それを着た時 の自分の心の変化について、考察してみる	4時間
	哲学者の鷲田清一は、「すべての衣服は制服である」と言っています。自分が"自由に"装っているつもりでいても、そこには社会の様々な規制や規範が含まれているのです		
	。 この授業では、女らしさや男らしさ、学生らしさや社会人 らしさなどの「らしさ」を演じるための衣服の役割と機能 について、学んでいきます。		
第6回	服を見せる/私を魅せる	本人の意思とは裏腹なメッセージを伝えてしまう 衣服の例について考えてみる。	4時間
	人はどうしてここまで自分を装うことに躍起になるのでしょうか? それは着衣という行為が、非常に饒舌にその人自身を語る非言語的なコミュニケーションの一つだからです。この授業では、コミュニケーションの道具として衣服が果たしている役割について、学んでいきます。		
第7回	見かけと印象	電車内や街中で周りの人たちを観察し、その人た ちの服装からどのような印象を自分が受けている のか、分析してみる	4時間
	昔は、「人は見かけで判断してはいけない」などと言われていましたが、実際には私たちは普段の生活の中で、他人の見かけから多くの情報を得て、多くのことを判断してい		
	ます。 この授業では、人の見かけがどのように周囲に受容され承		
第8回	認されているのか、学んでいきます。 <b>着衣と集団</b>	自分の体験談として、「皆んなとつながる衣服」 についてまとめてみる。	4時間
	ユニバーサルスタジオジャパンに遊びに行くと、グループ ごとにお揃いの服を着て楽しんでいる若者たちにたくさん	にりいてよとめてかる。	
	出会います。		
第9回	はみ出す着衣	パンクやコギャルなどの若者のサブカルチャーと その装いについて、自分の興味の範囲を掘り下げ て調べてみる	4時間
	まとまるための着衣がある一方で、社会からはみ出るため の着衣もあります。社会の趨勢に抗うための着衣や、社会 的な枠組みを飛び越えるための着衣などです。 この授業では、あえて社会からはみ出すための着衣につい て、その社会心理的な意義について学んでいきます。	Service Services	
第10回	流行の心理学	この春夏のシーズンの流行について調べ、それが どのようにメディアから発信されているか、分析	4時間

	毎年毎シーズン、次から次へと新しい流行が現れては消えていきます。わたしたちはその流行に翻弄されながら、常に自分のクローゼットの中身を更新し続けているのです。この授業では、この流行が生み出される仕組みについて、様々な理論を学び、流行とは一体何かについて学んでいきます。		
第11回	わたしの彩り	自分の好きな色や普段よく身につけている色が、 どのような心理的作用をもたらすのか、インター ネットや書籍を通じて調べてみる。	4時間
	テルアビブ大学の心理学教授タルマ・ローベルが書いた本 のタイトルは『赤を身につけるとなぜもてるのか?』とい		
	います。 これは本当でしょうか?またそれは一体どのような心理的 要因で、実際に起こるのでしょうか? この授業では、色をまとう行為としての着衣について考え 、色彩が人に引き起こす心理的作用について、学んでいき ます。		
第12回	人はどうしてブランド品に魅了されるのか	自分が欲しいと思っているブランド品にをあげ、 それを持つことが自分に何をもたらしてくれるの かを分析的にまとめてみる。	4時間
	ルイ・ヴィトンやエルメス、カルティエやティファニーなどのラグジュアリー・ブランドから、ユニクロやMUJI、ZAR AやH&mの手に入れやすいブランドまで、人はどうして"有名なもの"、すでに"人気を博しているもの"を身につけたがるのでしょう?この授業では、ブランドというものを追い求める人間の心理について、心理学や脳科学などの見地から説明していきます。		
第13回	どうして「それ」を買ってしまうのか?	自分がよく行く服屋さんに足を運び、その店内レイアウトや照明、商品の並べ方についてよく観察し、それが来店者に与えているであろう効果について分析してみる。	4時間
	消費社会が非常に高度に発展した現代では、消費者の購買 意欲をかき立てるマーケティングの手法も日々進化してい		
	ます。 この授業では、脳科学を利用したマーケティングの手法に ついて、その概略と今後の可能性について学んでいきます 。		
第14回	わたしの心はどこまでわたしのものか?	サブリミナル広告の事例について、インターネッ トや書籍で調べてみる。	4時間
	「どうして自分はこれを買ったのだろう?」「どうして自分はこのような行動をとったのだろう?」 自分での心のことは一番よくわかったつもりでいますが、自分で自分のことがよくわからなくなるのも、これもまたよくあることです。 この授業では、サブリミナルという概念について学び、その潜在意識に働きかける広告やマーケティングについて説明していきます。		

授業科目名	卒業研究Ⅱ						
担当教員名	澤田 和也・伊東 義輝・百々 徹・米田 三沙子						
学年・コース等	2回生	2回生					
授業形態	演習						
実務経験のある教 員による授業科目							
実務経験の概要							

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

「卒業研究Ⅰ」・「卒業研究Ⅱ」では、1年間の通年授業を通じて、商品企画、作品の企画の基本理論を理解し、最終的にオリジナルブランドを作ることを目的とする。制作にあたっては、作品のデザイン、素材となる布の選定、染色方法の検討、パターンメイキング、縫製までの全ての工程についてその実技を習得する。さらに成果発表の方法として、ファッションショーを企画し、その場にて作品展示の手段も学生自身で考案する。最終的に、ファッションショーの企画・立案および発表までの体系的な学びを通して、表現方法を習得する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 アパレル・ファッション業界の一連の流れを、 一年を通じて実践的に体得する。 自己ブランドを立ち上げるという共通目標に対して、グループ作業を通じ自身の責任と義務を認識 しつつ主体性を持って作業に取り組む力を身に付けることができる。

#### 汎用的な力

1. DP7. 完遂

共同作業の中で、さまざまな分野の学びを体験する中で、失敗を繰り返しながら課題を乗り越える ための能力を身に付けることができる。

### 学外連携学修

無し

#### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」 (評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

情報収集力および情報分析力 : 種々の情報媒体から適切な情報の入手能力とその分析方法や判定力を評価する。

30 %

基礎的な実技 : 作業への取組姿勢や技術力を評価する

20 %

表現力 : 自己のイメージの表現到達度と共に、プレゼンテーション能力の技術について評価する。

30 %

定期試験 : 卒業研究の成果を、卒業制作展の場において如何に学んだことを表現しているかの実技試験に充て

る。

20 %

#### 使用教科書

特に指定しない

#### 参考文献等

無し

#### 履修上の注意・備考・メッセージ

常にグループの中の一員として自身の置かれた立場を考え、共同で物事を作り上げる力を養成します。 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 月曜日 1限

**場所**: 生活デザイン第1、2、3研究室

**備考・注意事項**: オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	担当素材の染めや加工を行う。	素材加工の下準備を進めておく	4時間
	前期で作成した素材加工スワッチをベースに、アイテム製 作に必要な分量の素材加工を行う。		
第2回	染色を行う(試し染め)	捺染の概念と技法について理解を深めておく	4時間
	制作相手のデザインに必要な担当素材の染色を行う。		
第3回	染色を行う(本染め)	捺染の概念と技法について理解を深めておく	4時間
	作品の制作イメージに合わせ、デザインに必要な素材の追 加作成を行う。		
第4回	二次加工を行う(下地処理)	加工の下準備を進めておくこと	4時間
	染色を終えた素材にプリントや刺繍など二次加工を行うことで、素材の表情を豊かにする。		
第5回	二次加工を行う(表面処理)	次週までに加工を仕上げておく。	4時間
	前回の作業に引き続き、二次加工を行い目的のデザインを 完成させる。		
第6回	パターンメイキング①(パターンの理解)	パターン作成を進めておく	4時間
	グループごとにデザインしたアイテムのベースパターンを 作成する。		
第7回	パターンメイキング②(アイテム毎に展開)	パターン作成を進めておく	4時間
	グループごとにデザインしたアイテム毎のパターン展開を 行う。		
第8回	パターンメイキング③(サイズ調整)	次週までにパターンを完成させておく	4時間
	グループごとにデザインしたアイテムのパターンをモデル に合わせて調整し完成させる。		
第9回	裁断、縫製。	裁断を終えておく	4時間
	完成したパターンを使用して、素材の裁断を行う。		
第10回	縫製の下準備	次週までに下準備を終えておく。	4時間
	裁断した素材に芯張り、ロック始末など下準備を終える。		
第11回	縫製① (シーチング縫製)	各グループで縫製を進めておく	4時間
	デザインしたアイテムをシーチングで縫製する。		
第12回	縫製②(モデルフィッティング)	修正を終えておく	4時間
	仮縫いしモデルに着せてチェックを行い、修正する。		
第13回	<b>縫製</b> ③ (本生地 <b>縫製</b> )	各グループでアイテム製作を終えておく。	4時間
	染色した生地で縫製を終え、デザインしたアイテムを完成 させる。		
第14回	プレゼンテーション、作品展示の実施	プレゼンテーションの準備を進めておく。	4時間
	プレゼンテーションをまとめて、作品展示の空間イメージ を考える。		

授業科目名	ショップ経営学						
担当教員名	橋本 洋平						
学年・コース等	2回生	2回生 開講期間 後期 単位数 2					
授業形態	講義						
実務経験のある教 員による授業科目	該当する						
実務経験の概要	自社アパレルブランドの	ショップ経営、商業	を施設内でセレクトショップ運	営。(全14回)			

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

この講義は、小売業において店長など店舗経営を任される立場についた場合に必要な経営の基本を習得することを目標としています。内容としては民間企業に就職した場合に役立つ一般的な知識から、自身で経営者となりブランディングする際に必要な知識まで学びます。実際にショップ経営計画を作成しながら、店舗が発展していく為に必要なオリジナリティーのある店舗戦略、論理的な考え方、利益の出し方、計数の見方などをわかり易く学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

就職後に即戦力として活躍するための、店舗経営の基礎や企画書作成およびプレゼンテーション力に関する知識を身につけることができる。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

オリジナリティーのある店舗戦略、論理的な考え 方を身につける。

店舗経営の企画書作成およびプレゼンテーション ができるようになる。

#### 学外連携学修

無し

#### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

#### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

定期試験のレポート (ポートフォリオ) の内容によって、オリジナリティーがあり論理的な考え方であるか、第3者が観て理解しやすく仕上がっているかを評価します。

60 %

課題レポート

定期試験(レポート)

課題レポートの内容によって、基本知識の理解度を評価します。

30

授業内のワーク

課題設定のプロセスが妥当かつ効果的であったかどうか、主体的な取り組み姿勢であったかどうかを評価します。

10 %

### 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

適宜講義で示します

#### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。 具体例をあげてわかりやすく講義します。1〜4回は、次回授業までにレポートを課します。5回以降は、1項目づつ、企画書(ポートフォリオ)のページ作成を課しま す。その回の授業の内容を復習し、次回の授業で企画書の作成が出来るように予習と準備をしておくこと。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 授業の前後 場所: 授業の教室

**備考・注意事項**: 質問は授業の前後に応じる。

計画		学修課題	授業外学修課題に
第1回	講義の概要、デザインの重要性について	レポート課題一差別化できているショップ、独自 性のあるショップのリサーチ。	4時間
	授業を受けるにあたっての注意、授業の概要、ショップ経 営におけるデザインの重要性		
第2回	売上高、原価、費用、利益とは	レポート課題一企業の損益計算書・売上速報を分 析。	4時間
	勘定科目、利益の種類、貸借対照表、損益計算表を学ぶ。 損益計算書、貸借対照表を用いた経営分析		
第3回	利益を上げるには	レポート課題ー複数のショップの損益分岐点売上 高を計算します。	4時間
	損益分岐点の理解と算出		
第4回	計画立案のポイント	レポート課題一「ターゲット」「店舗立地」「価 格帯」が決まっている計画を考える。	4時間
	計画をたてていくプロセスを学ぶ。 「ターゲット」「店舗立地」「価格帯」3つの視点から計 画をたてる。		
第5回	基本計画をたてる	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一商 品構成・ターゲット・店舗立地のリサーチと写真 収集。	4時間
	各自で「独自性のある」ショップ経営計画を作り始めます		
	。 何を?誰に?どこで?販売したいかを決める。		
第6回	ページ作成・レイアウトについて	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一各 自の計画に必要な備品のリサーチ、参考資料を収 集する。	4時間
	何を?誰に?どこで?販売したいかを「写真」と「文章」 で持ってきて、A4の紙にコラージュ(切り貼り)してペー ジを作っていきます。		
第7回	ショップ立ち上げについて	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集ー備 品デザインを考えてくる。	4時間
	ショップ立ち上げ時に必要な備品・デザインできる物を知 る。		
第8回	必要経費について、資金調達について	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一備 品デザインを考えてくる。	4時間
	必要経費を算出し、資金調達の手段を学ぶ。		
第9回	ショップ備品のデザイン	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集―い ろんなショップの販促活動をリサーチしてくる。	4時間
	紙とハサミと色鉛筆などを使って、ショップカード・下げ 札等のデザインをする。 フォトショップ・イラストレーターを使用した制作方法を 学ぶ。		
第10回	販促について	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集ーい ろんなショップのwebショップの形態・特徴をリ サーチしてくる。	4時間
	リピート顧客作りについて学ぶ。 どのような販促活動が、自分の計画に適しているか考える		
第11回	webショップについて	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集―い ろんなショップのレイアウト・ディスプレイをリ サーチしてくる。	4時間
	webショップの仕組みを知る。 webショップのアイデアを考える。		
第12回	<b>VMD</b> について	ポートフォリオ作成一各自の計画に合った店鋪レ イアウト・ディスプレイの作成をする。	4時間
	ビジュアルマーチャンダイジングの基本を学ぶ。 ショップ見取り図と内部レイアウトのデザインをしてみる 。		
第13回	アイテムパランスとアイテムデザイン	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集一各 自で設定したアイテム構成比率にそって、アイテ ム写真を集めてくる。	4時間
	VMDにそって、アイテム構成比率を考える。消化率を考えて 売上目標を設定する。 仕入れアイテムと自社企画のデザインの違いを知る。自社 企画アイテムのデザインをしてみる。		
	ショップ経営計画の振り返り	レポート課題一振り返りレポートを500字以内	4時間

授業科目名	創作研究 I						
担当教員名	伊東 義輝						
学年・コース等	2回生	2回生     開講期間     前期     単位数     2					
授業形態	実習						
実務経験のある教 員による授業科目	該当する						
実務経験の概要	日仏のアパレル企業にお	日仏のアパレル企業において、デザイン、パターンなど衣服作成の実務経験有り。(全14回)					

開放科目の指示:「不可」

#### 授業概要

本授業では、個々の個性の確立、創造性の発展、現代性の理解を目的とし、将来、ファッション業界で活躍するために必要な企画力、技術力を高める。 各自のコンセプトメイキングからテーマ設定、ターゲット設定、コンセプト、テーマを表現する洋服のデザイン、パターンメイキング、パターンチェック、サンプリン グ、ファッションショー形式のブランド発表など全過程を経験することにより俯瞰的視野を持った商品企画のできる人材を育成することを目的としている。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

デザイン、制作、ファッションショー構成など ファッション業界に必要なスキルを総合的に学 び実践することができる。 個々の個性を確立し、創造性を発展させ、現代的 なデザインを提案できるようになる。 1. DP1. 幅広い教養やスキル

被服制作に必要なデザイン能力、技術を個々の 自分の個性を被服製作で表現することができる。個性に合わせて学ぶことができる。 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

デザイン、制作、ファッションショー構成など トータルで計画、立案する力を身につける。 1. DP5. 計画・立案力

計画・立案したことを期限内に確実に行動し、実践していく 2. DP6. 行動・実践

学外連携学修

### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

• 実験、実技、実習

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

個々の個性に基づいたデザインの提案を行い、デザインブックを作成する。そして、その世界観を 人に伝えることのできるプレゼンテーションができているかどうかを評価します。 定期試験

50 %

デザインした洋服をシーチングで美しく表現できているかで評価します。 トアール作成

40 %

作業進捗管理 決められた期限の中で作業を進めることができているかを評価します。

10 %

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

特になし

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時限続きの授業を全14回(合計28時限)実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 火曜日2限

場所: 生活デザイン第3研究室

<b>業計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	コンセプトメイキング1:コンセプトベース ・自分の個性、好きなものを洋服で表現する為、自分のブランドコンセプトを考える。 ・洋服だけでなく絵画、彫刻、建築など様々な分野をリサーチし、洋服をデザインするための要素をインプットする。	必要な資料のリサーチ	2時間
第2回	コンセプトメイキング2: ヴィジュアルまとめ ・コンセプトをまとめ、ヴィジュアルで表現する。	必要なヴィジュアル資料と個々のテーマを表現で きる言葉を探す	2時間
	・コンセプトをまとめ、ワインユアルで表現する。 ・コンセプトを表現できるテーマを探す。		
第3回	<b>デザインする為のテーマを設定する。</b> ・自分のコンセプトを表現するテーマをヴィジュアルで表現する。 ・テーマからデザインに必要なキーワードを出す。	テーマにあった生地や付属など素材を探す。	2時間
第4回	<b>デザインアプローチ1: 資料をまとめる</b> ・自分のコンセプト、テーマを表現する洋服のデザインを考える。・絵画や彫刻、建築などこれまでインプットした資料を洋服のデザインという形でアウトブットし、4 コーディネートのデザインを行う。	コーディネートの参考となるような色や柄の組み 合わせを探す。	2時間
第5回	デザインアプローチ2:カラー、プリント提来 ・4コーディネートのデザインを行う。 ・プリント柄や色の組み合わせを考える。	デザイン画の参考となるイラストや絵画を探す。	2時間
第6回	デザインアプローチ3:シルエット、ボリューム研究  ・ボディを用いて、3Dでのデザイン研究を行う。 ・シルエットやボリュームを見つける。	見つけたシルエットやボリュームをまとめデッサ ンしておく。	2時間
第7回	デザインアプローチ4: ディテール研究  ・3Dでのデザイン研究。 ・ディテールのデザインを考える。	自分にあった画材を用意しておく。	2時間
第8回	デザインアプローチ5: デザイン画を描く  ・集めた資料を使ってデザイン画へ落とし込む。 ・自分のコンセプト、テーマにあった描画表現をおこなう	アクセサリーを含めたトータルコーディネートの 素案を考えておく。	2時間
第9回	<ul><li>デザインアプローチ6:アクセサリーデザイン</li><li>4体のデザイン画を描き、アクセサリーのデザインも行う。</li></ul>	デザイン画を仕上げておく	2時間
第10回	デザインブックを作る ・ロンセプト、テーマ、デザインアプローチ、デザイン画をまとめたデザインブックを作る。	デザインブックに必要な資材を集めておく	2時間
第11回	<ul> <li>1、2体目、パターン制作</li> <li>・1、2体目のパターン制作を行う。</li> <li>・1、2体目のパターン制作を行う。</li> </ul>	デザインブックの作成を進める(紙の種類など自 分のデザインにあった材料を探す)	2時間
	<ul><li>・1、2体目のパターン制作を行う。</li><li>・デザインブックのチェックを行う。</li></ul>		
第14回	1・2体目仮縫い	デザインブックの作成、プレゼンテーション準備 を行う。	2時間
	<ul><li>・1・2体目のデザインをトアール縫製する。</li></ul>		

授業科目名	創作研究Ⅱ				
担当教員名	伊東 義輝				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	該当する			
実務経験の概要	日仏のアパレル企業にお	いて、デザイン、ノ	ペターンなど衣服作成の実務経	験有り。	

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

本授業では、個々の個性の確立、創造性の発展、現代性の理解を目的とし、将来、ファッション業界で活躍するために必要な企画力、技術力を高める。 各自のコンセプトメイキングからテーマ、ターゲット設定、コンセプト、テーマを表現する洋服のデザイン、パターンメイキング、パターンチェック、サンプリング ファッションショー形式のブランド発表など全過程を経験することにより俯瞰的視野を持った商品企画のできる人材を育成する。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

デザイン、制作、ファッションショー構成など ファッション業界に必要なスキルを総合的に学 び実践することができる。 個々の個性を確立し、創造性を発展させ、現代的 なデザインを提案できるようになる。 1. DP1. 幅広い教養やスキル

被服制作に必要なデザイン能力、技術を個々の 個性に合わせて学ぶことができる。 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 自分の個性を被服製作で表現することができる。

汎用的な力

デザイン、制作、ファッションショー構成など トータルで計画、立案する力を身につける。 1. DP5. 計画・立案力

計画・立案したことを期限内に確実に行動し、実践していく 2. DP6. 行動・実践

学外連携学修

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

定期試験(卒業制作ファッションショー) 卒業制作コレクション作品デザインの創造性、現代性、作品完成度を評価します。

70 %

自分の立てたスケジュールに沿って作業を進めているのかなど自己管理できているかを評価します。 作業進捗管理

30 %

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時限続きの授業を全15回(合計30時限)実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 火曜日2限

場所: 生活デザイン第3研究室

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	3体目のパターンメイキング1:トップス、フライヤーデ ザイン	フライヤーのデザインを考えておく。	2時間
	<ul><li>3体目のパターン制作</li><li>ショーのフライヤーデザインを始める</li></ul>		
第2回	3体目のパターンメイキング2:トップス、アウター、フ ライヤーデザイン	3体目のパターン制作を進めておく。	2時間
	・3体目のパターン制作		
第3回	3体目のパターンメイキング3:アウター、ボトム、フラ イヤーデザイン	3体目のパターン制作を進めておく。1体目の素材を探す。	2時間
	<ul><li>・3体目のパターンメイキング</li><li>・ショーのフライヤーデザインを完成させる</li></ul>		
第4回	3体目のパターンメイキング4:ボトム	パターンを仕上げておく。1体目の素材を探す。	2時間
	・3体目のパターンメイキング		
第5回	3体目の仮縫製1:トップス	3体目のトアール縫製を進めておく。 2 体目の素材を探す。	2時間
	<ul><li>・3体目のデザインをトアール縫製する。</li></ul>		
第6回	3体目の仮総製2:ボトム	3体目のトアール縫製を進めておく。2体目の素材 を探す。	2時間
	<ul><li>・3体目のデザインをトアール縫製する。</li></ul>		
第7回	3体目の仮縫製3:アウター	3体目のトアール縫製を進めておく。	2時間
	・3体目のデザインをトアール縫製する。		
第8回	3体目の仮縫製4:コーディネート、素材チェック	モデルの予定を管理しておく。3体目の素材を探 す。	2時間
	<ul><li>・3体目のデザインをトアール縫製を仕上げる。</li><li>・1.2体目の素材をチェックする。</li></ul>		
第9回	モデルフィッティング、パターン修正	パターン修正を行う。3体目の素材を探す。	2時間
	<ul><li>・モデルフィッティングでの変更点を修正する。</li><li>・3体をショーで着用するモデルに着せてチェックする。</li></ul>		
第10回	本生地裁断、ファッションショー構成1:背景映像	ショーの構成案を作る。素材チェックを行う。	2時間
	・3体の本生地裁断 ・ファッションショーの背景映像を考えていく。		
第11回	本生地裁断と縫製、ファッションショー構成2:モデル ウォーキング	3体の本生地裁断を終えておく	2時間
	<ul><li>・本記事裁断が終わり次第、縫製を始める。</li><li>・ファッションショーのモデルウォーキングを考えていく</li></ul>		
	。 ・1.2.3体目の素材をチェックする。		
第12回	<b>縫製1:1・2体目縫製、ファッションショ一構成3:</b> 照 明	3体のコーディネートを完成させる。	2時間
	・3体の縫製 ・ファッションショーの照明案を考える。		
第13回	縫製2:2・3体目縫製、ファッションショ一構成4:全 体バランス確認	3 体のコーディネートに必要なアクセサリーを揃 えておく。	2時間
	<ul><li>・3体の縫製</li><li>・ファッションショーの構成を考え、必要であればリハーサルを行う。</li></ul>		
第14回	3コーディネートを完成させて、モデルフィッティング、 写真撮影	3体の縫製を完成させる。	2時間
	<ul><li>・3体の洋服制作、アクセサリーなどのコーディネートなどを完成させる。</li><li>・アクセサリーを含めたすべてのコーディネートをモデルに着せて撮影を行う。</li></ul>		

授業科目名	ネールアート	ネールアート演習				
担当教員名	高尾 理恵	高尾 理恵				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1	
授業形態	演習					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	 該当する				
実務経験の概要	ネイリストとしてサロン 美容専門学校にてネイル 日本ネイリスト協会常任	ワークの経験を積む 教員として勤務。 本部認定講師として	ら。 - - 活動しネイリストの育成、イ	ベント活動に参加。		

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

1ネイルテクニックの基本であるネイルケアを学び、ネイルケアの重要性や必要性を学びます。技術だけではなく、理論も学びます。そして、爪の構造や爪の病気等も学び、ネイリストとして、施術可能なのか医師に託さないといけないのかを判断する力を身につけます。サロンワークの中で大切な消毒管理やお客様へのカウンセリングの仕方等も、カウンセリングシートに基づいて学びます。 2流行のジェルネイルを取り入れ、持ちが良いジェルネイルの塗り方や流行のジェルアートを学びます。 3授業の集大成として各自でテーマを設定し、作品作成を行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

手を美しく手入れし、アートまで施せるようにな る 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 ネイルの基礎を理解し実践していく

汎用的な力

多くの方の手に触れ経験しネイル技術を実践して いく 1. DP6. 行動・実践

### 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

• 実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

## 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

積極的に実習に取り組み、課題をクリアしようとしているかの観点から、独自のルーブリックで評価する。 授業熊度

% 40

定期試験(作品) 授業の集大成として、テーマに沿った作品を努力し作成しているかの観点から独自のルーブリックで評価する。

40

授業におけるノートの作成及び提出を指示したプリントを、独自のルーブリックで評価する。 提出物

20

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

JNA テクニカルシステムベーシック INA テクニカルシステム〜ジェルネイル〜

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるので、平均すると毎時間1時間の授業外学習が求められる。 教材購入日(第2回目の授業時を予定)に指定された教材を購入する必要があります。 教材が無いと授業が受けれませんので必ずご購入下さい。 基本的に実習は相モデルで行いますので、指定された日は必ず自爪で授業に参加して下さい。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業前後場所:授業時の教室

**備考・注意事項**: 質問に関しては、授業の前後で対応いたします。

<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の目標と進め方	爪の形の種類5種類を覚える。教材を準備する。	1時間
	・授業の目標と進め方 ・実習に必要な消耗品準備通達 ・爪の形と種類を学びネイルチップにて実践します。		
第2回	<b>教材購入、確認 ネイルケア①相モデル 消毒~ファイル</b>	ネイルケアの手順を必ず頭に入れておく事。	1時間
	<ul><li>・教材を購入し、道具の確認と説明を行います。</li><li>・材料を覚え、衛生的に技術が行われるようにテーブルセッティングを学びます。</li><li>・ネイルケアのデモンストレーションを見学し相モデルで実践していき、モデルの手の扱い方を学びます。</li></ul>		
第3回	ネイルケア②相モデル 消毒~ファイル~キューティクル プッシュまで	エメリーボードを使用し爪の形を整える	1時間
	<ul><li>・エメリーボードの扱い方を学びます。</li><li>・キューティクルのプッシュアップとプッシュバックを行い、正しいメタルプッシャーの扱い方を学びます。</li></ul>		
第4回	ネイルケア③相モデル 消毒~ファイル~キューティクル プッシュ~クリーンナップ	第4回までの内容を復習する。	1時間
	<ul> <li>・前回までのキューティクルのプッシュアップとプッシュ バックまでの工程を復習していき、ネイルケアの仕上げと なるクリーンナップを学びます。</li> <li>・正しいガーゼ、ニッパーの持ち方を学び、ルースキュー ティクルを適切にカットしていきます。</li> </ul>		
第5回	カラーリング、パッフィング相モデル	カラーリングの手順を復習する。	1時間
	<ul><li>・カラーリングデモンストレーション見学</li><li>・マニキュアを用いて、ベースコートからカラー、トップコートまでプロの塗り方を学びます。</li><li>・爪の表面の磨き方を学びます。</li></ul>		
第6回	爪の構造、爪の病気、ジェルの性質	爪の構造、爪の病気のプリントを復習する。	1時間
	・基本となる爪の構造を学び理論的にもネイルケアの重要性をも学びます。 ・爪の病気の種類を学びネイリストとして施術可能か不可能かを見極める力をつけます。的確なアドバイスを行える力を身につけます。 ・次回の授業から行うジェルネイルに向けて、ジェルの種類や特徴等を学びます。 ・指定されたプリントの提出		
第7回	ジェルネイルの塗り方、オフの仕方	プレパレーションの復習をする。	1時間
	<ul> <li>ジェルネイルを塗る前に重要なプレパレーションを学びます。</li> <li>ジェルネイルの扱い方、塗り方を学びます。</li> <li>ジェルネインの仕方を学びます。</li> <li>自爪にて実践。</li> </ul>		
第8回	ジェルネイル カラージェル相モデル	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習す る。	1時間
	<ul><li>・プレパレーションの確認を行い、相モデルにてカラージェルを実践する。</li><li>・カラージェルの量の取り方、ハケ圧等に気をつけて美しく爪にカラージェルを塗っていきます。</li></ul>	<b>♥</b> 0	
第9回	ジェルネイル グラデーション相モデル	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。	1時間
	・グラデーションの技法を学び1色の色をクリアジェルで薄めて塗っていきます。 ・効率よく技術が進めれるように交互に施術していきます。	'ବ୍ର	
第10回	ジェルアート マーブル、タイダイ、大理石 ・マーブルとは、数色のカラージェルを使い、混ぜ方や使用する筆によってデザインが大きく異なります。技法を変	実習したネイルアートを復習する。	1時間
第11回	えながら自分好みのマーブル模様を描いていきます。 ジェルアート ピーコック、ひょう柄、チェック	実習したネイルアートを復習する。次回の授業に 必要な道具を準備する。	1時間
	・ピーコックとは孔雀の意味です。孔雀の羽根の様な模様を描きます。 ・季節に合わせ秋になると人気の出るひょう柄アートを学びます。 ・チェックにも沢山の柄がありますが、今回は季節に合わせて冬に人気なツイードチェックを学びます。	A SAEA C TIME / WO	
第12回	サロンワーク実習①施術者orモデル	カウセリングシートを完成させておく。次回の授	1時間
	<ul><li>・サロン形式で授業を行い、お客様のオーダーを元にカウンセリングを行い、ネイルケア〜ジェルカラー〜ジェルアートを施す。</li><li>・カウセリングシート提出</li></ul>	業に必要な道具を準備しておく。	
第13回	サロンワーク実習②施術者orモデル 12回の授業時のペア	次回から行う作品作成のテーマや構図を絞り込ん	1時間

	<ul><li>・サロン形式で授業を行い、お客様のオーダーを元にカウンセリングを行い、ネイルケア〜ジェルカラー〜ジェルアートを施す。</li><li>・カウセリングシート提出</li></ul>		
第14回	課題作品構成	次回、作品が提出出来るように進めておくこと。	1時間
	・作品を作成するにあたりデッサン画を作成する。		
	・テーマは各自で設定し、作品には必ずジェルアートを施 すこと。		
第15回	定期試験	使用したジェルや筆をしっかりとメンテナンスし ておき、道具を大切に長く使用できるよう保存さ せましょう。	1時間
	・授業の集大成とし、10本のネイルチップに作品を完成させ、デッサン画と作品の説明を記入しネイルチップと共に提出する。		
第16回			4時間

授業科目名	ブライダルコーディネート論				
担当教員名	竹下 由夏				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神社、教会、外資系ホテ スタイルの結婚式を20年	ル、国内ホテル、ク 以上の実績でプロラ	デストハウス、レストラン、フ ニュース。花嫁コンサル、企業	リースタイル、重要 コンサルとしての7	要文化財、自宅婚…すべての アドバイザー業務。

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

ブライダル/ウエディング業界の内容、結婚にまつわる(婚約から挙式・披露宴の流れや一般常識)基礎知識について学ぶ。 ブライダルは伝統的な知識も必要であるが、時代の流れによりニーズ・流行の動きがある。 その背景を理解し実践にてプランニング力を身につけ、ブライダルの勉強を通じて多種多様のビジネス、将来的にはプライベートでも応用できる内容を学ぶ。 グループで協力しあう内容もあり、お互いに協調性・提案力を身につける。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

一般的なブライダルに関する多種多様な知識を 得るための学び 1. DP1. 幅広い教養やスキル

社会に出るにあたって、準備として知っておくべき一般常識を含むブライダルの基礎を習得する。 収集した情報や学んだ内容を元に、プロのプランナーと同等に話が出来るようになるくらいの資料を作成することができるようになる。 花嫁目線で実践的内容の分析・理解 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

自身をモデルに実際の花嫁と同じ目線で計画をス クラップブックに作成する。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

コロナ禍を経て今後の結婚式の新しい形式を模索 2. DP4. 課題発見

学外連携学修

無し

## 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

授業内課題 宿題発表・資料収集・制作物提出

40 %

授業への参加態度(積極的参加・遅刻状況・素直さ・マナー)※私語、化粧、居眠り、携帯電話すべて厳禁 日常点

定期試験 筆記試験

30 %

30 %

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

ゼクシー(毎月の月刊誌) ウエディングブランナーのための実践マニュアル THE THEORY OF BRIDAL BUSINESS 著書:三本賢治・谷藤進 (株式会社ベネフィックスコンサルティング) ウエディングブランナーになる!? 著書:条美奈子(秀和システム) 結婚式っておもしろい!? 著者:たかはしみき(主婦と生活社) 和婚 花嫁衣装&和の結婚式新ルール 著者:飯田美代子(芸文社) 婚約と結婚の手帳 一21世紀の結婚あなたの疑問に答えます(早わかりガイド) 監修:安部 トシ子 大事なところをきちんと押さえる結婚の段取りとしきたり 監修:安部 トシ子

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 出講時 場所: 授業終了後

備考・注意事項: あらかじめ文面にて受付ます。必ず氏名・所属を書くこと。

<b>削画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション(授業概要説明)	・まだ実感のないウエディングを少しでも身近な事として感じる為に、実際に結婚式を経験された ご両親やご兄弟や身近な人に、結婚式の事(準備期間や費用、大変だったこと)を聞いてレポートする。	1時間
	授業時に必要な物(スクラップブック等)の使用方法 授業内容の説明 スタンダードなウエディングを知ってもらう		
第2回	挙式・披露宴のスタイル	・両親や兄弟や身近な人の中で、結婚式を経験された人に挙式スタイルを聞き流行についての下調べ、実際の会場(ホテル・ゲストハウス・レストラン)に新規パンフレットをもらいに行ったり、資料請求をしたりしてパンフレットを取り寄せる	1時間
	結婚式の流行と変遷(コロナ禍の結婚式について)、挙式 スタイルの種類、婚礼会場の種類について学ぶ Webから自分がしてみたい会場を選ぶ		
第3回	会場研究	・自分自身の結婚式で絶対にやりたくない事を10 ケ以上書き出してくる。	1時間
	第2回で資料請求して取り寄せた会場のパンフレットを見たり、HPを見ながら皆で研究をします		
第4回	冠婚葬祭	・両親や兄弟や身近な人の中で実際に結納された 方に当時の様子を聞きレポートする ・婚約指輪を もらうならどんなものが欲しいかをスクラップし たりデザイン画を描いてくる	1時間
	お祝い事とお悔みごとの違いや、婚約とは? 結納とは? 必要性も併せて学ぶ		
第5回	招待状・ペーパーアイテム	・実際に自分の時の招待状の文面はどうするか? デザインも考えてみる	1時間
	招待状のスタイルや意味、必要性、重要性を学ぶ お祝い切手とは? その他ウエディングで使うペーパーアイテムの種類等を学		
	ぶ 近年増えつつあるweb招待状のメリット・デメリットを理解 する		
第6回	引出物・引菓子・プチギフト	・自分の時には、引出物・引菓子・プチギフト (親族・会社関係・友人)を何にするのかどこの 物にするか等ご両親と話してみたりして考えてく る	1時間
	引出物・引菓子・プチギフトとはどんな意味がありどんな 種類があってお値段帯は?等を学ぶ		
第7回	衣装・美容(洋装)	・どのような衣装 (洋装) を着たいか、どんなヘアメイクをしたいかを考え、雑誌から切り抜いたりインターネットからプリントアウトしたりしてスクラップする	1時間
	花嫁・花婿の婚礼衣装(洋装)、ご両親の衣装(洋装)の 種類や常識を学ぶ 花嫁の美容について学ぶ		
第8回	衣装・美容(和装)	・どのような衣装(和装)を着たいか、どんなへ アメイクをしたいかを考え、雑誌から切り抜いた りインターネットからプリントアウトしたりして スクラップする	1時間
	花嫁・花婿の婚礼衣装(和装)、ご両親の衣装(和装)参 列衣装の種類や常識を学ぶ 花嫁の美容について学ぶ		
第9回	装花全般・テーブルプラン	・どんなブーケを持ちたいかを考え、雑誌やWebなどから切り抜いたりインターネットからプリントアウトしたりしてスクラップする	1時間
	花嫁の持つブーケの種類や意味や内容を学ぶ その他パーティースタイルのテーブルブラン、テーブルコ ーディネートと会場装花についても学ぶ		

第10回	プランニングステージの業務	・実際にレストランに食事に行った際には、テー ブルコーディネート等意識して見てみる ・自分の 時は何料理がいいか等家族で話してみてまとめて くる	1時間
	会場の受付・お料理・お飲物・ウエディングケーキ、テー ブルマナーの知識を身につける		
第11回	ブライダル商品の基礎知識	自分の ①生まれたての赤ちゃんの時の写真 ② 幼少期 (小学校低学年) の一番思い出深い写真 ③とびっきりの笑顔の写真 ④ケ嫌いな写真・見たくもない写真 ⑤今までで一番[思い出深い]写真 ※例:大切な人との写真など 計5枚を必ずスクラップブックに貼ってくる	1時間
	司会・演出・音楽(著作権)・写真・ビデオ等の基礎知識		
	を身につける 挙式のBGM、讃美歌、披露宴のBGMを学び実際にあてはめて みる		
第12回	結婚式当日の流れ①	・日頃 食事に行った際のスタッフのサービスから ブライダルのサービスについて、違いと関連のあ るところを探求する ・美容・衣装・装花・演出な ど、ブライダルの中で1番興味があることについ て探求する	1時間
	結婚式当日の施工・実施から ウェディングに携わる人(ウエディングプランナーを先頭に沢山のスタッフ)当日のサービススタッフのそれぞれの教務について学ぶアテンダーの業務、式、サービスのマニュアル、婚礼会場を取り巻くビジネスについて学ぶ		
第13回	結婚式当日の流れ②	・結婚式で使いたい音楽として選んだ曲の歌詞の 意味等を考え、選んだ理由や好きな部分を書き出 してくる ・音源がある場合は次回持ってくる	1時間
	結婚式当日一日の挙式・披露宴の流れや進行を学ぶ 司会進行をするMCの仕事も学ぶ		
第14回	ブランニング実習	本日の計14回までの授業内容で、もう少し深く知 りたい事や、学びたい事、もう一度聞きたい質問 を考え書きだしてくる	1時間
	実際の新郎新婦が打合せ時に使う進行表に、音楽や進行を プランニングしてみる。仕上げて発表できるように準備す る スクラップブック完成提出		

授業科目名	染色加工学				
担当教員名	澤田 和也				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「可」

### 授業概要

我々の身のまわりには非常に多くの染色された衣料品があり、その色彩は、デザインや柄と共に衣料品を評価する際の非常に重要な要素の一つである。一方、染色と言ってもその手法やメカニズムは多岐にわたり極めて複雑である。本授業では、このような日常生活と密接に関連している衣料品の染色についての理解を深めるため、「色の特性」、「染料の構造と特徴」、「染色後の種々の堅牢性」、「伝統工芸染色と工業染色」、「種々の加工方法」、「未来の染色技術」などについて、染色加工工程全般に関しての概略を説明する。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性

#### 具体的内容:

目標:

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

染色プロセスの中でも特に、染着性の特性差に 重点を置き、その内容についての専門知識を身 に付けることができる。 染色物の色落ち、色泣き、脱色、退色、汚染現象 について、その現象を自身で考え原因究明ができ るまでの能力を身に付けることができるようにな る。

#### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見

染色加工工程で生じる諸現象について、現状も問題点と将来への課題を考察する能力を身に付ける ことができるようになる。

## 学外連携学修

無し

### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

### 注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

ミニレポート

: 毎回5点満点として14回実施し、総計を30点満点に換算する。 自己の考えを含めて詳細に記載されている (5点) 講義内容のみから記載されている (3点) 論点が的確ではない。 (1点)

30 %

特定テーマに対する課題考察力

2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して15点×2回の30点満点で評価する。 社会 的背景も含めて考察出来ている(20点) 授業内容のみで考察出来ている(10点)

30 %

定期試験

学期末に染色に関連する知識の理解度についての試験を実施する。 筆記だけでなく、プレゼンテーションを含めた総合的な内容の試験とし、40点満点として成績評価 に加える。

40 %

### 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

「ファッションと化学」日本化学会編 (大日本図書) 「染色概説」矢部章彦・林雅子 (光生館) 「繊維材料にフォーカスした生活材料学」 榎本雅穂 (アイ・ケイコーポレーション)

# 履修上の注意・備考・メッセージ

日常生活において生じる着色された衣料品のさまざまなトラブルに対して、普段何気なく見過ごしている現象を再認識し、それを防ぐことも視野に入れた授業でもある。 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 月曜日(1限)

場所: 生活デザイン第1研究室

**備考・注意事項**: オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

<b>計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	染色の基礎事項(色素材料)	染料と、顔料の違いを明確に説明できるようにな る。	4時間
	衣服の染色に用いる染料と、着色に用いる顔料の相違は何 か、両者により色付けされた衣料品はどのような特徴があ るかについて説明し、色素と染色の概略を解説する。		
第2回	染色のための前処理	なぜ、染色の前処理工程が必要かについて理解 し、復讐しておく。	4時間
	染色のために行われている精練や漂白等の前処理を行う意味について理解する。これらの工程を省いた場合にどのような影響が出るかを理解できるように解説する。		
第3回	染色における水	以前と現在の染色排水と環境汚染の問題、将来の 課題について考えることができるようになる。	4時間
	染色後に排出される大量の汚染排水について考える。過去 と現在の状況を解説し、着色排水の処理にどのような工夫 がなされているかについて解説する。		
第4回	染料の種類と特徴	染料の構造上の分類分けができるようになる。	4時間
	様々な種類に分類される染料を系統的に分類して、その特 徴を説明する。特に、天然染料と化学染料の類似点と相違 点について重点をおき解説する。		
第5回	染料染着について(直接染料、建染染料、ナフトール染 料、硫化染料、反応染料)	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であること を理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に 対して染着しているかを理解する。	4時間
	直接染料、建染染料、ナフトール染料、硫化染料、反応染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニ ズムについて解説する。		
第6回	染料染着について(酸性染料、酸性媒染染料、金属錯塩酸 性染料)	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であること を理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に 対して染着しているかを理解する。	4時間
	酸性染料、酸性媒染染料、金属錯塩酸性染料のそれぞれの 特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解 説する。		
第7回	染料染着について(カチオン染料、分散染料)	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であること を理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に 対して染着しているかを理解する。	4時間
	カチオン染料、分散染料のそれぞれの特徴について解説し 、繊維との染着メカニズムについて解説する。		
第8回	染色加工(セルロース系繊維の浸染)	染料の種類だけでなく、繊維の種類によっても染 色手段が変わることを理解する。	4時間
	天然繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。 特に、セルロース系の繊維を染色する際の工程の特徴につ いて解説する。		
第9回	染色加工(タンパク質系繊維の浸染)	染料の種類だけでなく、繊維の種類によっても染 色手段が変わることを理解する。	4時間
	天然繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。 特に、タンパク質系の繊維を染色する際の工程の特徴につ いて解説する。		
第10回	染色加工(アクリル系繊維の浸染)	同じ浸染でも天然繊維とことなる染色について理 解する。	4時間
	化学繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。 この授業では、アクリル系繊維の染色にターゲットを絞り 、その染色工程について解説する。		
第11回	染色加工〈ポリエステル系繊維の浸染)	同じ浸染でも天然繊維とことなる染色について理 解する。	4時間
	化学繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。 この授業では、合成繊維の染色にターゲットを絞り、その 染色工程について解説する。		
第12回	染色加工(捺染)	浸染と捺染の相違を理解する。	4時間
	プリント染と呼ばれる、捺染の技術について講義する。特に、フラットスクリーン捺染、ローラー捺染等、代表的な 捺染の手段について解説し、それぞれの手段の詳細につい て触れる。		
第13回	染色加工(印刷)	従来と異なる新しい染色法であるインクジェット 染色の特徴を理解できるようになる。	4時間
	近年需要が拡大されているインクジェット染色の概要について講義する。従来の顔料による印捺との相違や今後の展望等を解説する。		

第14回 **将来の染色技術** 現在の染色の問題点等を理解し、今後の方向性を 考えることができるようになる。 現在研究されている新しい染色技術、あるいは試験的にすでに実用化されている将来の染色技術につて概説する。

授業科目名	ファッション総合演習B				
担当教員名	澤田 和也・百々 徹・伊東 義輝・米谷 三沙子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

## 授業概要

企業や地域と連携した事業活発について実践的に学ぶ授業を実施する。そのため、対象となる企業や地域の業種や特性について事前リサーチを行うと共に、それをもとにした現地でに実施研修と実践作業を行い、最終的にその成果について実施研修後に総括を行う。 対象企業・地域は、国内とし、業種についてはデザインに関連ある全ての内容を対象として実施する。また、一つの授業内ので対象企業は、複数であることも想定し、それに合わせた時間配分と研修内容をアレンジする。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 目標: 具体的内容:

歴史とデザイン文化を連動させて理解し興味が深 まるようにする 1. DP1. 幅広い教養やスキル 研修先の企業・地域の文化を学ぶ

研修先の企業や地域の文化の違いを理解できるようになる 2. DP2. 専門的知識·技能、職業理解 研修先の各企業や地域の特徴的な文化を学ぶ

汎用的な力

事前に学んだ現地における基礎知識をもとに研修 先で主体的に行動する 1. DP6. 行動・実践

事前に学んだ研修先での行動について、自らの役 割及び連携すべき内容を正しく実践できる 2. DP9. 役割理解·連携行動

## 学外連携学修

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論
- 見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準 授業の取り組み姿勢・熱意 授業における取り組み姿勢及び熱意について評価する。

20 %

研修先で積極的に学ぼうとする姿勢のほか、ルールの順守、メンバーとの協調性等、研修先での取り組みを総合的に評価する

60 %

事後における発表 現地での実施研修を受けてのプレゼンテーション内容の評価

20 %

### 使用教科書

特に指定しない

現地での取り組み姿勢

### 参考文献等

内容に応じて別途指示

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

<b>削車</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	導入一研修企業や団体について	独自の研修ノートをつくり、授業で聴いたことを 軸にして、自らの学びをまとめる	4時間
	研修の導入として、訪問する企業や団体の過去から現在に 至るまでの、風土や文化についてレクチャーを聴く。		
第2回	研修先の企業や団体を知る	研修ノートの更新	4時間
	研修先の企業や団体について、自分自身でその業務内容や 活動履歴等をリサーチし、今回の研修で学ぶべきテーマに ついて事前調査を行う。		
第3回	企業内・地域内業務の学修	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノー トに記録する	4時間
	体験実習に向けての心がまえ、守秘義務について学修し、 自分自身の目標設定も行います。そのうえで企業・地域に 提出するための誓約書の作成を行います。 事前訪問に際しての注意事項や集合場所を確認します。		
第4回	研修先事前訪問	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノー トに記録する	4時間
	研修先の企業・地域を事前訪問し、研修内容の確認、注意 事項について学ぶ。		
第5回	現地研修プログラム1	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノー トに記録する	4時間
	各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での 研修を行う。		
第6回	現地研修プログラム2	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノー トに記録する	4時間
	各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での 研修を行う。		
第7回	現地研修プログラム3	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノー トに記録する	4時間
	各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での 研修を行う。		
第8回	現地研修プログラム4	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノー トに記録する	4時間
	各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での 研修を行う。		
第9回	現地研修プログラム5	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノー トに記録する	4時間
	各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での 研修を行う。		
第10回	現地研修プログラム6	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノー トに記録する	4時間
	各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での 研修を行う。		
第11回	現地研修プログラム7	当日の研修内容と反省点、良かった点を研修ノー トに記録する	4時間
	各企業や団体内での実施計画プログラムに従い、現地での 研修を行う。		
第12回	研修を振り返っての資料まとめ	報告のための資料作成をしっかりとしておく	4時間
	研修で学んだこと、体験したことをまとめて、付加的に調べた情報も加えながら、発表資料を作成していく。		
第13回	グループ討議	グループ内での意見をフィードバックしながら、 自分の発表資料を完成させていく	4時間
	事前に設定しておいた内容を。グループごとに発表内容を 報告しあい、更なるブラッシュアップを図っていく		
第14回	報告会	自らの報告の出来不出来を客観的にとらえ、レ ポートにまとめていく	4時間
	研修を通じて学んだこと、体得したことなどを、報告会の 場で個別に発表していく。発表にはパワーポイントを用い て、わかりやすく、伝わりやすい報告を実施する。		

授業科目名	ファッションコーディネート論					
担当教員名	小谷 秀子					
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2	
授業形態	講義	講義				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する					
実務経験の概要	元アパレルデザイナー。 導および企業研修等を担	その後、服飾専門学 当。(全14回)	☆校専任講師となり、現在は♪ ◇	ペーソナルカラー&ノ	ペーソナルスタイリングの指	

開放科目の指示: 「不可」

### 授業概要

ファッションコーディネート論では、スタイリングの際に必要なシルエット・ディテール・カラー・素材の組み合わせ方を学びます。お似合いになるアイテム選びの他に 体型カバーのコーディネートテクニックを習得することで幅広いスタイリング力を身につけることができます。また、お客様のファッションニーズを把握するためファッ ション感性(タイプ別、年齢別)やスタイリング全体のイメージを表すルックスなどコーディネートの専門知識を学ぶことができます。

コーディネートに必要な専門知識

目標:

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

コーディネートに必要な4つの要素を理解し、 トータルコーディネート提案できる技術を身につ ける

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

2. DP5. 計画・立案力

3. DP5. 計画・立案力

体型カバーを理解し、幅広いコーディネート力を 身につける。

お客様のファッションニーズを理解し、コーディ ネート提案できる。

パーソナルカラーを知ることでその人に似合うカ ラーコーディネート力を身につける

## 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」 (評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み

: 授業への積極的参加(レポート提出含む)、授業態度(受講マナーや私語、忘れ物、携帯電話など 授業の妨げになる場合は減点)を総合的に評価する。

20 %

課題提出

: クラスルームを使用したペーパープランの作成。

30 %

プレゼンテーション能力

: 体型カバーの演習にて具体的に分かりやすく効果を取り入れ、コーディネート説明ができているか評価する。

評価する

20 %

定期試験 : 「ファッション用語」「体型カバー」「パーソナルカラー」を主とした内容の試験を行い、授業内 容の理解度を評価する。 30 %

## 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

コーディネートテクニック 演出編/文化服装学院/文化出版局

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業前後場所:授業時の教室

備考・注意事項: 質問は授業の前後に対応します。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション・コーディネートの概要とファッション用語 講師紹介、シラバスの説明を行う。	ファッション用語を覚えてくる。またオケージョ ンスタイルを作成する。	4時間
	その後、コーディネートの必要性と役割・ファッション用 語を解説。またライフスタイルを理解し、「オケージョン 別のスタイル」をペーパープランにて作成する。		
第2回	<b>アイテムの理解</b> コーディネート説明に必要なアイテムの知識、ディテール	配布したプリントを覚えてくる。	4時間
	・シルエットの違いをパワーポイントにて解説。コーディネートにおいてどのような役割、効果があるのか解説する。		
第3回	デザインの選び方	ペーパープランを仕上げる。配布したプリントの ディテール名やアイテム名を覚える。	4時間
	服のディテールによるファッションイメージの違いを分析 する。「デザインの選び方」をテーマにペーパープランを 作成する。		
第4回	条材の組み合わせ方	ペーパープランを仕上げてる。色の三属性、色相 環、トーンの復習をしておく。	4時間
	同素材、異素材の組み合わせ・柄の選び方・質感によるファッションイメージの違いを理解する。その後、「柄の選び方」のペーパープランを作成する。		
第5回	カラーコーディネート	婦人服売り場のカラーコーディネートをリサーチ してくる。カラーコーディネートのペーパープラ ン作成する。	4時間
	色の知識を復習後、色の組み合わせ方とその特徴を理解する。カラーコーディネートでよく取り入れる配色をパワーポイントにて解説する。また、次回に行うパーソナルカラーについて説明。		
第6回	人を対象としたカラー選び	ペーパープランを4枚完成させる。	4時間
	実際にカラードレープを使い、色がどのように顔色を変化 させるのかデモンストレーションをしながら解説する。ま た「パーソナルカラーの 4 シーズン別」のペーパープラン を作成する。		
第7回	アクセサリーの知識と演習	配布したプリントのアクセサリーの知識を覚えて くる。また巻物の実技内容を復習する。	4時間
	パーソナルカラーの取り入れ方を復習後、アクセサリーの 選び方と注意点を学び、その後スカーフ・ストールの巻き 方を演習する。		
第8回	服飾小物の知識	配付したプリントを復習してくる。	4時間
	靴、鞄、帽子、メガネなど服飾小物の知識と選び方を解説 。		
第9回	主なファッションタイプと年齢によるコーディネートの嗜 好の違い	ファッション感性8分類のペーパープランを作成する。またタイプ別に婦人服売り場をリサーチしてくる。	4時間
	ファッションタイプ・マインドエイジ・ファッション感性 8分類について学び、嗜好の違いを理解する。		
第10回	メンズのコーディネート	授業内容を復習し、メンズの売り場をリサーチし てくること。	4時間
	メンズファッションについてフォーマルからタウンまでの 着こなし方を解説。またジャケットの種類・スーツの選び 方について学ぶ。演習ではネクタイの結び方、ポケットチ ーフの折り方を行う。		
第11回	体型カバーのコーディネートテクニック①	体型カバーのペーパープランを完成させる。	4時間
	体型を全体的な角度、部分的な角度でチェックしスタイル アップに繋げる方法をパワーポイントにて説明。その後、 体型カバーを取り入れたペーパーブランを作成する。 また体型カバーのプレゼンテーションに向け事前チェック およびアドバイスを行う。		

第12回	様々なルックス	次回のプレゼンテーションの準備を行う。	4時間
	着こなしの表現方法を様々なルックスから捉える。		
第13回	体型カパーのコーディネートテクニック②プレゼンテー ション	授業内容と返却されたペーパープランを総復習す る。	4時間
	実際に洋服を使用し、お勧めのコーディネートと体型カバーのコーディネートを4スタイリング制作し、スライドにてプレゼンテーションを実施、評価する。		
第14回	ファッショントレンドの取り入れ方	婦人服売り場にて春物をリサーチしてくる。	4時間
	春夏ファッショントレンドを解説後、総復習を兼ね春物で 流行りそうなアイテムを考え、ディテール、シルエット、 色、素材、全体のスタイルをレポートにまとめる。		
第0回			0時間

授業科目名	ファッション総合演習A					
担当教員名	澤田 和也・伊東 義輝・百々 徹・米田 三沙子					
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1	
授業形態	演習	演習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する					
実務経験の概要	2019年に実施したパリ海 た実績を持つ	外研修を担当し、自	1身の持つ人脈と経験を活用し	ながら、充実した研	肝修計画ならびに実施を行っ	

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

生活デザイン学科のアパレルファッションとイラストアニメデザインの両コースを対象として、世界的な芸術とファッションの拠点であるパリへと赴き、ロココ時代の宮廷ファッションの発信源であり『ベルサイユのばら』の舞台でもあるヴェルサイユ宮殿や、パリの街並みやパッサージュ、再建されたノートルダム寺院などを見てまわり、街なかや古い文化遺跡に散見するデザイン要素を肌身で感じながら採取していく。またルーブル美術館やオルセー美術館をはじめ、衣裳美術館やデザイン美術館などを見てまわることで、デザインハンティングを行い、帰国後にそれをリソースとした作品制作に昇華させる。服飾、建築、インテリア、デザインはもとより、百貨店の最先端のVMDなども視察しながら、卒業制作に向けた知識を経験を蓄えることを旨とする。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性

#### 具体的内容:

#### 目標:

1. DP1. 幅広い教養やスキル

研修先の国の歴史、衣生活文化を学ぶ

歴史と衣生活文化を連動させて理解し興味が深ま るようにする

2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

研修先の各地域のファッションの特徴的な文化 を学ぶ

研修先の国や地域の文化と日本の違いを理解できるようになる

### 汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

(mg) danh

事前に学んだ現地における基礎知識をもとに研修 旅行先で主体的に行動する

2. DP9. 役割理解・連携行動

事前に学んだ研修旅行先での行動について、自ら の役割及び連携すべき内容を正しく実践できる

## 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論
- 見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

現地にておこなったデザインハンティングを基にしたファッションデザインあるいはキャラクターデザインを制作させる

### 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

授業の取り組み姿勢・熱意

: 授業における取り組み姿勢及び熱意について評価する。

20 %

現地での取り組み姿勢

研修先で積極的に学ぼうとする姿勢のほか、ルールの順守、メンバーとの協調性等、研修先での取 り組みを総合的に評価する

60 %

事後における発表

: 現地での実施研修を受けてのプレゼンテーション内容の評価

20 %

### 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

内容に応じて別途指示

# 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 月曜日(1限)

**場所**: 生活デザイン第1、2、3研究室

場所:	生活テサイン第1、2、3研究至		
集計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	導入一パリはなぜファッションの都か?		4時間
	パリ海外研修の導入として、ルイ王朝時代から現在に至る までの、フランス並びにパリにおけるファッションに関す る文化と産業の来し方について、レクチャーを聴く。	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
第2回	パリのファッションに関する調査	調査内容を研修ノートにまとめる	4時間
	ファッションの中心地であるパリについて、オートクチュールやプレタポルテを始めとしたファッション産業の現状について、自分の興味のあるブランドを決めて、そのブランドを軸として幅広く調査する。		
第3回	パリの街の形成	パリの街の中で、自分が興味のある場所を決め て、その歴史的背景について調べて、ノートにま とめる	4時間
	19世紀におけるパリの大規模な都市改造について、その歴 史的背景と現在でも見ることができる街並みにどのような 片鱗が残っているのか、NHKの番組を見ながら学んでいく。		
第4回	ヴェルサイユ宮殿について	ヴェルサイユ宮殿で見聞きしたことを、研修ノー トにまとめておく	4時間
	ヴェルサイユ宮殿を実際に訪れて、その特徴や歴史的な要 点などを実体験を通して学んでいく。		
第5回	イヴ・サンローラン美術館について	イヴ・サンローランについて、事前にしっかり調 ベてノートにまとめておき、現地で学んだことと 照らし合わせて、人物像をつかんでいく	4時間
	イヴ・サンローラン美術館を訪れ、彼が1960年代に端を発して、パリを始め世界中のファッションに与えた影響とその構成について学んでいく。		
第6回	ルーブル美術館での服飾史研究	服飾史の中で、自分が特に興味のある時代やスタ イルを事前に設定し、調べておく。また鑑賞後は それを合わせてまとめておく	4時間
	パリにあるルーブル美術館を訪れ、古代オリエントから19 世紀に至るまでの絵画や彫刻を鑑賞しながら、西洋の服飾 史について学んでいく。		
第7回	パリ装飾美術館での展覧会鑑賞	展覧会の対象となるテーマや様式について、事前 にしっかりと調べて把握しておく	4時間
	その時期にパリ装飾美術館にて開催中の展覧会を見ながら 、装飾やインテリアなど広義のファッションについて学ん でいく。		
第8回	パリ・ガリエラ美術館・モード&コスチューム美術館	事前に鑑賞予定の展覧会とそのテーマについて、 しっかりと調査し、ノートにまとめておく	4時間
	ガリエラ宮殿跡にあるモード&コスチューム美術館を訪れ 、その時期に開催しているファッションに関する展覧会を 鑑賞する。		
第9回	AICPについて	AICPについて、事前に調べて、研修ノートにまと めておく	4時間
	パリで150年以上の歴史を誇るモードの養成学校AICP(ACAD EMIE INTERNATIONALE DE COUPE DE PARIS)を訪問し、パリ でのファッション教育の現状や卒業生の現在の活躍などに ついて話を伺う。		
第10回	パリのVMDについて	事前に、それぞれの百貨店の歴史的変遷とどのようなプランドが入っているのかをしっかり調べておく	4時間
	プランタン百貨店やギャラリー・ラファイエなどオスマン 通りにある世界最高峰の百貨店を訪問し、最先端のVMD(ヴィジュアル・マーチャンダイジング)について学ぶ。		
第11回	フォンダシオン・ルイヴィトンについて	事前にルイ・ヴィトンの歴史や現在の取り組みな どについてしっかりと調べて、研修ノートにまと めておく	4時間
	パリ郊外にあるルイヴィトン財団が所有するフォンダシオ ン・ルイヴィトンを訪れ、開催中の展覧会やフランク・ゲ イリーによるポストモダン建築を視察する。		
第12回	研修を振り返っての資料まとめ	報告のための資料作成をしっかりとしておく	4時間
	帰国後、パリ海外研修で学んだこと、体験したことをまと めて、付加的に調べた情報も加えながら、発表資料を作成 していく。		
			i

第13回	グループ討議	グループ内での意見をフィードバックしながら、 自分の発表資料を完成させていく	4時間
	事前に設定しておいたグループごとで、発表内容を報告し あい、さらなるブラッシュアップを図っていく		
第14回	報告会	自らの報告の出来不出来を客観的にとらえ、レ ポートにまとめていく	4時間
	パリ海外研修を通じて学んだこと、体得したことなどを、 報告会の場で個別に発表していく。発表にはパワーポイン トを用いて、わかりやすく、つたわりやすい報告を実施す る。		

授業科目名	Eコマース基礎				
担当教員名	朴 修賢				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

本授業はonline講義形式で行われます。 昨今は、SNSやWEBサイトなどのデジタル手法を用いて、商品の取引を行うEコマース(Electronic Commerce)が主要な小売業態の一つとして急成長しています。本授業で は、Eコマースに関連する基礎知識と諸相について講義します。 主な内容は、第一、Eコマースを展開するにあたって、必修となるマーケティングとデジタルマーケティングの基礎知識を習得する。第二、Eコマースとは何か、Eコマース において、消費者はどのような意思決定を行っているのかなど、Eコマースの実践に関わる基礎知識と諸相を経営者と消費者の両方の視点から理解します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 目標: 具体的内容:

Eコマースを展開するにあたって、必修となる マーケティングの基礎知識を習得する。 第一、マーケティングの戦略プランが説明できる。第二、Eコマースについて、創造的な発想力をもって、記述することができる。 1. DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

グループディスカッションを通じて、コミュニ ケーション能力を身にづける。

## 学外連携学修

### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

## 注意事項等

各授業回の内容に合わせた課題を授業内で提示します。 授業内で毎回実施する課題作成を重ね、その都度、授業の理解度を確認するよう心がけてください。

## 成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

提出された授業内課題

主旨の理解の正確さ、興味関心、分量などで評価します。

100 %

### 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

- 1. 神崎健太・佐々木塁 他 (2025) 『1冊目に読みたいデジタルマーケティングの教科書』SBクリエイティブ株式会社
- 2. HAKUHODO EC+ (2025) 『EC起点の事業変革 情報堂式 ECから始める、これからのマーケティング』株式会社翔泳社
- 3. 石井淳蔵・廣田章光 他 (2019) 『1からのマーケティング〈第4版〉』 碩学舎
- 4. 西川 英彦・澁谷 覚(2019)『1からのデジタルマーケティング』碩学舎

その他、必要に応じて、授業にて適宜紹介します。

# 履修上の注意・備考・メッセージ

- 1. 基本、LIVE型のオンライン授業ですので、ネットワーク環境が整えった場所で、授業を受けること。
- 2.1回目の授業は、【対面式】で授業ガイダンスを行いますので、必ず、出席すること。
- 3. オンライン授業受講上のルールを厳守すること。
- 4. 「授業内課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

**備考・注意事項**: メールにて、対応します。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	ガイダンス	受講のための設定・授業目標と主要キーワードを 確認する。	2時間
	授業内容・進め方・評価基準について概説する。	FREEZ / GO	
第2回	情報化とEコマース1	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	情報化社会の意味を多方面から説明する。		
第3回	情報化とEコマース2	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	インターネットの発展過程を解説する。 インターネットをはじめ、デジタル化がビジネスをどのように変えたのかについて考える。 Eコマースの発展過程を説明する。		
第4回	マーケティングの基本 1	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	マーケティングの重要性について、マーケティングの定義 ・基礎概念について解説する。		
第5回	マーケティングの基本 2	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	STP戦略、マーケティング 4P、マーケティングプランにつ いて学ぶ。		
第6回	Eコマース概要	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	Eコマースの定義と特徴について説明する。		
第7回	デジタルマーケティングの基本 1	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	デジタルマーケティングと既存の伝統的なマーケティング の違いについて考える。 デジタルマーケティングの位置づけと重要性を解説する。		
第8回	デジタルマーケティングの基本2	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
Anta	デジタルマーケティングの目標・「PCDA]について学ぶ。		
第9回	デジタルマーケティング基本3	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	デジタルマーケティングの主要な手法について学習する。		
第10回	Eコマースと消費者 1	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んで おく。(推定時間:60分)【事後学習】配付資料 の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに 整理する。(推定時間:60分)	2時間
	Eコマースの消費者特徴と意思決定について学ぶ。		
第11回	Eコマースと消費者2	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	ECサイトのターゲット消費者を分析する。		
第12回	Eコマースとメディア1	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んで おく。(椎定時間:60分) 【事後学習】配付資料 の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに 整理する。(椎定時間:60分)	2時間
	Webサイトの種類と目的、特徴について学ぶ。		
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1

第13回	Eコマースとメディア2	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	EコマースのWEBサイトを分析する。		
第14回	まとめ	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	講義内容の確認と総括を行う。		

授業科目名	Eコマース実践				
担当教員名	朴 修賢				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

### 授業概要

本授業はonline形式で行われます。 昨今は、SNSやWEBサイトなどのデジタル手法を用いて、商品の取引を行うEコマース (Electronic Commerce) が主要な小売業態の一つとして急成長しています。本授業では、Eコマース基礎で学んだ内容に基づき、更にEコマースに関する知識を深く学習します。 まな内容は、第一、Eコマースを展開するにあたって、必修となるマーケティングとデジタルマーケティングの基礎知識を学習します。第二、Eコマースの実践に関わる基礎知識と諸相を経営者と消費者の両方の視点から理解します。第三、 [Eコマース] をテーマとした課題について、個別またはグループ作業を通じて問題解決に取り組み、Eコマース実践のスキールを学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

Eコマースを展開するにあたって、必修となるマーケティングの基礎知識を習得する。 第一、マーケティングの戦略プランが説明できる。第二、Eコマースについて、創造的な発想力をもって、記述することができる。 1. DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

グループ作業・ディスカッションを通じて、コミュニケーション能力を身にづける。 1. DP8. 意思疎通

## 学外連携学修

無し

### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

## 注意事項等

各授業回の内容に合わせた課題を授業内で提示します。 授業内で毎回実施する課題作成を重ね、その都度、授業の理解度を確認するよう心がけてください。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

提出された授業内課題 主旨の理解の正確さ、興味関心、分量などで評価します。

課題の完成度を見て総合的に評価します。 期末課題

40 %

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- 1. 神崎健太・佐々木塁 他(2025) 『1冊目に読みたいデジタルマーケティングの教科書』SBクリエイティブ株式会社
- 2. HAKUHODO EC+ (2025) 『EC起点の事業変革 情報堂式 ECから始める、これからのマーケティング』株式会社翔泳社
- 3. 石井淳蔵・廣田章光 他 (2019) 『1からのマーケティング〈第4版〉』 碩学舎

4. 西川 英彦・澁谷 覚(2019)『1からのデジタルマーケティング』碩学舎

その他、必要に応じて、授業にて適宜紹介します。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

- 1. 基本、LIVE型のオンライン授業ですので、ネットワーク環境が整えった場所で、授業を受けること。
- 2. 1回目の授業は、【対面式】で授業ガイダンスを行いますので、必ず、出席すること。
- 3. オンライン授業受講上のルールを厳守すること。
- 4. 「授業内課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

**備考・注意事項**: メールにて、対応します。

計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	ガイダンス	受講のための設定・授業目標と主要キーワードを 確認する。	2時間
	授業内容・進め方・評価基準について概説する。		
第2回	情報化とEコマース1	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	情報化社会の意味を多方面から説明する。		
第3回	デジタル時代のマーケティングミックス	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	マーケティングの進化と拡張されたマーケティングミック スについて学ぶ。		
第4回	デジタル時代の製品戦略	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。 (推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。 (推定時間:60分)	2時間
	製品戦略の基礎とデジタルマーケティングにおける製品戦 略について学ぶ。		
第5回	デジタル時代の価格戦略	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	価格戦略の基礎とデジタルマーケティングにおける価格戦 略について学ぶ。		
第6回	デジタル時代の流通戦略	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	流通戦略の基礎とデジタルマーケティングにおける流通戦 略について学ぶ。		
第7回	デジタル時代のプロモーション戦略	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。 (推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。 (推定時間:60分)	2時間
	プロモーション戦略の基礎とデジタルマーケティングにお けるプロモーション戦略について学ぶ。		
第8回	Eコマース実践計画 1	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	Eコマース実施のための事前調査・環境調査を行う。		
第9回	Eコマース実践計画2	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。 (推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。 (推定時間:60分)	2時間
	Eコマースの目標設定を行う。		
第10回	Eコマース実践計画3	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。 (推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。 (推定時間:60分)	2時間
	Eコマースの画案安を考える。		
第11回	Eコマース実践計画 4	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	Eコマースの画案安を作成する。		

第12回	Eコマース実践計画 5	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。(推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。(推定時間:60分)	2時間
	企画案のブラッシュアップを行い、修正案を作成する。		
第13回	発表会	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。 (推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。 (推定時間:60分)	2時間
	Eコマース計画案に対する発表を行う。		
第14回	まとめ	【事前学習】配布した学習用資料を事前に読んでおく。 (推定時間:60分) 【事後学習】配付資料の内容に再度目を通し、自分なりにノートなどに整理する。 (推定時間:60分)	2時間
	講義内容の確認と総括を行う。		

授業科目名	衣環境学実験				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

快適で健康的な衣環境を形成するためには、人間の身体条件と取り巻く環境条件の相互関係を捉え、人間の生理に基づいた衣服のあり方を理解し、適した衣服を選択する必要がある。この授業では、「衣環境学」や他のアパレル関連の講義で得た知識を基礎とし、衣料管理士資格取得に必要とされる人間―衣服―環境の関連性について、実験により高度な応用力を身につける。また、得られた実験結果とともに自身の意見や主張をレポートにまとめ、その成果を発表することによって、体験的に得た成果や知識を他者へ伝える能力を養う。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP2. 専門的知識·技能、職業理解 「アパレル生理・衛生学」分野の専門的知識と

人間の生理に基づいた衣服のあり方を理解し、快 適で健康的な衣生活を実現するために、適した衣 服を選択できる。 衣料管理士として従事する職務に必要な能力の 修得 人体とアパレル設計の関係を実験的により詳しく 理解し、製品の適否を判断する力と消費者に適正 なアドバイスができる高度な応用力を修得する。 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

2. DP8. 意思疎通

快適で健康的な衣生活を実現するために、実験成 果を踏まえて身体および環境条件に適した衣服を 選択できる。

人間一衣服一環境の関係性を正しく理解し、実験 成果を踏まえて衣服の適否とその理由を他者へ伝 えることができる。

### 学外連携学修

無し

# 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

受講者が自主的に実験を進めることができるように実験内容を計画し、その方法や必要な情報を含めて作成した実験テキストを使用する。

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

実験レポートを毎週提出し、丁寧にまとめられた結果をもとに考察ができているか等の観点から評価する。 (4点imes 10回)実験レポート

> 40 %

前半・後半の実験終了後に報告会を実施する。各班で実験結果および考察について発表用スライドを作成。他班の発表内容について相互に討議し、審査も実施する。 (15点満点×2回) 発表

30

定期試験 (レポート) 最終課題としてレポート提出を行い、実験を通して衣環境学分野に関する理解度を評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

- ・日本衣料管理協会編「アパレル生理衛生論」(日本衣料管理協会、2016年) ・田村照子編「衣環境の科学」(建帛社、2012年) ・日本家政学会被服衛生部会編「アパレルと健康」(井上書院、2015年)

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

火曜日 時間: 場所: 授業実施教室

備考・注意事項: 授業外の質問には、授業の前後に応じる。

業計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、実験機器取扱い・手順の説明	「衣環境学」で学んだ内容を理解しておく。	1時間
	授業の進行や実験で用いる機器の取扱い方法および実験上 の安全に関する説明を行う。		
第2回	暑さ・寒さと温熱環境1(秋季)	秋季の気温などの結果をまとめグラフを作成す る。	1時間
	気温、湿度、気流および輻射熱を計測し、暑さや寒さに影 響する因子について計測する。		
第3回	体格・動作の測定	同じ班のメンバーの体格を測定し、データを増や す。	1時間
	測定器を用いた人体計測を行う。		
第4回	身体組成の計測	体格指数などの計算を行い、自分の体格を知るこ と。	1時間
	実測により、体格指数や体組成を求める。		
第5回	環境と皮膚温・体温	環境によって皮膚温がどの程度異なるかを推察す る。	1時間
	皮膚温・深部体温を測定し、それらと環境の関わりについ て学ぶ。		
第6回	温熱性および精神性発汗反応の測定	2種の発汗反応を測定し、どの条件でどの部位が多く発汗するのかを調べる。	1時間
	2種類の発汗反応を観察および測定し、どのような違いがあ るのかを学ぶ。		
第7回	実験成果のまとめ(前半)―復習およびプレゼンテーショ ン作成―	前半の実験内容と実験結果について復習し、自分 の考えを説明できるようにしておく。	1時間
	前半に実施した実験成果についてまとめ、発表用の資料を 作成する。		
第8回	実験結果の報告(前半)	他班の発表内容を踏まえて、自分の実験結果を改 めて分析、考察する。	1時間
	前半に実施した実験成果について、班ごとに発表し、質疑 応答を行う。		
第9回	衣服気候と着衣行動	衣服気候が着衣行動にどのような影響を与えるか を推察する。	1時間
	衣服の着脱行動が衣服気候に及ぼす影響について考える。		
第10回	運動時の体温調節反応	運動強度によって心拍数などにどの程度変化があ るのかを班で考える。	1時間
	運動時の体温や心拍数の変化を測定し、安静時と運動時の 生理反応の違いを学ぶ。		
第11回	着衣による拘束性	日常生活で着用する衣服の中で、衣服圧の高いも のはどのような衣服なのかを調べる。	1時間
	衣服圧の測定と、拘束感についての評価により、圧迫によ る人体への影響について考える。		
第12回	皮膚性状の測定	部位によって水分量、脂質、pHが異なることを確かめる。	1時間
	皮膚の水分、脂質、pHなどを測定する。		
第13回	暑さ・寒さと温熱環境(冬季)	後半の実験内容と実験結果について復習し、不足 があれば補填する。さらに、自分の考えを説明で きるようにしておく。	1時間
	冬季における気温、湿度、気流および輻射熱を計測する。		
第14回	実験結果の報告	他班の発表内容を踏まえて、自分の実験結果を改 めて分析、考察する。	1時間
	第9~13回に実施した実験成果について、班ごとに発表し、 質疑応答を行う。		

授業科目名	材料学実験				
担当教員名	坂下 理穂				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

本実験は、繊維製品を扱う様々な現場で活躍できるように、繊維、糸、布に関する知識及び関連技術を身につけることを目的とする。実際の繊維、糸、布を用いた実験を通して、繊維の性質を総合的に理解した上ではじめて可能となる繊維の鑑別技術及び各種試験機器を用いた糸や布の性質を定量的に評価する技術を習得する。また、実際の測定データの取得とレポート作成を通して、繊維、糸、布の特徴と性質を関連させて考察する力も身につける

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性

### 具体的内容:

目標:

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

繊維、糸、布の性能や品質を科学的、客観的に 評価できる能力。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

繊維製品の品質表示に必要とされる繊維の鑑別 が行える能力。 実験や測定の結果の解析を基に、繊維、糸、布の性能や品質が、設計どおりに発現しているかを判断することができる。

繊維の性質を総合的に理解し、繊維鑑別法を実践 することで、繊維の鑑別を行うことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

2. DP6. 行動・実践

3. DP10. 忠恕の心

繊維製品の企画・設計、製造、消費・管理時に生 じる諸問題を発見し、解決できる力を身に付け る。

文献や講義で得た知識を統合し、実際の諸問題に 対応することができる。

互いの気持ちを思いやり、また互いの安全に配慮 して、実験を行うことができる。

### 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

# 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

## 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

実験レポート

: 毎回5点満点として実施し、総計を40点満点に換算する。実験の考察がなされ、創意工夫が記載 (5 点) 、実験を基に考察が記載されている (4点) 、実験の内容のみが記載 (3点) 、記載内容不足 (1 点) 。

40 %

実験発表

: 実験結果を班ごとに発表する。計30点満点で評価する。実験結果を理解し、さらに掘り下げて考察できている(15点)、実験内容を基に考察されている(10点)

30 %

定期試験

定期試験期間に、実験や測定に関する知識と技術の理解度について試験を実施する。筆記試験を中心とした総合的な内容で行い、30点満点で評価する。

30 %

## 使用教科書

## 参考文献等

松梨久仁子編著 衣服材料学実験(生活科学テキストシリーズ) 朝倉書店 榎本雅穂/古濱裕樹編著 繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版 アイ・ケイ コーポレーション

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 金曜日

場所: 授業実施教室

備考・注意事項: 授業時間外でも在室時に対応します。

<b>削</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	前半の実験の説明、繊維の鑑別(顕微鏡による観察)	各繊維の形態についてまとめる。	2時間
	第7回目までに行う実験について説明する。 繊維の鑑別の一つである顕微鏡による形態観察を行う。		
第2回	繊維の鑑別(燃焼)	繊維の種類と染色性の結果についてまとめ、考察 する。	2時間
	各種繊維を燃焼したときの状態を観察し、燃焼状態の違い から、繊維の種類を判別する。		
第3回	鎌継の染色性および溶解性	繊維の種類と染色性および溶解性の結果について まとめ、考察する。	2時間
	酸、アルカリ、有機溶剤に繊維片を浸漬し、これらの試薬 に対する各種繊維の溶解性を調べる。 また、多繊交織布を用いて繊維鑑別用染料により染色する 。		
第4回	混用率試験	溶解法以外の混用率試験について調査し、それぞ れの特徴をまとめる。	2時間
	溶解法により混紡布の混用率を求める。		
第5回	未知試料の鑑別試験	未知の繊維に対する鑑別実験の方法と鑑別結果を 報告するためのプレゼテーション資料を作成す る。	2時間
	テキスタイル基礎実験及び第4回までに習得した鑑別手法を 活用し、未知繊維試料の鑑別を行う。		
第6回	未知試料の混用率試験	未知の混用率試験結果を報告するためのプレゼ テーション資料を作成する。	2時間
	テキスタイル基礎実験及び第4回までに習得した鑑別手法と 混用率試験手法を活用し、未知繊維試料の混用率測定を行 う。		
第7回	未知試料の鑑別および混用率試験結果の発表、後半の実験 の説明	得られた鑑別結果、混用率測定結果について、妥 当性や方法の改善点について考察する。	2時間
	未知試料の鑑別および混用率試験結果についてグループ発 表を行う。また、第8回からの実験について説明する。		
第8回	引張試験	強伸度の測定結果をまとめ、糸、布の構造との関 係を考察する。	2時間
	引張試験機を用い、糸および布の引張試験を行う。測定で 得られた荷重と変位から、引張強さ、伸び率などを計算す る。		
第9回	引裂試験	引裂強さの測定結果をまとめ、糸、布の構造との 関係を考察する。	2時間
	エレメンドルフ引裂試験機により、布の引裂強さを測定す る。		
第10回	耐久性試験	破裂強さと摩耗強さの測定結果をまとめ、糸、布 の構造との関係を考察する。	2時間
	ミューレン型破裂強度試験機による破裂強さの測定を行う		
	。 また、ユニバーサル形摩耗試験機を用いて摩耗強さを測定 する。		
第11回	吸水性	吸水性と繊維の種類、糸、布の構造の関係につい て考察する。	2時間
	バイレック法、滴下法による各種布の吸水速度の測定及び 浸漬法による吸水率の測定を行う。		
第12回	ドレープ性	ドレープ性と剛軟性、ドレープ性と繊維の種類、 布の構造の関係について考察する。	2時間
	ドレープ試験機により、ドレープ係数を算出する。		
第13回	耐熱性	繊維の融点などの温度特性と耐熱性の実験結果から適正なアイロン温度について考察する。	2時間
	各種布について温度を変えた処理を行い、処理前の寸法、 外観、風合いの変化を観察する。 さらに、各繊維の融点測定を行う。		

第14回 **保温性** 布の構造特性と保温性の関係について考察する。 2時間 冷却法を用いて保温性の測定を行い、データを収集する。

授業科目名	被服整理学実験				
担当教員名	澤田 和也				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実験				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

## 授業概要

衣料管理士資格取得において必要な知識の一つである、繊維製品や染色物の洗浄時における取扱いについて科学的に理解すると共に、必要に応じて適切な方法で性能試験を行うことの出来るスキルを実験的に身に付ける。本授業では、1回生時のテキスタイル基礎実験で修得した被服整理に関する実験的素養を基礎にして、JIS規格に準じた精度の高い実験を行い、そのデータ評価をコンピュータ解析により詳細に行い、将来衣料品管理を行う現場で通用する知識と技術を身に付ける。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

実験指針と異なる事態となった際に、如何にして現状を理解して対応策を講じるかを考える力を身に付ける。

### 学外連携学修

無し

## 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

## 注意事項等

毎回出席することを前提とし、規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

実験レポート : 5点×14回を60点満点に換算 実験結果に対する科学的考察の有無や評価方法の把握度の判定

60 %

実験操作の取り組み状況 : 5点×14回を20日点満点に換算 事前説明における注意点や重要ポイントを把握した上での作業か否かの判定

20 %

定期試験 : 整理実験評価の専門技術に関する実技試験を実施し、20点満点で評価する。

20 %

### 使用教科書

特に指定しない

# 参考文献等

実験テーマごとに適宜紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

衣料管理士を取得するために必須の実験です。修得済みの被服整理学、およびテキスタイル基礎実験の内容を十分に理解しておいて下さい。本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 月曜日(1限)

場所: 生活デザイン第1研究室

**備考・注意事項**: オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	実験の全般説明、直接染料による堅牢度試験用染色布の作成	衣料管理士取得を目指し、その整理分野の内容を 理解する	4時間
	・被服整理学実験の内容について説明する。 ・直接染料による染色の基礎事項をマスターする。		
第2回	建染染料による堅牢度試験用染色布の作成	建染染料の特性を理解し、日常生活の中にある建 染染料による染色布の特徴の関連を調べる	4時間
	建染染料の特徴、おようび染色のメカニズムや堅牢性につ いての基礎事項をマスターする。		
第3回	洗浄試験の説明と汚染布の表面反射率測定	日常における衣類の洗浄と汚れ落ちの評価方法に ついて考える	4時間
	洗浄試験において使用する汚染布の特徴を理解し、洗浄に よる反射率変化から得られる洗浄効率の意味を解説する。		
第4回	データ整理と実験説明	パソコンを用いてデータをもとに、種々の評価方 法を理解する	4時間
	・パソコンを用いた実験データの整理方法、各種グラフの 描画や考察方法について解説する。 ・次週から3回にわたる実験内容を説明する		
第5回	綿布への糊付実験及び浴比の洗浄効果評価実験	糊剤の意味を理解する。洗濯物と水の量の関係に ついて理解する	4時間
	・種々の糊剤を用いた綿布への糊剤塗布の実験を行う。 ・種々の浴比における洗浄効果への影響を確かめる。		
第6回	界面活性剤濃度変化による洗浄効率評価の実験	適切な洗剤濃度とは何か、そして理論的にそれは 何を意味するのかを理解する	4時間
	種々の界面活性剤濃度における洗浄試験を行い、洗浄効率 との関係を理解する。		
第7回	反応染料による堅牢度試験用染色布の作成	反応染料と直接染料の違いを理解できるようにな る	4時間
	反応染料による染色のメカニズムや基礎事項をマスターす る。		
第8回	データ整理及び紫外線堅牢度試験布の作成	エクセルによるデータ整理がスムースに行えるよ うになる	4時間
	・過去3回の実験で得られたデータの交換および整理 ・長期にわたって行う、紫外線暴露用試験布の作成		
第9回	洗濯堅牢度用複合試験布の作成	日常生活における洗濯による色落ちの科学的評価 法を理解する。	4時間
	洗濯堅牢度評価法の説明を行い、試験片の作成を行う。		
第10回	洗濯堅牢度試験および摩擦試験	日常生活における洗濯による色落ちの科学的評価 法を理解する。	4時間
	以前に作成した堅牢度試験用布を用いて洗濯堅牢度試験お よび摩擦試験をそれぞれJIS規格に準じて行い、その結果を 評価する。		
第11回	表面張力測定	表面張力の変化とcmcの関係について理解できるようになる	4時間
	界面活性剤濃度を変化させ、表面張力の変化と界面活性剤 濃度の関係を調べる。		
第12回	糊付け効果の測定および分散染料染色	カンチレバー式剛軟度測定の手段を理解する。グレースケール取扱いおよび評価方法をマスターする。	4時間
	<ul><li>・以前に作成した糊付け布の剛軟度と糊剤の相違の関係を評価する。</li><li>・分散染料の染色を種々の条件下において行う。</li></ul>		
第13回	紫外線堅牢度の評価	染料の相違による紫外線堅牢性の相違を理解する	4時間
	数週にわたって実施してきた紫外線堅牢度試験の結果を評価する。		
第14回	実験評価と衣料管理士業務	今まで実施した実験内容の実際の現場における応 用作業を理解する	4時間
	衣料管理協会の基幹事業実施の一環を受け、被服整理学実 験で実施した実験内容や評価方法が、衣料管理士として現 場でどのように現場で活かされるかについて、業界人を招 いたセミナー方式での討論会を行う。		

授業科目名	ヘアメイク演習				
担当教員名	三宅 詩織				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	美容師、メイクスクール アへの駐在経験あり。現	美容師、メイクスクール講師を経てヘアメイクとして活動。海外挙式専門のブライダルヘアメイクとしてニューカレドニアへの駐在経験あり。現在はフリーランスとして和装婚礼を主に年間100件以上の前撮りや挙式を担当。			

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

髪に関しての基礎知識をつけること、セルフへアアレンジができる技術を身につけること。 相モデル演習により他人のヘアもスタイリングできるようにする。 ブライダルやアパレル業界で働く為には美を高める技術は必須でありその為に自身のヘアアレンジカを身につける。 お客様との信頼関係を築く為、ヘア知識を含めたトータルプロデュースができるようになる。 授業で学んだヘアアレンジを、別日の朝トライする時間が取れる貴重な期間(学生時代)に技術を身につけることで今後の女性人生をさらに充実させ華やに送る。

## 養うべき力と到達目標

目標: 確かな専門性 具体的内容:

自分のイメージしたヘアアレンジができる 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 得意スタイルを3つ作る

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践 一度は展示モデルになり積極的に参加する

### 学外連携学修

無し

### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- 実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- •見学、フィールドワーク

# 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

### 注意事項等

授業の実習には必ず参加、時間が許す限り手を動かす姿勢を評価します。 原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

受講態度 授業に取り組み参加する意欲

20

準備力 毎回必要になる道具を事前に揃えて来ているか

10 %

定期的に学んだ技術が習得できているか確認テストを行います。 技術力

> % 20

定期試験 (筆記) 各授業時に学んだ講義の筆記テストを行います。

20

フリーテーマによる製作力の評価 作品提出 (技術)

20

小レポート 毎授業で配布されるプリントへ内容の妥当性と構成について記入、評価します。

10 %

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

日本の髪型/京都美容文化クラブなど 随時資料を配布する

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間程度の授業外学修が求められる。

授業で学んだヘアスタイルを別日で実践することを授業外学修とする為、スタイル写真を残し提出することを求める場合もある。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業前後場所:授業時の教室

**備考・注意事項**: 授業前後の質問歓迎します

計画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	授業概要説明・展示のみで生徒による実習はなし	必要な道具を次回までに揃える	1時間
	・授業内容の説明・講師自己紹介・現時点でのヘア知識を 図る簡単な小テスト・次回からの持ち物についての説明を すると同時にヘア道具の良し悪しなどの説明・ヘアセット デモンストレーション		
第2回	ヘア道具の種類と使用法・頭部の名称を覚える / 実習:ゴムだけでできるヘアアレンジ	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
	筆記:基本のヘアセットに必要な道具(選び方)とその正 しい使用法を学ぶ・頭の部位の名称を学ぶ		
	実習:自分の髪でセルフアレンジ(例:ポニーテール・ローボニーテール・シニョン:たまねぎ など)		
	海やブール、保育園や幼稚園などピンの使用がNGの場所で もかわいく工夫できるようゴムによるアレンジ		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第3回	ヘアピンの種類と打ち方 実習:ピンを使ったアレンジ	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
	目的に合わせたピンの種類を学ぶ 頭皮に負担のかからな いピンの打ち方の練習		
	必ず準備物としてピンを揃えておく		
	実習: セルフアレンジ・ピンを見せないように毛束を留める (例:シニョン)		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第4回	毛髪知識についての説明 実習:アイロンでスタイルを つくる	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
	どのようにして毛髪の形状に変化がおこるのかを講義 カールアイロン・ストレートアイロンの正しい使い方説明 補足(前髪・サイドの髪の処理やアレンジについて)		
	実習:セルフアレンジ ダウンスタイル・ハーフアップ		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第5回	ヘアスタイルの歴史 展示:日本髪(例:割れしのぶ・島 田結 など) 展示のみで生徒による実習はなし	次回の実技テストにむけて復讐や準備	1時間
	日本のヘアスタイルの歴史についての説明 世界へ出ていく前に知っておきたい日本の伝統と技術のつ まった日本髪を紹介		
	展示:実際に日本髪を作る工程を展示します。 作り方はもちろん日本髪に必要な道具も近くで見ながら学 んでください。		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第6回	実習:フリーテーマ制作	特になし	0時間
	実習:フリーテーマで自分のヘアスタイルをアレンジ		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
第7回	人の髪に触れる 実習:ヘッドマッサージとシンプルアレンジ 相モデル	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
	<del></del>		

	人の髪に触れる時の注意事項		
	実習: 相モデルでマッサージ、コーミング、クルリンパを 使ったアレンジ		
	前半、後半でモデル交替		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第8回	実習:ねじり留め 相モデル	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
	人の髪でねじり留め(見えないピンの打ち方)を練習 ア レンジ		
	前半、後半でモデル交替		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第9回	実習:アイロンを使ったスタイル 相モデル	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
	カールアイロン、ストレートアイロンを使ってスタイルを 提案する		
	前半、後半でモデル交替		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第10回	実習:編みスタイル 相モデル	次回の実技テストにむけて復讐や準備	1時間
	実習: ねじる、三つ編み、方編み、フィッシュボーンなど を使い編んでアレンジする		
	前半、後半でモデル交替		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第11回	実習:ねじり留め確認テスト 相モデル	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
	与えられたテーマに応じてねじり留めができるか技術確認 テスト		
	前半、後半でモデル交替		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第12回	パーティヘアアレンジ 夜会巻きについて 実習:夜会巻き 相モデル	製作イメージをまとめておく	1時間
	あらゆる方面で利用することができるオールマイティスタ イル夜会巻きについての説明		
	夜会巻きからのアレンジスタイル		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第13回	フリーテーマ制作(相モデル) 1	製作イメージをまとめておく	1時間
	自分がやってみたい髪型の画像を準備して解読し実際に仕 上げる		
	前半、後半でモデル交替		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布(小レポート記入)		
第14回	フリーテーマ制作(相モデル)2	今までの配布プリントを確認	1時間
	テーマに合わせたヘアスタイルを一点制作する		
	前半、後半でモデル交替		
	実習後に教室内を回り他の生徒のアレンジを見て学ぶ		
	その日の確認シート配布 (小レポート記入)		
第15回	筆記テスト	特になし	0時間
	基礎知識、歴史、ヘアアレンジ ポイントなどの確認筆記テスト		
	問題は全て授業中に配布されたプリントから出題		

授業科目名	マーケティング論					
担当教員名	橋本 洋平					
学年・コース等	2回生	2回生 開講期間 後期 単位数 2				
授業形態	講義					
実務経験のある教 員による授業科目	該当する	該当する				
実務経験の概要	自社アパレルブランドの	自社アパレルブランドのショップ経営、商業施設内でセレクトショップ運営。(全14回)				

開放科目の指示:「不可」

## 授業概要

この講義では、マーケティングの基本知識とその実践力をつけるために、理論や具体的な手法を学びます。具体的にはグループディスカッションにより市場調査(定性調査)及び消費者調査(定量調査)を実施し、消費者行動を考察します。調査の結果をもとに、「マーケティング戦略」を設定し、その戦略に適したプロモーション・ツールを作成します。さらに、プレゼンテーションを行い、ビジネスにおけるPDCA (Plan、Do、Check、Action)を身につけます。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

マーケティングの基本的理論を理解し、消費者行動を分析する。 市場のニーズを予測できる経営学的センスを身につける。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

消費者行動分析による結果から、未来を予測したり課題を発見したりできる。 1. DP4. 課題発見

## 学外連携学修

無し

### 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ·課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

課題レポートの内容によって、基本知識の理解度・分析能力を、科目独自のルーブリックに基づいて評価します。 課題レポート

40 %

調査結果の発表やプロモーション・ツール制作の発表について、全学ルーブリックに基づいて評価 します。

グループワークとプレゼンテーション

期末レポートの内容について、全学ルーブリックに基づいて評価します。

30 %

30

## 使用教科書

特に指定しない

定期試験(レポート)

### 参考文献等

適宜講義で示します

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項: 質問は、授業の前後に応じる。

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	マーケティングとは何か	   マーケティングとは何か、事例をあげてレポート   を書く。	4時間
	なぜマーケティングが必要なのか、マーケティング活動の 事例からビジネスにおけるマーケティングの全体像を知る。		
第2回	マーケティング・マネージメントの考え方	マーケティング・マネージメントを組み立てて、 レポートを書く。	4時間
	マーケティング・マネージメントの考え方・プロセスを知り、事例をあげマーケティング・マネージメントを組み立 ててみる。		
第3回	ブランドマーケティングについて	ブランドマーケティングの事例をあげ、レポート を書く。	4時間
	ブランドマーケティングについて学ぶ。事例をあげ、その 手法について学ぶ。		
第4回	製品戦略について	企業の製品ミックスを検討し、企業の製品戦略の 特徴について考察して、レポートを書く。	4時間
	マーケティングの製品戦略について学ぶ。		
第5回	価格戦略・チャネル戦略について	価格戦略とチャネル戦略の事例をあげ、レポート を書く。	4時間
	マーケティングの価格戦略とチャネル戦略について学ぶ。		
第6回	プロモーション戦略について	プロモーション戦略の事例をあげ、レポートを書 く。	4時間
	マーケティングのプロモーション戦略について学ぶ。		
第7回	グローバル・マーケティングについて、これからのマーケ ティングについて	グローバル・マーケティングについて事例をあ げ、レポートを書く。	4時間
	グローバル・マーケティングについて学ぶ。また、新しく 注目されているマーケティングについて学ぶ。		
第8回	デジタル・マーケティング、キャラクター・マーケティン グについて	デジタル・マーケティングとキャラクター・マー ケティングについて事例をあげ、レポートを書 く。	4時間
	デジタル・マーケティングやキャラクター・マーケティン グについて学ぶ。		
第9回	マーケティングリサーチ: リサーチの意義、仮説構築	グループワークでマーケティング戦略を考えて、 レポートを書く。	4時間
	グループにより、仮説構築を行いマーケティング戦略を考 える。		
第10回	マーケティングリサーチ:アンケート調査	作成したアンケートを実施する。	4時間
	マーケティング戦略をもとに調査企画書とアンケート項目 を検討する。調査の基本を学び、アンケートを作成する。		
第11回	マーケティングリサーチ:インタピュー調査	作成したインタビュー調査を実施する。	4時間
	アンケート結果を考察し、インタビュー調査の企画書を作 成する。		
第12回	マーケティングリサーチ:アンケート調査、インタビュー 調査結果の考察	結果をもとにグラフを作成し、考察する。	4時間
	アンケート調査・インタビュー調査結果の考察を行い、マーケティング戦略の修正を行う。 マーケティング戦略に適したプロモーション・ツールを考える。		
第13回	マーケティングリサーチ:プロモーション・ツールの作成	発表資料を完成させる。発表の練習をしておく。	4時間
	マーケティング戦略に適したプロモーション・ツールを作 成する。		
第14回	マーケティングリサーチ: プレゼンテーション	課題レポートを作成する。	4時間
	グループごとに、マーケティングリサーチの内容・結果と プロモーション・ツールについて発表する。		

授業科目名	フェースメイク演習				
担当教員名	福西 由美子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	メイクアップアーティストとしてメイクサロン主宰、一般企業向け研修・講座、サロンやカルチャーセンター、イベントにて個人向けメイクレッスン講座、舞台メイクを担当。				

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

本科目では、ファッション表現の専門的な学びの一環として、ファッションスタイルをトータルで表現する為のメイクアップの基礎技術を習得することを目的とする。 まず、メイクのベースとなる皮膚の構造を理解し、スキンケアの重要性を学び、化粧品の目的、役割等の技術を裏付ける基礎的理論を学ぶ。 その後、ファッションイメージを表現するメイクアップ方法を、カラー・デザイン・テクスチャーの面から表現できるようになることを本科目の目標とする。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 メイクアップの専門的知識と技術を学ぶ。

ファッションのテイスト、シーンを理解し ファッションとメイクのトータルコーディネー トを完成させる為の表現力を身につける。 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

2. DP5. 計画・立案力

学んだことを、自らの日々のコーディネートや、 学内のファッションショー等で実践することがで

皮膚の構造を理解した上でのスキンケア、メイク アップの理論と技術を理解し実践することができ

ファッションテイスト、目的に応じたメイクアッ プバリエーションの表現ができる。

テーマ設定から方法手段、実施までの計画をプラ ンニングできる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合 評価の基準 授業内課題 各回授業内の実習、ワークシートで評価する。

20 %

20 %

30 %

30 %

各回授業への積極的参加(実践と質問等)や授業態度(受講マナーや私語、スマートフォン等の授業妨げになる場合は減点)を基に総合的に評価する。 受講態度

授業内小レポート 授業内容をふまえた記述 (10点)と図解で的確に示せているか (10点) で評価する。

トータルコーディネイト企画の作品提出と発表で評価する。 定期試験 (発表・作品提出)

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

美容皮膚科学辞典(中央書院) 顔分析鎌田塾(講談社)

## 履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。 本科目は、理論に基づく演習が重要であるため、聴講のみの受講は認めません。 (当日の肌トラブルの場合は例外)

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間:授業の前後場所:授業の教室

備考・注意事項: メールアドレス: fukunishi-y@g. osaka-seikei. ac. jp

<b>性計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	授業概要説明とメイクアップにおける基礎知識	配布資料を通読し、自身の使用備品を確認する。	1時間
	・授業内容の説明、メイクアップに必要な化粧品、道具の 種類、選び方、取り扱いについて等を理解する。		
第2回	皮膚学	資料を通読し、レポートにまとめる。	1時間
	化粧の技術を習得するうえで、肌、皮膚の構造、表皮の役割、ターンオーバーの仕組みを理解し、肌トラブルのメカニズム、紫外線に対する知識を学ぶ。		
第3回	スキンケアの基礎知識	資料を通読し、レポートにまとめる。	1時間
	・スキンケアの役割、スキンケア化粧品の選び方、薬事法 表示数値の読み方を理解し、肌の状況に合わせた適切なス キンケアを身につける。		
第4回	メイクアップの基本テクニック(1)ペースメイク	学んだ技術を、日々実践する。	1時間
	ファンデーションの種類・色選びとつけ方、肌悩みに応じ た化粧品の使い方の基本テクニックを身につける。		
第5回	メイクアップの基本テクニック(2) アイブロウ・メイ ク	ワークシートを使用して描き方をマスターする。	1時間
	基本の眉バランスを理解し、描き方・道具の使い方・テク ニックを学ぶ。		
第6回	メイクアップの基本テクニック(3)アイメイク・チー ク・リップメイク	雑誌等でメイクの配色をリサーチする。	1時間
	顔の骨格理解、アイメイクに必要な名称、アイシャドウ・アイライン・マスカラの塗り方、チーク・ハイライト&ローライトの入れ方、リップの形・基本と応用の塗り方、道具の使い方を学ぶ。		
第7回	メイクアップの基本テクニック(4)トータルメイク(実 技テスト)	苦手なパーツメイクの復習をする。	1時間
	第6回までに学んだ基本テクニックについて規定時間内で スキンケアからフルメイクを行い、仕上がりを確認する。		
第8回	メイクアップのイメージ表現(1) 色の組み合わせと効果	アイメイクを中心とした画像資料を収集する。	1時間
	色彩理論をふまえた配色パターンの理解、塗布する分量と 全体のパランス、デザイン表現をドローイング手法で学ぶ 。		
第9回	メイクアップのイメージ表現(2)イメージのカラー表現	2タイプのファッション・イメージ画像資料を収 集する。	1時間
	ファッションのイメージやテイストを把握し、異なるイメ ージをカラー・質感・デザインでポイントメイクを中心に メイクアップで表現する。		
第10回	メイクアップの応用テクニック(1)光と影 立体表現	モノクロの顔を中心に画像資料を収集する。	1時間
	モノクロ・シネマ時代の女優、フォトジェニックなモデル たちのスチル写真から立体の捉え方から、コスメの種類と 色選定・ラインの引き方・ローライト&ハイライトの入れ 方等、立体表現のテクニックを学ぶ。		
第11回	メイクアップの応用テクニック(2)ステージ・メイク	コレクション情報の画像資料を収集する。	1時間
	デザイナーのコンセプトを表現するファッション・ショウ にフォーカスし、ライティングと発色の関係を解説、フェ イス&ボディのメイクアップ表現を学ぶ。		
第12回	メイクアップの応用テクニック(3)ポートレート撮影	屋外・室内、時間帯別の撮影画像を作成する。	1時間
	スチール撮影における光源の種類とメイクカラーの発色、 ポージングやファッションの選定、撮影に関する基礎知識 の解説、ポートレート撮影に映えるメイクテクニックを学 ぶ。		
第13回	トータルコーディネイト企画(1)プランニング	プラン内容に応じた資料の収集、コスメの検討な ど進ていく。	1時間
	課題のテーマ設定・コンセプトをもとにメイクアップのイメージ、ファッションの選択、小物、撮影場所、背景など 含めたスタイルリング・プランを企画する。		

第14回	トータルコーディネイト企画(2)メイク・リハーサル、 プラン発表の準備	撮影画像のレイアウト、発表に向けて準備を進め る。	1時間
	企画プランに沿って、メイクアップやヘアーメイクのリハーサル、プランをまとめて発表準備を進める。(定期試験課題)		

授業科目名	繊維加工学				
担当教員名	澤田 和也				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

繊維製品には付加価値を高めるために各種の加工が施されている。その加工技術は、我が国のみならず世界各国において目指しい早さで発展しており、現在も進行している。本授業では、そのような繊維加工に関する現在までのさまざまな既存技術について解説を行うと共に、その問題点を考える。さらに、環境問題を含めた将来への課題についても考察できるようになることを目標とする。また、現状の各加工法による効果や、加工剤の分析法についても理解できるようになることを目標とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容: 目標:

繊維加工を施す意義とその効果についての専門 知識を身に付けることができる。 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

繊維材料と加工の可否の関係について、材料の知識を基に推測することのできる専門知識を身に付けることができる

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

現在の繊維加工技術の課題や問題点について考え、どのような解決法が考えられるか、について考察出来る力を身に付けることができ

## 学外連携学修

### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

毎回5点満点として14回実施し、総計を30点満点に換算する。 自己の考えを含めて詳細に記載されている(5点) 講義内容のみから記載されている(3点) 論点が的確ではない。(1点) ミニレポート

30 %

2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して20点×2回の40点満点で評価する。 社会的背景も含めて考察出来ている (20点) 授業内容のみで考察出来ている (20点) 特定テーマに対する課題考察力

40

学期末に繊維加工に関連する知識の理解度についての試験を実施する。筆記だけでなく、プレゼンテーションを含めた総合的な内容の試験とし、30点満点として成績評価に加える。 定期試験

30 %

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

榎本雅穂ら 繊維材料にフォーカスした生活材料学 アイ・ケイコーポレーション その他、各テーマ応じて適宜プリント配布等により紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

繊維加工は現在の衣料品には大なり小なり施されている手段であり、その事実を改めて認識することで今後の快適な衣生活を送れるようになってもらいたい。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

# オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 月曜日(1限)

場所: 生活デザイン第1研究室

**備考・注意事項**: オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

<b>詳</b> 画		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	<b>繊維加工の歴史と概論</b> 繊維加工の目的は何か? 現在と過去の繊維加工の意味合いや、現状の繊維加工に対する概要を初回導入編として解説する。	繊維加工の目的と概念を理解出来るようになる。	4時間
第2回	<b>シルケット加工について</b> マーセライズの意味合いを理解すると共に、そのような加工に至る背景や現代における必要性等について解説する。	絹と綿の構造上の違いを理解出来るようになる。	4時間
第3回	樹脂加工について さまざまな種類の樹脂加工について紹介し、繊維製品のみならずプラスチックに応用されている技術について紹介す	樹脂の種類や加工前後に人が感じる感性的な相違 について理解する。	4時間
第4回	る。	日常生活において使用している形態安定加工製品の特徴を見つける	4時間
第5回	工との相違について説明する。 難燃加工について 防炎・難燃・不燃について法的規制の現状も踏まえて、そ の手段を含めた内容について解説する。	身の回りに存在する、防炎・難燃・不燃材料の違いを理解出来るようになる。	4時間
第6回	防縮加工について  従来羊毛を対象中心として施されてきた防縮加工の現状に ついて、そのメカニズムと実際の相違について解説しなが ら、環境・安全を考えた加工法について解説する。	洗濯時における防縮剤の役割と製品前の加工の役割の差が理解できるようになる。	4時間
第7回	プリーツ加工について 古くから存在するプリーツ加工について、繊維ごとの適性や取扱いについて解説する。	市販のプリーツ加工製品がどのようなの手段により加工されたかについて、理解出来るようになる。	4時間
第8回	防虫加工について 薬剤による防虫と繊維製品そのものに対する防虫機能付与 の違いや持続性について解説し、健康との関連性について 述べる。	家庭における防虫剤の種類と繊維への影響を理解 出来るようになる。	4時間
第9回	<b>減量加工について</b> 繊維の種類によって手段の異なる減量加工の相違と、それ を施す意味合いや必要性について解説する。	減量加工することにより得られる長所と短所が理解出来るようになる。	4時間
第10回	*電防止加工について 「静電気発生の防止のため」、と捉えられがちなこの加工 法について、実際の用途や加工手段の多様性について解説 する。	日常生活で可能な簡便な帯電防止の知恵について 理解出来るようになる。	4時間
第11回	表面親水化加工について 本来親水性を持たない種類の繊維表面にこの加工を施すことによるメリットやデメリットについて解説し、この加工 法の意味合いを考える。	撥水・防水・吸水・吸湿のキーワードについて理 解出来るようになる。	4時間
第12回	抗菌・防力ビ加工について さまざまな繊維製品に応用されるようになったこの加工法 について、その手段だけでなく、混同しがちな目的の相違 について解説する。	SEKマークについて理解出来るようになる。	4時間
第13回	その他の加工、繊維加工と安全性について 前回までのメインテーマでは解説出来ていない他の加工法 について網羅的に解説する。	今回の授業にて得られた知識により、今まで気付いていなかった加工が身の回りにたくさん存在していることを理解出来るようになる。	4時間
第14回	加工剤の分析法について	衣料管理士資格を活かして将来検査機関等で実際 に自身が分析に携わるということを前提に、どの ような検査方法があるかを理解出来るようにな る。	4時間
弗14凹 —————	加工和の方析法について 試験機関等において実際に行われている分析方法について 、衣料管理士として理解しておくべき事項を総合的に解説 する。	に自身が分析に携わるということを前提に、どの   ような検査方法があるかを理解出来るようにな	

授業科目名	ファッション文化論				
担当教員名	百々 徹				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教 員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	神戸ファッション美術館学芸員として、企画・展示・保存・教育普及に従事 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科ファッションデザインコース教員として勤務				

開放科目の指示:「不可」

### 授業概要

サスティナビリティ、インクルージョン、ダイバーシティ、フェアトレード、ジェンダーレスなど、ファッションを取り巻く環境の変化は著しく、また抱える問題も山積で複雑です。19世紀後半につくりあげられたファッションという仕組みは、21世紀になって地球規模の問題系へと変化してきました。そしていま、私たちはその大きな過渡期にいるのです。この授業では、ファッションの現在や近い将来を展望するような映像を数多く見ながら、私たちがいまどのような時代に生きているのか、そしてこれからどのような時代に生きていくことになるのかを、学んでいきます。

目標:

様々な知識をもとに、ファッションとそれを成り 立たせている社会の仕組みについて理解できる

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性 具体的内容:

ファッションだけでなく幅広い社会の仕組みや デザインに関する知識を得る 1. DP1. 幅広い教養やスキル

ファッション業界で働くために必要な基礎的知識 を学び、将来的に自ら考え、活用していけるよう になる。 ファッションのデザインと衣服の役割に関する 2. DP2. 専門的知識·技能、職業理解

汎用的な力

様々な資料や知識をもとにして、現代のファッション業界が抱える課題や問題を発見し、それに対する自らの見解や方向性を持てるようになる。 1. DP4. 課題発見

### 学外連携学修

無し

### 授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ 放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合 評価の基準

毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。 毎回の小課題

40 %

授業終了後の定期試験期間内に期末試験をおこない、時間内に論述問題に記述してもらいます。それを採点し、評価をおこないます。

### 使用教科書

期末試験

特に指定しない

### 参考文献等

『ファッションの仕事で世界を変える』白木夏子 ちくまプリマー文庫 『モード後の世界』栗野宏文 扶桑社 『ファッションの哲学』井上雅人 ミネルヴァ書房

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間: 水曜お昼休み

場所: 生活デザイン第2研究室

场门:	生佰ノリイン第2年九至		
<b>Ě計画</b>		学修課題	授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	ポストコロナ時代のファッションのゆくえ  2019年に国連貿易開発会議はファッション産業を石油関連産業に次ぐ世界第2位の環境汚染産業だと指摘した。SDGsへの取り組みは、もはや不可避である。また、昨今では、サスティナビリティだけではなく、インクルージョン、ダイバーシティ、ジェンダーレスなど様々な問題群がファッションの世界に渦巻いている。さらにはITやバイオなどの新たなテクノロジーも、ファッションと関わってきている。まずは導入として、ファッション問題の現在にアプローチする。	独自の研究ノートをつくり、授業で聴いたことを 軸にして、自らの学びをまとめる	4時間
第2回	21世紀ファッションの現在 ファッション情報の最前線をこれまでコンスタントに発信してきたBSテレ東の番組『ファッション通信』。その番組の中から、コロナ禍によるファッション業界の変化に関する回を視聴しながら、その問題点と可能性について学んでいく。	コロナ禍におけるファッション業界の現状を調査 し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第3回	ファッションにおけるSNSの可能性  東欧やロシア出身のファッション・インフルエンサーの事例をSNSが彼女らの人生にどのようなポジティブな影響を与えたかを紹介する。そのうえで、SNSの正しい活用方法とその可能性について学んでいきます。	SNSの昨今の実態を調査し、その内容を研究ノート にまとめる	4時間
第4回	理想のモデルの多様性について  子供のころに尋常性白斑に罹り皮膚にダメージを追ってしまったウィニー・ハーロウは、不屈のがんばりでトップクラスのファッションモデルとなる。彼女のように、これまでの美の基準では測れない多様な美の特質を持ったファッションモデルが台頭してきている昨今の状況を、さまざまな紹介映像で学んでいく。	ファッションモデルに関連するファッション業界 の現状を調査し、その内容を研究ノートにまとめ る	4時間
第 5 回	サスティナビリティという課題 サスティナビリティは日本語で「持続可能性」のことを指す。2019年の国連機関の指摘を受けて、同年「パリ協定」も結ばれ、ファッション業界はもはやサスティナビリティを抜きにして、ビジネスが難しくなっている。では、そのサスティナビリティの取り組みとはどのようなものだろうか。NHKの番組を見ながら、ファッションのサスティナビリティの最先端事例を紹介する。	ファッション業界におけるサスティナビリティの 現状を調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第6回	ファッションは若者だけの特権か?  ニューヨークのはつらつとしたお洒落マダムたちを紹介するサイト「アドバンスト・スタイル」。そこに紹介されているマダムたちは、年齢などみじんも気にせず、いくつになってもお洒落を生涯現役で楽しんでいる。そんな彼女らの日々を追いかけた映画を見ながら、年齢と装いについて、今一度考えてみる。	ファッションと年齢に関する日本と海外の現状を 調査し、その内容を研究ノートにまとめる	4時間
第7回	オートクチュールの世界  20世紀を代表する有名メゾン、シャネル。数々の作品を生み出し世の女性たちを虜にしてきたシャネルの工房を追った『サイン・シャネル』というドキュメンタリーを見る。まずは、長年シャネルの美しいドレスを作り出してきた故カール・ラガーフェルドが、デザインを発送し、工房のお針子たちがトワルを作っていく過程を紹介する	オートクチュールとは何かを調査し、その内容を 研究ノートにまとめる	4時間
第8回	<b>皇帝カール・ラガーフェルド</b> 前週に引き続き『サイン・シャネル』後半を見る。ドレスをつくるために日夜努力を続けるお針子たち、アイデアが次々とあふれ出るラガーフェルド、そして迫りくるショーの本番。その差し迫ってくる様子と、そこで奮闘するお針子たちの姿、さらに華やかなファッションショーの裏側でいかなる努力が数多く積み重ねられているかを、紹介していく。	シャネルの工房に関して調査し、その内容を研究 ノートにまとめる	4時間
第 9 回	平和のためのファッション  長年にわたって内戦が続いたせいで、いまだに多くの貧困層が暮らすコンゴ共和国。そんなコンゴで、サブールと呼ばれる男たちがいる。彼らは安い賃金から何年もお金を貯め、お洒落なブランド服を買い、週末にそれで装って、村中をそぞろ歩く。村人たちはそんな彼らをかっこいいと眺め、子供たちも彼らの存在にあこがれる。彼らは銃を持つ代わりにヌテッキを持ち、軍靴の代わりに磨き上げた革靴を履く。そんな平和への願いを込めたサブールの装いから、ファッションの一つの可能性を見ていく。	サプールの現状を調査し、その内容を研究ノート にまとめる	4時間

第10回	あなたの人生に必要なもの	最近のファッションの消費の動向を調査し、その 内容を研究ノートにまとめる	4時間
	映画『365日のシンプルライフ』を見ながら、物のあふれかえったこの時代にあって、本当に私たちに必要なものについて考えてみる。ファッションというシステムは、まだ着られるものを時代遅れだからと着させなくして、買い替えさせる仕組みである。あれもこれもと買わされる割には、本当に着たいものが手元になかったりもする。そんな現代社会における、衣服の供給と需要、そして人の幸せについて考えてみる。		
第11回	ファッションの祭典の効能	メットガラの実態を調査し、その内容を研究ノー トにまとめる	4時間
	毎年、メトロポリタン美術館を会場に華やかに開催されるファッションの祭典「メットガラ」。そのメットガラのドキュメンタリーを見ながら、なぜそんなパーティーが必要なのかを、その背景にある文化施設の維持管理コストの問題や、パーティーを開催することの効能について紹介する。またファッションの展覧会の開催に至るまでの過程も、元ファッション美術館の学芸員による実体験に基づく解説をしていく。		
第12回	ファッションと天才	自らがこの人は天才だと思うデザイナーを挙げ て、その調査内容を研究ノートにまとめること	4時間
	ファッション界でひときわ異彩を放ち40歳で惜しくも自ら命を絶った鬼才アレキサンダー・マックィーン。彼の生前のクリエイションの数々とその衝撃ぶりを伝えるドキュメンタリーを見ながら、ファッションの先端を切り開くモード・クリエイターという存在について学んでいく。		
第13回	これからのファッション世界、その展望と可能性	リサイクルやアップサイクルなどの資源の有効活 用について、調査しその内容をまとめる	4時間
	ファッション通信の特集「ミライヲ ツクル チカラ」を見ながら、最近の若手デザイナーたちの新たな取り組みを紹介し、そこに垣間見える未来のファッションを切り開いていく力について考えていく。また最近のバイオテクノロジーやインフォメーションテクノロジーの現状と、ファッションとの融合が示す未来の可能性についても学んでいく。		
第14回	きみたちはどう生きるか?	まとめと確認の回を受けるにあたって、事前に自 筆ノートの整理を準備しておくこと	4時間
	ファッションを取り巻く環境も、ビジネスのあり方も、人 の生き方も大きく変わっていくこれからの社会の中で、よ りたくましく、よりハッピーに生きていくためには、どの ような考え方をしていけばよいのか。そのためにファッションにいったい何ができるのか。皆の意見を拾いながら、 探っていく。		